

「総合的な放課後対策推進のための調査研究」 (コーディネーター等の資質向上方策)

報告書ダイジェスト

「放課後子ども教室」の魅力を強化し、地域の参加を促すコーディネーターの増加のために

2008.2 株式会社 開発計画研究所

本調査研究の目的

「コーディネーター等の資質向上方策」についての本調査研究は、以下のような目的で実施しました。

先進的事例と「地域子ども教室推進事業」を契機に全児童放課後対策促進に努める意欲的事例を抽出し、これらの研修プログラムと研修効果を客観的に比較、評価できる形で整理する。

各事例の活動を牽引するモデルコーディネーターに着目して、「放課後子ども教室」の価値創造(魅力と地域理解形成)に好影響を及ぼしているパーソナリティとキャリア形成過程を整理する。

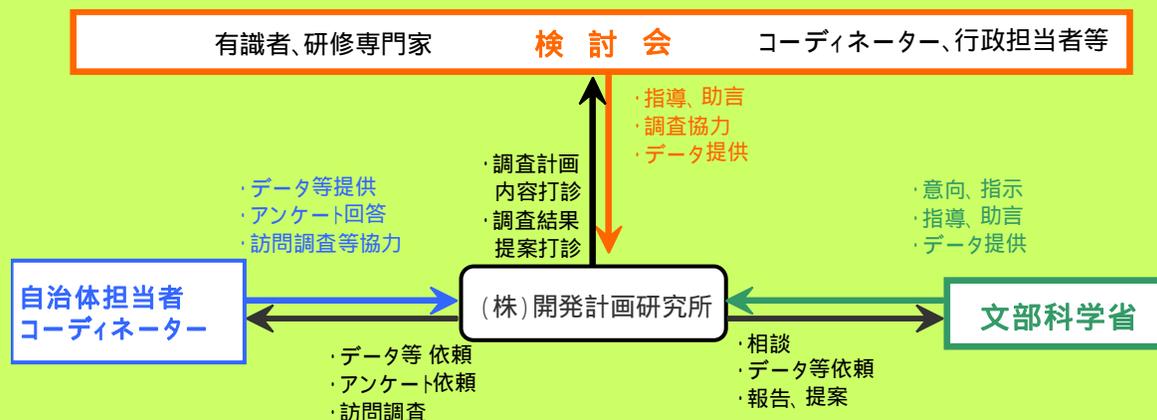
これらをもとに、「放課後子ども教室」の魅力を強化し、地域の理解を拓げるコーディネーターを増加させるための人材確保や研修のあり方を提案する。

本調査研究の実施体制

本調査研究は、下のように、文部科学省との協議の上で調査対象と調査内容を検討し、検討会に諮った上で決定して、自治体対象とコーディネーター対象のアンケート調査、訪問ヒアリング調査(ケーススタディ)を実施しました。

この結果をもとに、教室の実施状況、コーディネーターの確保及び研修実施状況、コーディネーターの活動状況や意識、研修に対する要望や提案をとりまとめて検討会で指導、助言を得ました。

以上の結果を総括して、コーディネーター研修のあり方を検討、提案しました。



結果と提案

- 1 . 都道府県でのコーディネーターの役割認識

アンケート調査(配布47、回収39:83.0%)、ヒアリング調査(4県)等により、都道府県によるコーディネーターの役割についての認識や、研修の実施状況を把握しました。

都道府県の方々が思う以上に、コーディネーターは多くの役割をこなしているようです。

都道府県では、市町村の認識に比べて、コーディネーターの役割を、教室対応以外の外部の人や機関との連携・調整役と限定的に捉える傾向にあることがわかりました。

市区町村では、保護者対応や教室運営に関わる文書作成なども、コーディネーターが主担当とする割合が都道府県よりも高くなっています。

コーディネーターの役割についての認識 (都道府県調査と市区町村調査の比較)		コーディネーターが主担当		コーディネーター以外のスタッフが主		コーディネーターも他スタッフも同等		教育委員会等行政が主担当	
		都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村	都道府県	市区町村
行政対応	行政、学校等への連絡・報告文書作成	41.0%	49.1%	5.1%	21.8%	7.7%	14.5%	38.5%	23.6%
	行政との折衝	38.5%	45.5%	0.0%	5.5%	12.8%	9.1%	38.5%	45.5%
地域対応	地域の方への協力依頼、動員要請	41.0%	43.6%	0.0%	9.1%	15.4%	20.0%	35.9%	27.3%
行政対応	行政、学校等への提案・要望文書作成	38.5%	43.6%	2.6%	12.7%	10.3%	16.4%	40.9%	29.1%
保護者対応	保護者への日常的な連絡・報告文書作成	20.5%	38.2%	20.5%	40.0%	30.8%	16.4%	20.5%	14.5%
学校対応	学校との折衝、協力依頼	30.8%	38.2%	0.0%	7.3%	2.6%	9.1%	58.9%	50.9%
保護者対応	教室への児童の登録呼びかけ文書作成	33.3%	34.5%	7.7%	23.6%	7.7%	14.5%	41.0%	38.2%
	保護者、地域等への教室への理解、協力呼びかけ文書作成	20.5%	34.5%	0.0%	12.7%	12.8%	14.5%	56.4%	41.8%
	保護者からの要望、苦情への対応	10.3%	30.9%	5.1%	12.7%	35.9%	25.5%	41.0%	40.0%
教室内対応	子ども向けの教室掲示物や文書作成	20.5%	29.1%	38.4%	34.5%	23.1%	34.5%	10.3%	10.9%
	教室活動の日常的な記録文書作成	15.4%	21.8%	46.2%	61.8%	25.6%	21.8%	5.1%	3.6%
保護者対応	保護者への日常的な対応、連絡	15.4%	20.0%	35.9%	47.3%	33.3%	36.4%	7.7%	5.5%
教室内対応	子どもの遊びや体験活動の日常的対応	5.1%	5.5%	51.3%	47.3%	33.3%	54.5%	2.6%	3.6%
	子どもへのしつけやよまりの徹底	0.0%	5.5%	48.7%	50.9%	38.5%	52.7%	5.1%	1.8%
	子どもへの学習支援の日常的対応	2.6%	3.6%	61.5%	56.4%	23.1%	34.5%	5.1%	1.8%
	安全管理	2.6%	1.8%	56.4%	58.2%	28.2%	49.1%	5.1%	1.8%

都道府県の研修では、20時間程を確保し市区町村では実施しにくい研修に取組む例もあります。

都道府県による研修の時間数は、年間に4～8時間が多くを占めますが、2割弱の都道府県では15～20時間程の研修時間を確保しています。

研修内容については、「放課後対策概論」「放課後教室実践例」「安全管理」等が取り上げられることが多く、市区町村では実施例が比較的少ない「地域人材確保」「青少年論」「子育て論」等の研修を、都道府県では実施する例も比較的多いことがわかりました。

都道府県で実施されている研修プログラム(概要)の一例		所在地方ブロック	関東A県	四国B県	九州C県	南西D県	北海道E道	東北F県	近畿G県	中国H県	中国I県
		研修時間と回数	12h 3h x 4	15h * 3h x 5	8h 4h x 2	5h 2.5h x 2	20h 10h x 2	15.5h 10.5h+5h	18h 6h x 3	18h 2h, 4h x 5	12h 6h x 2
教室内対応	けがや事故への応急処置	演習	実習			講義	演習		講義		講義
	子どもの安全管理と防犯対策	演習		講義		講義	演習		講義		講義
	遊びや体験活動の技術						演習		演習		
	市区町村内での教室実践例	演習	講義	その他	演習	その他			演習	講義	演習
	活動プログラムの立案・作成							演習	演習		
	子どもへの接し方や叱り方	演習	講義			講義	演習	演習			演習
	障害や要配慮児童理解や対応						講義		その他		講義
様々な地域の教室取組み事例	講義	講義	講義	講義	講義	講義	演習	講義		講義	
基礎知識	放課後対策に関する概論	講義	講義	講義		講義	講義	講義	講義	講義	講義
	青少年の現状や心理など概論				講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義
教室内対応	人権について					演習					
	子育ての現状など概論		講義			講義	講義	講義		講義	講義
基礎知識	ボランティア活動に関する概論	講義				講義		講義	講義		
行政対応	事務処理、経理・労務管理					講義		その他			
行政 保護者	広報等の文書作成、プレゼン					演習					その他
教室内対応	いじめの発見、対応					講義					
地域対応	地域人材の確保策	講義	演習	講義		講義	演習	その他	講義	演習	
保護者 地域	コミュニケーションや対人スキル					講義					演習
基礎知識	生涯学習や社会教育概論					講義					
地域対応	体験活動フィールドや受入施設					講義					

- 2. 市区町村でのコーディネーターの役割認識、確保状況、研修実施状況

アンケート調査(配布110、回収86:78.2%)、ヒアリング調査(15市区町村)等により、市区町村による放課後子ども教室の実施状況、コーディネーターの役割についての認識や、コーディネーターの確保状況、研修の実施状況などを把握しました。

全校実施は1/3強で、コーディネーターが確保できていない市区町村も約2割あります。

放課後子ども教室を「全小学校区で実施している」市区町村は36.0%で、「実施していない」市区町村も8.1%ありました。

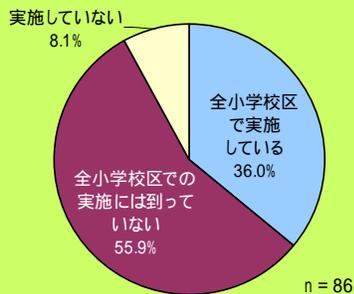
「コーディネーターはいない」という市区町村が19.8%ありました。

一方で「モデル的なコーディネーターがいる」という市区町村が14.5%でした。

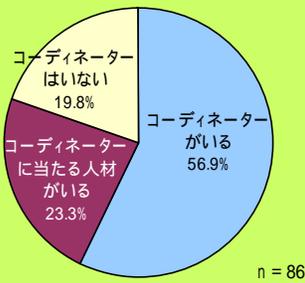
自市区町村で研修を実施している市区町村は27.9%でした。

研修内容は、教室内対応の実施例が多いのですが、下表のように、「事務処理」「文書・プレゼンテーション」「地域人材動員」「コミュニケーション」など、教室内対応・子ども対応に留まらない研修を実施している市区町村もありました。

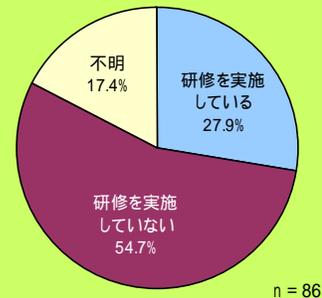
「放課後子ども教室」の実施状況



コーディネーターの確保状況



コーディネーター研修の実施状況



市区町村で実施されている研修プログラム(概要)の一例	所在都道府県	北海道A市	東京都B区	東京都C区	神奈川県D市		岐阜県E市	愛知県F市	奈良県G市	鳥根県H市
	研修時間と回数	4h 2h x 2回	10h程度 2h x 数回	50h程度 1.5h、2h x 28回	181h 計181h:27回	40h程度 約2h x 20回	4h 2h x 2回	5h 2h、3h x 2回	4h 2h x 2回	20h 2h x 10回
教室内対応	けがや事故への応急処置	講義	講 演習	講 見学	講 演習	講 演習	講義	講義	実習	講義
	子どもの安全管理と防犯対策	講義	講義	講義	講 実習	講義	講義	講義	講義	講義
	遊びや体験活動の技術			演習	講 実習		実習		その他	講 実習
	自市区町村内での教室実践例				講義		講義	講義	その他	講 実習
	活動プログラムの立案・作成	演習			講 実習		演習	講義	その他	講義
	子どもへの接し方や叱り方			講義	講 実習	講義			その他	実習
	障害や要配慮児童理解や対応		講義		講 実習	講 実習	講義		その他	講義
様々な地域の教室取り組み事例				講義		講義		その他	講義	
基礎知識	放課後対策に関する概論	講義			講義	講義		講義	講義	
	青少年の現状や心理など概論		講義		講義	講義	講義		講義	講義
教室内対応	人権について			講義	講義				講義	
基礎知識	子育ての現状など概論				講義		講義		その他	講義
	ボランティア活動に関する概論				講義	講義	講義		講義	講 演習
行政対応	事務処理、経理・労務管理	講義			講義	講 実習	演習	講義	その他	
行政 保護者	広報等の文書作成、プレゼン	講義			演習	演習	講義	講義	その他	
教室内対応	いじめの発見、対応				講義		講義		その他	講 演習
地域対応	地域人材の確保策				講義	講義		講義	その他	
保護者 地域	コミュニケーションや対人スキル		講義		演習		実習		講義	
基礎知識	生涯学習や社会教育概論				講義				講義	講 演習
地域対応	体験活動フィールドや受入施設				実習				講義	

- 3 - 1) .コーディネーターの属性、経歴、教室や社会等への関わり方

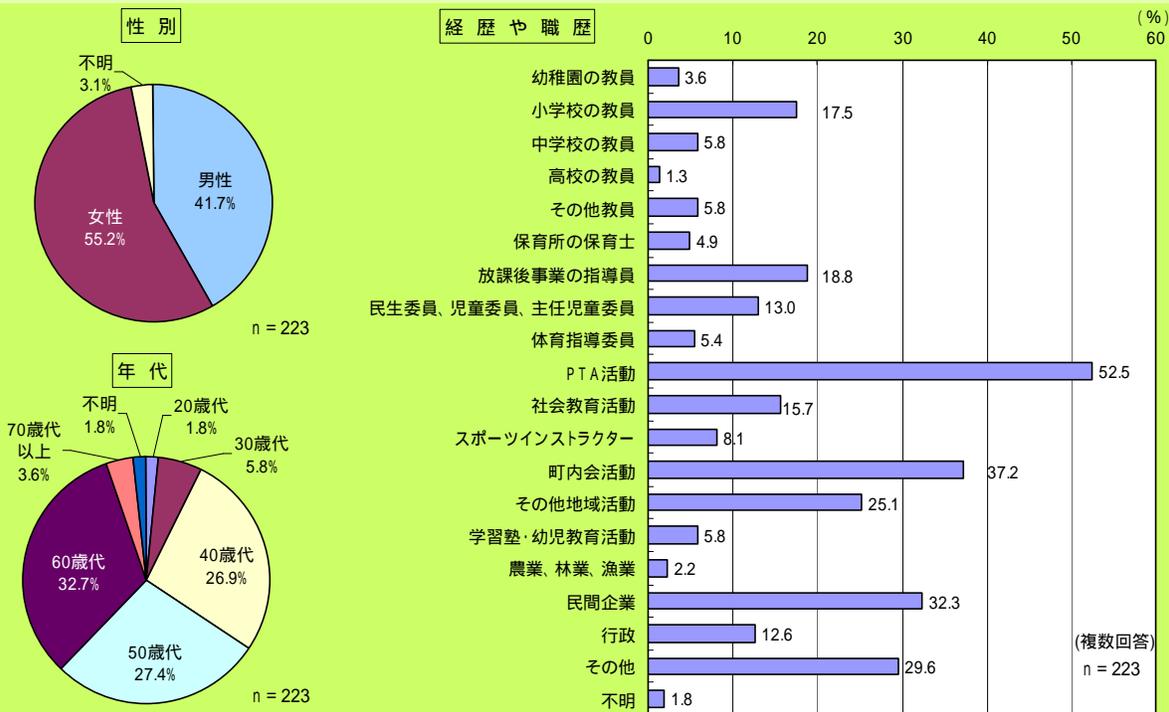
アンケート調査(配布399、回収223:55.9%)、ヒアリング調査(9人)等により、コーディネーターの属性や経歴、職歴等のキャリア、コーディネーターとしての役割認識、コーディネーターに必要なと思われる資質や能力と自身での保有状況、受講した研修内容、充実や新設を希望する研修内容等を把握しました。

PTA経験のあるコーディネーターが半数を超え、全体の約1割の方がマルチに活動しています。

属性では女性が55%と多いこと、年代は40、50、60歳代がそれぞれ約3割であることが把握できました。

経歴・職歴では、PTA活動経験者が半数を越え、町内会活動経験者が37.2%、民間企業経験者が32.3%で、教員経験者は1/3程度でした(幼稚園、小学校、中学校、高校、その他教員の合計)。

コーディネーターとしての役割の認識について、関わり方の基本スタンスとして、「直接的な教室運営」に関わっている方が73.5%、「学校、地域、行政との連携、調整」に関わっている方が44.4%、「国・県、民間企業等まで」、より広くマルチに関わっている方は9.4%でした。



No.	コーディネーターとしての役割認識 (関わり方の基本スタンス)	行政からの期待		自身の実際		自身の希望		
		n	%	n	%	n	%	
1	「直接的な教室運営」への関わり 教室(放課後子ども教室等)の運営が主要業務で、子ども、保護者、自教室スタッフ、行政担当者等への対応が主である。	Yes	92	41.3	164	73.5	78	35.0
		No	131	58.7	59	26.5	145	65.0
2	「学校、地域、行政との連携、調整」に関わり 教室、学校と地域や行政との連携や調整が主要業務で、地域の人々や担当以外の行政関係者、複数の教室のスタッフ、学校関係者等への対応も行なう。	Yes	78	35.0	99	44.4	51	22.9
		No	145	65.0	124	55.6	172	77.1
3	「国・県、民間企業等まで」に関わり 教室運営に留まらずに、国・都道府県等行政や民間企業、他地域の教室、行政等の状況も意識して連携できるものは連携するなど、総合的な放課後対策全般の企画、運営にも関わる。	Yes	57	25.6	21	9.4	36	16.1
		No	166	74.4	202	90.6	187	83.9
4	「放課後教室」と「児童クラブ」との連携に関わり 「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携や調整にも関わる。	Yes	63	28.3	52	23.3	42	18.8
		No	160	71.7	171	76.7	181	81.2
5	上のいずれでもない関わり方	Yes	8	3.6	6	2.7	8	3.6
		No	215	96.4	217	97.3	215	96.4
6	わからない	Yes	10	4.5	4	1.8	5	2.2
		No	213	95.5	219	98.2	218	97.8

- 3 - 2) .コーディネーター自身の役割認識、必要だと思う資質

行政担当者が思う以上に、コーディネーターは多くの役割を背負いこんでいるようです。

具体的な業務では、直接的な教室内対応業務をコーディネーターの主担当とする割合は低いのですが、関係者への文書作成、関係各機関との連携・調整など、市区町村や都道府県で認識している以上の多くの業務を、コーディネーター自身は、自らが主担当の業務と認識しています。

コーディネーター調査と市区町村、都道府県調査との比較		「コーディネーターが主担当」とする割合		
		コーディネーターの回答	市区町村	都道府県
学校対応	学校との折衝、協力依頼	77.1%	38.2%	36.4%
行政対応	行政、学校等への連絡・報告文書作成	66.8%	49.1%	36.4%
地域対応	地域の方への協力依頼、動員要請	63.2%	43.6%	39.3%
保護者対応	保護者からの要望、苦情への対応	62.7%	30.9%	9.1%
保護者対応	保護者への日常的な連絡・報告文書作成	59.2%	38.2%	18.2%
行政対応	行政との折衝	57.0%	45.5%	33.3%
保護者対応	保護者、地域等への教室への理解、協力呼びかけ文書作成	57.0%	34.5%	18.2%
行政対応	行政、学校等への提案・要望文書作成	54.3%	43.6%	33.3%
保護者対応	放課後教室等への児童の登録・参加呼びかけ文書作成	51.6%	34.5%	27.3%
教室内対応	子ども向けの教室内掲示物や文書作成	46.6%	29.1%	21.2%
行政対応	「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携、調整	44.4%		
保護者対応	保護者への日常的な対応、連絡	43.9%	20.0%	6.1%
教室内対応	教室活動の日常的な記録文書作成	42.6%	21.8%	9.1%
	安全管理	25.6%	1.8%	3.0%
	子どもへのしつけやきまりの徹底	19.7%	5.5%	0.0%
	子どもの遊びや体験活動の日常的対応	17.9%	5.5%	6.1%
	子どもへの学習支援の日常的対応	11.2%	3.6%	3.0%

問題認識・処理に加え、社会の中での信頼・魅力や自己主張など「人間力」が求められるようです。

「コーディネーターとして必要だと思う」上位(~)は、教室を「無事に維持する」(極力問題が出ないようにし、問題が起きたら誠実に対応する)上で必要な資質のようです。

中位(、 、)は、「問題、改善点などを洗い出しながらよりよくしていく」という傾向の資質です。

下位(~)は、自己の主張やビジョンを明確に示して、スタッフの本音も引き出しながら、教室に留まらず「総合的な放課後対策全般を改善、創造」していくという傾向の、かなり高度な資質といえそうです。

「自分自身に備わっていると思う」に注目すると、「1全体を調整しまとめる」「1クレーム、トラブルを冷静に受け止める」など受動傾向の資質については、備わっているとの自己評価が高くなっていますが、「7メンバー個々の個性引き出し」「8地域からの動員」など、能動傾向の資質については、必要であるとは分かっていながら、自己評価はやや低めになっています。

コーディネーターとして必要だと思う資質、能力及びそれらが自分自身に備わっていると思うか		コーディネーターとして必要だと思う		自分自身に備わっていると思う		
		n	%	n	%	
教室を守る	問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる資質	179	80.3	3	111	49.8
	事業に関わるメンバー個々の意見や要望を踏まえながら、調整して全体をうまくまとめられる資質	175	78.5	1	114	51.1
	クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質	174	78.0	1	114	51.1
	的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論	169	75.8	3	111	49.8
	事業に関わるメンバー個々の個性や持ち味を引き出して教室運営などに活かすことのできる資質	152	68.2	7	86	38.6
	メンバー以外の地域の人々にも呼びかけ、協力を依頼して教室運営などに活かすことのできる資質	152	68.2	8	85	38.1
	利用者や顧客(教室では子どもや保護者)の立場からも考えられる資質	150	67.3	5	98	43.9
	記録・報告文書や経理・集計表などをまとめる能力	137	61.4	9	82	36.8
教室をよりよくする	相手の本音や悩みを引き出ししたり、話し易い雰囲気のできる資質	134	60.1	6	93	41.7
	自分の意見、主張やお願いを相手に的確に伝えられる資質	130	58.3		76	34.1
	ビジョンやあり方に照らして、定期的に問題や課題を認識して、改善を加えていける資質	129	57.8		65	29.1
放課後対策を創造する	事業や活動のビジョン(「放課後子ども教室」のあり方等)を示す資質	125	56.1		43	19.3
	事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞く資質	123	55.2		76	34.1
	事業に関わるメンバーの心構えなど組織としてのあり方を示す資質	117	52.5		62	27.8
	アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成する能力	97	43.5		50	22.4

4. 放課後子どもプランの全国への普及を推進するための研修のあり方の提案

コーディネーター研修のあり方についての検討のための主要データ

研修のあり方の提案にあたり、次の二つのデータを主に分析と検討を行いました。

A. データa: 実施例のある研修に対するコーディネーターの「研修充実・新設ニーズ」

- ・実施例のある研修項目について、コーディネーターに「充実あるいは新設の必要性」を尋ねた結果をもとに、研修のあり方を分析、検討しました。

B. データb: 「コーディネーターに必要な資質」と「コーディネーター自身の保有認識」

- ・「コーディネーターとして必要と思われる資質」とこれらの資質について「コーディネーター自身が備えているか否か(保有認識)」を比較し、この結果をもとに、一般的な研修としては取り上げにくい、コーディネーターの資質向上において重視されるべき項目を整理しました。

コーディネーター研修のあり方についての検討のための切り口

研修のあり方の提案にあたり、次の二つのクロス集計を主に分析と検討を行いました。

A. クロスa: コーディネートタイプ別クロス(教室及び放課後対策への関わり方でタイプ分け)

「放課後子ども教室」への関わり方の基本スタンスを尋ねた結果をもとに、以下のようにコーディネートタイプを類型化しました。

タイプ1 【該当 94名】: 教室を守るコーディネート

- ・「直接的な教室運営」に関わり、タイプ2,3,4のコーディネートには関わっていない

タイプ2 【該当 85名】: 教室をよりよくするコーディネート

- ・「学校、地域、行政との連携、調整」にも関わり、タイプ3,4のコーディネートには関わっていない

タイプ3 【該当 20名】: 教室を越えるコーディネート

- ・「教室間の連携や国・県、民間企業等まで」関わる

タイプ4 【該当 2名】: 「放課後教室」と「児童クラブ」連携をコーディネート

- ・「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携、調整のみに関わる

B. クロスb: 主要キャリア別クロス(放課後教室参画以前の主要経歴、職歴で類型化)

「放課後子ども教室」等に関わり以前の経歴や職歴を尋ねた結果をもとに、以下のように主要キャリアタイプを類型化しました。

教員経験者 【該当 63名】

- ・幼稚園、小学校、中学校、高校の教員とその他教員の経験者。他のキャリアの有無に関係なく、教員経験を優先。

保育士経験者 【該当 7名】

- ・保育士の経験者。教員経験がある場合はそちらを優先。教員以外のキャリアでは保育士経験を優先。

放課後指導員経験者 【該当 27名】

- ・「児童クラブ」や「地域子ども教室」等の経験者。教員経験、保育士経験以外はこのキャリアを優先。

民間企業経験者 【該当 52名】

- ・「民間企業」の経験者。教員経験、保育士、放課後指導員経験以外はこのキャリアを優先。

P T A 経験者 【該当 43名】

- ・「P T A 活動」の経験者で、上記のいずれの経験もない方。

- 4 - 1) . コーディネーターの「研修充実・新設ニーズ」をもとにした分析、提案

教員経験者の場合

- ・タイプ1の関わり方に対しては経験豊富ですが、安全管理や子育ての今に対して研修ニーズがあります。タイプ2への関わりでは「学校」とは違う「放課後なり」の子どもへの接し方、プログラム立案が、タイプ3にも関わる際は、コミュニケーションや対人スキルを磨くことも必要になります。

保育士、放課後指導員経験者の場合

- ・タイプ1への対応では教員経験者と同様に、子育ての今へのニーズがあります(保育士については安全管理も)。タイプ2では「放課後なり」のプログラム立案、タイプ3では、地域人材確保やコミュニケーション、対人スキルのほか、子どもとや距離ができるため、いじめサイン理解なども必要となります。

民間企業経験者の場合

- ・タイプ1・2では、子どもや地域との関わり方の薄さを埋める研修が必要です。タイプ3は、地域人材との関わりさえできれば最も得意とするところです。

PTA経験者の場合

- ・親としての子どもへの関わりから、PTAを経て地域の子どもへの放課後にも関わるようになった方達で、子どもや地域について最も身近であり、日々の活動について理論的、体系的に補強されれば、より一層の活躍が期待されます。

【主要キャリア別タイプ内訳】

- <教員経験者> タイプ1が半数強
- <保育士経験者> タイプ1と2が同数
- <放課後経験者> タイプ2多く、3も比率高い
- <民間経験者> タイプ1が半数
- <PTA経験者> タイプ1と2が同数

	合計	教員経験者	保育士経験者	放課後経験者	民間経験者	PTA経験者
全体	175	52	7	27	48	41
	100	100	100	100	100	100
タイプ1	83	27	3	10	24	19
	47.4	51.9	42.8	37.0	50.0	46.3
タイプ2	73	18	3	13	20	19
	41.7	34.6	42.9	48.1	41.7	46.3
タイプ3	17	6	1	4	4	2
	9.7	11.5	14.3	14.8	8.3	4.9
タイプ4	2	1	0	0	0	1
	1.1	1.9	0.0	0.0	0.0	2.4

研修充実・新設ニーズ	教員経験者	保育士経験者	放課後指導員経験者	民間企業経験者	PTA経験者
タイプ1 教室を守る	様々な教室実践例				
	障害や要配慮児童への理解や対応			障害や要配慮児童への理解や対応	
	子育ての現状など概論				
	子どもの安全管理と防犯対策			子どもの安全管理と防犯対策	
タイプ2 教室をよくする	遊びや体験活動の技術				
	子どもへの接し方、叱り方			子どもへの接し方、叱り方	
	放課後教室の特徴を活かす活動プログラム立案				
タイプ3 教室を越える	地域人材の確保				
	いじめの発見、対応			いじめの発見、対応	
	より多彩な人材を動員するコミュニケーションや対人関係スキル				

研修内容について、「今後、充実や新設が必要」と回答した割合	コーディネーター別クロス集計					主要キャリア別クロス集計						
	全体	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4	全体	教員経験者	保育士経験者	放課後経験者	民間経験者	PTA経験者	
	n201	n94:46.8%	n85:42.3%	n20:10.0%	n2:1.0%	n192	n63:32.8%	n7:3.6%	n27:14.1%	n52:27.1%	n43:22.4%	
教室内対応	様々な地域の教室取組み事例	27.4	27.7	30.6	15.0	0.0	27.4	28.6	71.4	29.6	28.8	23.3
	障害や要配慮児童理解や対応	24.2	18.1	32.9	30.0	0.0	24.2	27.0	28.6	18.5	23.1	25.6
基礎知識	子育ての現状など概論	23.3	17.0	31.3	30.0	0.0	23.3	28.6	42.9	25.9	19.2	18.6
教室内対応	遊びや体験活動の技術	22.9	17.0	29.4	30.0	0.0	22.9	22.2	28.6	25.9	25.0	23.3
	子どもの安全管理と防犯対策	22.0	17.0	23.5	25.0	50.0	22.0	30.2	42.9	14.8	21.2	18.6
	子どもへの接し方や叱り方	21.5	14.9	29.4	30.0	0.0	21.5	23.8	14.3	22.2	26.9	16.3
地域対応	自市区町村内での教室実践例	21.1	23.4	22.4	10.0	0.0	21.1	20.6	42.9	18.5	21.2	23.3
地域対応	地域人材の確保策	19.7	18.1	20.0	35.0	0.0	19.7	15.9	28.6	33.3	19.2	9.3
基礎知識	青少年の現状や心理など概論	19.7	14.9	24.7	25.0	0.0	19.7	19.0	28.6	29.6	13.5	23.3
教室内対応	いじめの発見、対応	19.3	16.0	23.5	30.0	0.0	19.3	12.7	28.6	25.9	13.5	23.3
	けがや事故への応急処置	19.3	16.0	22.4	20.0	0.0	19.3	22.2	14.3	22.2	17.3	16.3
	活動プログラムの立案・作成	18.8	13.8	27.1	25.0	0.0	18.8	17.5	28.6	14.8	19.2	20.9
行政対応	「放課後教室」「児童クラブ」連携	15.7	9.6	22.4	25.0	0.0	15.7	17.5	28.6	11.1	9.6	16.3
保護者 地域	コミュニケーションや対人スキル	12.1	7.4	15.3	30.0	0.0	12.2	12.7	14.3	18.5	9.6	11.6
行政 保護者	広報等の文書作成、プレゼン	9.4	8.5	11.3	15.0	0.0	9.4	6.3	14.3	7.4	7.7	14.0
基礎知識	放課後対策に関する概論	9.4	10.6	9.4	10.0	0.0	9.4	19.0	28.6	3.7	5.8	4.7
行政対応	事務処理、経理・労務管理	9.0	8.5	7.1	15.0	0.0	9.0	14.3	14.3	14.8	1.9	9.3
地域対応	体験活動フィールドや受入施設	9.0	5.3	10.6	10.0	0.0	9.0	9.5	0.0	3.7	13.5	7.0
教室内対応	人権について	8.5	6.4	8.2	20.0	0.0	8.5	11.1	0.0	14.8	5.8	4.7
基礎知識	ボランティア活動に関する概論	4.9	3.2	5.9	10.0	0.0	4.9	3.2	14.3	3.7	5.8	4.7
	生涯学習や社会教育概論	4.9	1.1	5.9	20.0	0.0	4.9	4.8	0	7.4	9.6	2.3

- 4 - 2) . コーディネーターの「研修充実・新設ニーズ」をもとにした分析、提案

「放課後子どもプラン推進事業実施要綱」で示されたコーディネーター像をもとに、必要になると想定される資質について尋ねた結果が下表です。これをもとに、コーディネーター確保、研修等の課題を次のように検討しました。

クロスa：コーディネータータイプ別クロスをもとに

タイプ1<教室を守るコーディネーター>

- ・タイプ1のみに関わっている方が「自ら備わっている」とする上位は「メンバーの意見を踏まえ全体調整」「子ども観や接し方の理念」で、子ども対応の基本を知り、教室メンバーをうまくまとめる資質が求められます。

タイプ2<教室をよりよくするコーディネーター>

- ・タイプ2にまで関わるには、タイプ1の必要資質に加えて「臨機応変の課題対応」「クレーム等の状況把握」「メンバーの個性活用、本音把握」など、問題や変化への対応とともに、自ら改善点を見出す資質も必要になります。

タイプ3<教室を越えるコーディネーター>

- ・タイプ3は「放課後子どもプラン推進事業実施要綱」のコーディネーター像に近い関わり方ですが、このタイプは1割弱です。下表に挙げたいずれの資質についても、45%以上の方が備えているとしています。メンバー間の調整、問題認識・処理、人材動員・活用、傾聴、ビジョン構築、プレゼンテーションなどの資質、能力を総合的に備えていることが求められるため、実務や実体験の中でこれらを備えた方を確保するか、素地のある人材に対してこれらの資質を磨くための経験の積み重ねができるような機会の提供が必要になります。

クロスb：主要キャリア別クロスをもとに

教員経験者

- ・「臨機応変の対応」や、「地域の人々の理解、協力獲得」など、様々な立場の人々と交渉し理解、協力を得ることなどが研修課題になります。

保育士経験者

- ・保育現場に比べ、関わる人や参加する子ども達も多様になるので、これらの調整・まとめや、「地域の人々の理解、協力獲得」などが研修課題になります。

放課後指導員経験者

- ・「クレーム、トラブル等の状況把握」「メンバーの個性活用」などが研修課題になります。

民間企業経験者

- ・一般社会での経験は豊富ですが、その分地域や子ども達と疎遠になっていたこともあり、「地域の人々の理解、協力獲得」「子どもや保護者の立場からの視点、発想」などが研修課題になります。

PTA経験者

- ・自らの子育てと地域活動経験を活かして、できる範囲で協力するというスタンスですので、「臨機応変の対応」「メンバーの意見を踏まえ全体調整」「クレーム、トラブル等の状況把握」などが研修課題になります。

放課後子ども教室等のコーディネーターとして必要と思われる資質や能力について		「コーディネーターとして必要だと思う」とした割合【全体】 n223	「コーディネーターとして必要でかつ自分自身に備わっていると思う」とした割合								
			コーディネータータイプ別クロス集計				主要キャリア別クロス集計				
			タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4	教員経験者	保育士経験者	放課後経験者	民間経験者	PTA経験者
			n94:42.1%	n85:38.1%	n20:11.2%	n2:0.9%	n63:28.3%	n7:3.1%	n27:12.1%	n52:23.3%	n43:19.3%
教室を守る	問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる	80.3	43.6	56.5	65.0	50.0	50.8	57.1	66.7	42.3	51.2
	メンバーの意見を踏まえ、調整し全体をまとめられる	78.5	47.9	56.5	60.0	0.0	60.3	42.9	63.0	46.2	44.2
	クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質	78.0	44.7	54.1	80.0	0.0	57.1	71.4	51.9	40.4	44.2
	的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論	75.8	45.7	56.5	65.0	0.0	60.3	42.9	59.3	40.4	39.5
	メンバーの個性や持ち味を引き出し教室運営などに活かすことができる	68.2	30.9	45.9	45.0	0.0	46.0	57.1	44.4	40.4	34.9
	地域の人々にも協力を依頼して教室運営などに活かすことができる	68.2	30.9	43.5	60.0	0.0	42.9	28.6	63.0	30.8	37.2
	利用者や顧客(子どもや保護者)の立場からも考えられる	67.3	42.6	44.7	55.0	0.0	44.4	57.1	51.9	26.9	32.6
記録・報告文書や経理・集計表などをまとめられる	61.4	31.9	38.8	55.0	0.0	38.1	42.9	51.9	46.2	32.6	
教室をよりよくする	相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気にかける	60.1	37.2	47.1	45.0	50.0	41.3	42.9	40.7	32.7	34.9
	自分の意見、主張やお願いを相手に的確に伝えられる	58.3	29.8	35.3	55.0	0.0	38.1	28.6	44.4	32.7	30.2
	ビジョンに照らして、定期的に問題や課題を認識し、改善していける	57.8	27.7	29.4	45.0	0.0	33.3	57.1	48.1	30.8	27.9
放課後対策を創造する	事業や活動のビジョンを示すことができる	56.1	18.1	16.5	50.0	0.0	39.7	42.9	29.6	21.2	23.3
	事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞くことができる	55.2	28.7	38.8	45.0	0.0	31.7	42.9	22.2	21.2	27.9
	メンバーの心構えなど組織としてのあり方を示すことができる	52.5	26.6	28.2	45.0	0.0	22.2	42.9	37.0	19.2	16.3
	アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成することができる	43.5	18.1	22.4	50.0	0.0	31.7	28.6	22.2	11.5	11.6



平成 19 年度文部科学省委託事業

「総合的な放課後対策推進のための調査研究」
(コーディネーター等の資質向上方策)

報 告 書

平成 20 年 2 月

株式会社 開発計画研究所



【 目 次 】

序. 本調査研究の目的と実施体制	1
1. 本調査研究の目的	1
2. 本調査研究の実施体制	1
I. 市区町村、都道府県調査	2
1. 市区町村、都道府県対象アンケート調査の結果	2
2. 市区町村、都道府県対象ケーススタディの結果	16
II. コーディネーター対象調査	27
1. コーディネーター対象アンケート調査の結果	27
2. モデルコーディネーター対象ケーススタディの結果	43
III. 放課後子どもプランの全国への普及を推進するための研修のあり方の提案	69
1. 研修のあり方についての検討の進め方	69
2. コーディネーターの「研修充実・新設ニーズ」をもとにした分析、提案	72
3. 「コーディネーターに必要な資質」をもとにした分析、提案	84
IV. コーディネーターの確保、育成に関わる諸課題	88
＜参考資料＞	
1. コーディネーター対象アンケート調査票	95
2. 市町村対象アンケート調査票	103
3. 都道府県対象アンケート調査票	109

序. 本調査研究の目的と実施体制

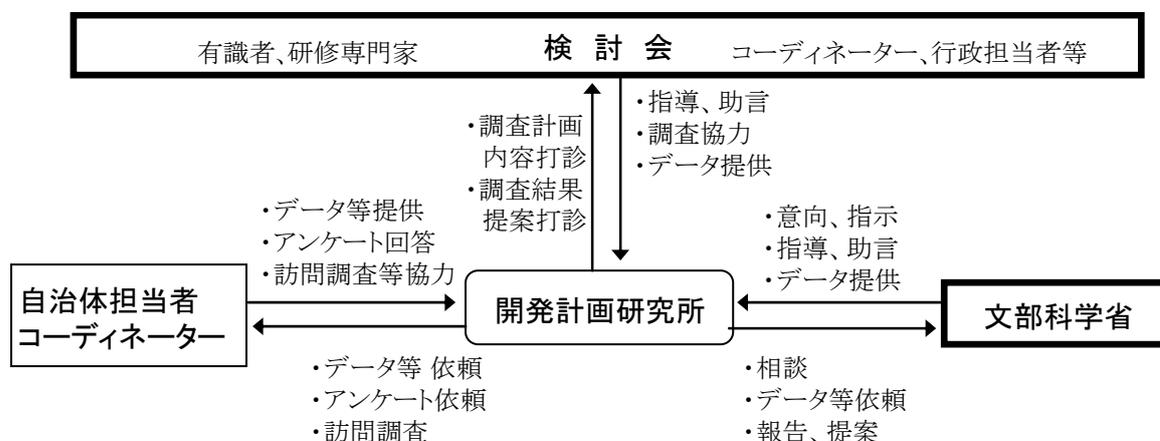
1. 本調査研究の目的

「コーディネーター等の資質向上方策」についての本調査研究は、以下のような目的で実施した。

- ◆先進的事例と「地域子ども教室推進事業」を契機に全児童放課後対策促進に努める意欲的事例を抽出し、これらの研修プログラムと研修効果を客観的に比較、評価できる形で整理する。
- ◆各事例の活動を牽引するモデルコーディネーターに着目して、「放課後子ども教室」の価値創造(魅力と地域理解形成)に好影響を及ぼしているパーソナリティとキャリア形成過程を整理する。
- ◆これらをもとに、「放課後子ども教室」の魅力を強化し、地域の理解を広げるコーディネーターを増加させるための人材確保や研修のあり方を提案する。下記のように、市区町村及び都道府県を対象にアンケート調査を実施し、コーディネーターの人选、確保及び研修実施についての概況(全体状況)を把握した。

2. 本調査研究の実施体制

- ◆本調査研究は、下のように、文部科学省との協議の上で調査対象と調査内容を検討し、検討会に諮った上で決定して、自治体対象とコーディネーター対象のアンケート調査、訪問ヒアリング調査(ケーススタディ)を実施した。
- ◆この結果をもとに、教室の実施状況、コーディネーターの確保及び研修実施状況、コーディネーターの活動状況や意識、研修に対する要望や提案をとりまとめて検討会で指導、助言を得た。
- ◆以上の結果を総括して、コーディネーター研修のあり方を検討、提案した。



I. 市区町村、都道府県調査

1. 市区町村、都道府県対象アンケート調査の結果

(コーディネーターの人選、確保及び研修実施についての概況)

下記のように、市区町村及び都道府県を対象にアンケート調査を実施し、コーディネーターの人選、確保及び研修実施についての概況(全体状況)を把握した。

アンケート回答自治体からケースを抽出して、市区町村(教育委員会)、都道府県(教育庁、教育委員会等)への訪問インタビューを行なうとともに、「モデルコーディネーターがいる」と回答のあった自治体からコーディネーターを紹介いただき、モデルコーディネーターに対する訪問インタビューを行なった。これらの結果は、「I-2. 市区町村、都道府県対象ケーススタディ結果」(16頁～)及び「II-2. モデルコーディネーター対象ケーススタディの結果」(43頁～)で紹介する。

<アンケート調査の実施概要>

A. 市区町村対象アンケート調査

□発送数：2007年10月26日発送：合計110

(政令指定都市17、中核市33、市区町村60)

□回収数：2007年11月9日締切：合計86

□回収率：78.2%

B. 都道府県対象アンケート調査

□発送数：2007年10月26日発送：合計47

□回収数：2007年11月9日締切：合計39

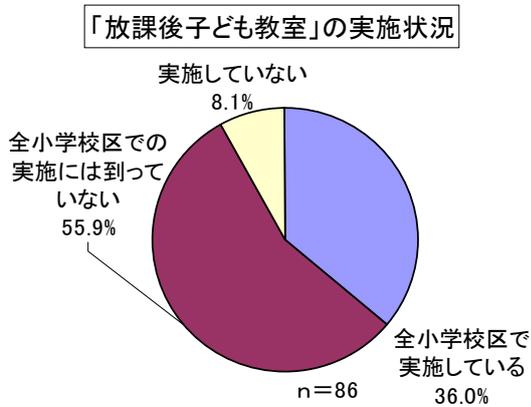
□回収率：83.0%

(1) 「放課後子ども教室」の実施状況

- ◆「放課後子ども教室」を「全小学校区で実施している」市区町村が36.0%、実施はしているが「全小学校区ではない」市区町村が55.9%である。
- ◆「実施していない」市区町村は8.1%で、次頁の市区町村類型別クロスに見るように、政令指定都市・中核市が多くなっている。政令指定都市・中核市以外の市区町村については総合的放課後対策に熱心と予想される自治体を対象としたため、未実施との回答が少ないものと推察される。
- ◆なお、「実施していない」市区町村の多くから電話連絡があり、20年度からの実施に向けて検討及び準備を進めている段階とのことであった。

問2: “放課後子ども教室等事業”の実施状況(SA)

市区町村調査		実数	%
①	全小学校区で実施している	31	36.0%
②	全小学校区での実施には到っていない	48	55.9%
③	実施していない	7	8.1%
全体		86	100%



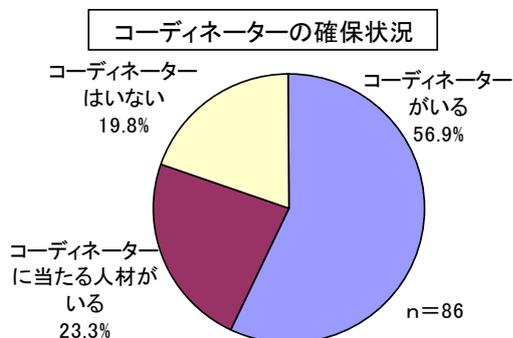
市区町村類型別 クロス集計	「放課後子ども教室」等事業の実施状況			
	全体	全小学校区 で実施して いる	全小学校区 での実施に は到ってい ない	実施してい ない
合計	86	31	48	7
	100.0	36.0	55.9	8.1
政令指定都市、中 核市	41	8	28	5
	100.0	19.5	68.3	12.2
人口10万～35万人	16	5	9	2
	100.0	31.3	56.2	12.5
人口10万人未満	29	18	11	0
	100.0	62.1	37.9	0.0
不明	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) コーディネーターの確保状況

- ◆ コーディネーター確保の状況については、「コーディネーター」あるいは、呼称は異なるが「コーディネーターに当たる人材」がいるという市区町村が8割弱である。
- ◆ 19.8%の市区町村では、まだコーディネーターが確保できていないということになる（ここには、教室未実施の自治体も含まれる）。そのため、クロス集計結果に見るように、政令指定都市・中核市において「コーディネーターはいない」とする自治体が多くなっている。

問3：“放課後子ども教室等事業”のコーディネーターの確保状況(SA)

	実数	%
①「コーディネーター」がいる	49	56.9%
②「コーディネーター」に当たる人材がいる	20	23.3%
③「コーディネーター」はいない	17	19.8%
全 体	86	100%



市区町村類型別 クロス集計	コーディネーターの確保状況			
	全体	「コーディネ ーター」が いる	「コーディネ ーター」に 当たる人材 がいる	「コーディネ ーター」は いない
合計	86	49	20	17
	100.0	56.9	23.3	19.8
政令指定都市、中 核市	41	20	10	11
	100.0	48.8	24.4	26.8
人口10万～35万人	16	10	4	2
	100.0	62.5	25.0	12.5
人口10万人未満	29	19	6	4
	100.0	65.5	20.7	13.8
不明	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0

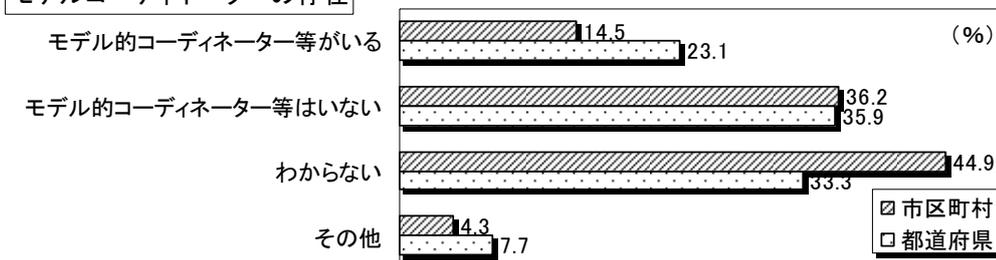
(3) モデルコーディネーターの存在

- ◆「モデル的コーディネーター」等がいるとする市区町村は 14.5%で、都道府県では 23.1%である。

問 8:モデル的コーディネーターの存在 (SA)

市区町村調査と都道府県調査の比較		市区町村		都道府県	
		実数	%	実数	%
①	モデル的なコーディネーター等がいる	10	14.5%	9	23.1%
②	モデル的なコーディネーター等はいない	25	36.2%	14	35.9%
③	わからない	31	44.9%	13	33.3%
④	その他	3	4.3%	3	7.7%
全体		69	100%	39	100%

モデルコーディネーターの存在



(4) コーディネーターの人選

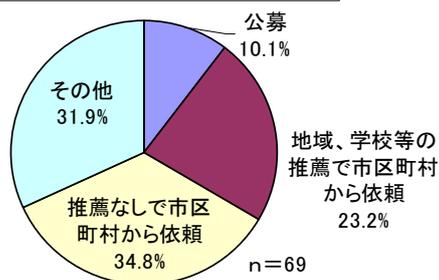
1) 募集、選任方法

- ◆コーディネーターの募集、選任方法については、「推薦なしで市区町村から依頼」とする自治体が 1 / 3 強ともっとも多い。次いで、「地域、学校からの推薦」をもとに市区町村から依頼する場合で、「公募」は 1 割であった。

問 4:コーディネーターの募集選任方法 (MA)

市区町村調査		実数	%
①	公募	7	10.1%
②	地域や学校からの推薦をもとに市区町村から依頼	16	23.2%
③	推薦なしで市区町村から依頼	24	34.8%
④	その他	22	31.9%
全体		69	100%

コーディネーターの募集、選任方法



2) 募集、選任で考慮する資格や経験等

- ◆募集や選任に当たっては、「資格や職務経験などは問わない」とする市区町村が3/4以上を占めた。
- ◆少数派ながら資格等を考慮する市区町村(14自治体)においては、「教諭・教員」資格と「保育士」資格というように、子どもと接する「プロ」としての資格が重視される割合が高い。
- ◆資格、職務経験は問わないが、募集、採用に当たり重視(評価)する経験や活動としては、「地域の子どもの係わり」がもっとも多く67.9%である。次いで、「社会教育活動」47.2%、「学校教育活動」34.0%となっている。

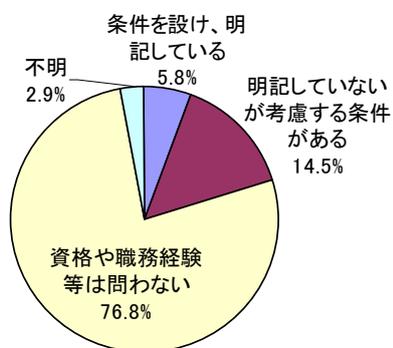
問5:コーディネーターの募集、選任時の条件の有無(SA)

市区町村調査		実数	%
①	条件を設け、明記している	4	5.8%
②	明記はしていないが、考慮する条件がある	10	14.5%
③	資格や職務経験などは問わない	53	76.8%
	不明	2	2.9%
全体		67	100%

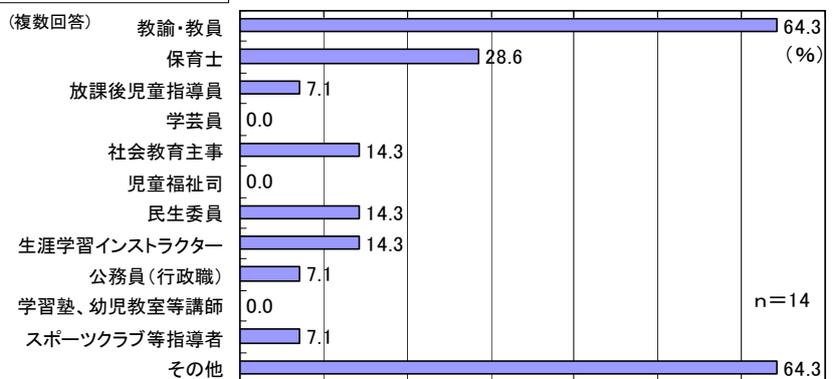
問5-1, 2):条件等の内容(MA)

【条件とする資格や経験】 ①教諭・教員64.3% ②保育士28.6% ③社会教育主事、民生委員、生涯学習インストラクター 各14.3%
【重視する経験、活動】 ①地域の子どもの関わり67.9% ②社会教育活動47.2% ③学校教育活動34.0% ④PTA活動、地域の世話・相談役 各30.2%

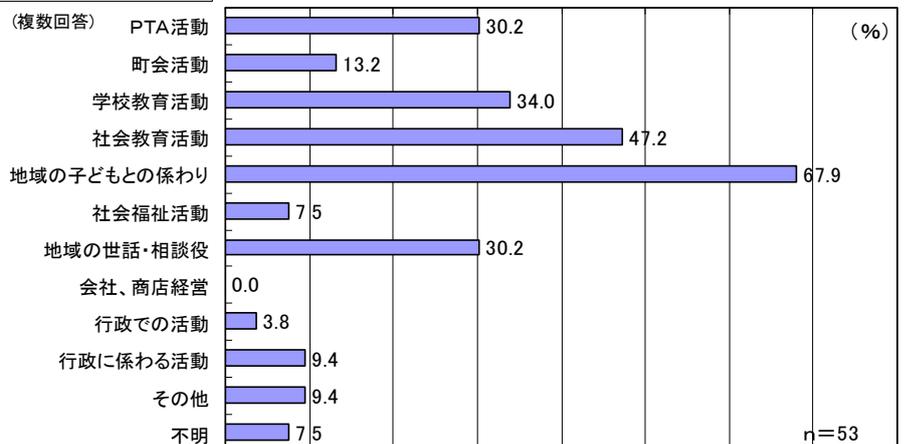
募集、選任時の条件の有無



条件とする資格や経験



重視する経験、活動



(5) コーディネーター研修の実施状況

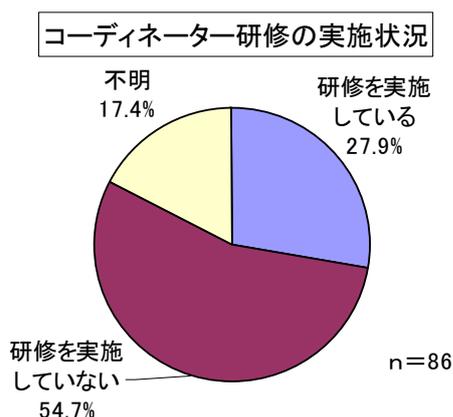
- ◆自市区町村でコーディネーター対象の研修を実施している市区町村は 24 自治体 (27.9%)であった。なお、円グラフの数値 (%) は、不明を除いた割合としたため、上表の値と異なっている。
- ◆市区町村類型別クロスを見ると、研修に対して国からの支援がなされる政令指定都市・中核での実施の割合がもっとも高いが、それ以外の市区町村でも独自に研修を行っている市区町村が 8 自治体あった。

問 9: コーディネーター研修の実施状況 (SA)

市区町村調査		%	
①	自市区町村でコーディネーター等対象研修を実施している	24	27.9%
②	自市区町村ではコーディネーター等対象研修を実施していない	47	54.7%
	不明	15	17.4%
	全体	86	100%

問 9-1: 研修を実施していない理由 (MA)

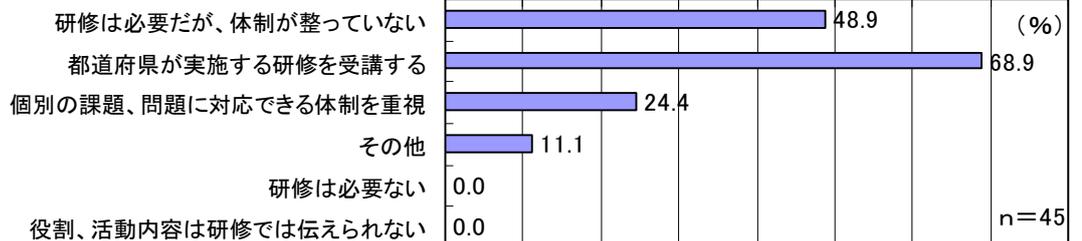
自市区町村で研修を実施していない理由		
①	都道府県が実施している研修を受けてもらう	68.9%
②	自市区町村での研修が必要とは考えるが、研修を実施する体制が整っていない	48.9%



市区町村類型別 クロス集計	コーディネーター研修の実施状況			
	全体	自市区町村 で研修を 実施している	自市区町村 では研修を 実施してい ない	不明
合計	86 100.0	24 27.9	47 54.7	15 17.4
政令指定都市、中 核市	41 100.0	16 39.1	14 34.1	11 26.8
人口10万~35万人	16 100.0	5 31.3	9 56.2	2 12.5
人口10万人未満	29 100.0	3 10.3	24 82.8	2 6.9
不明	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

研修を実施していない理由

(複数回答)



(6) コーディネーター研修の計画主体及び実施・運営主体

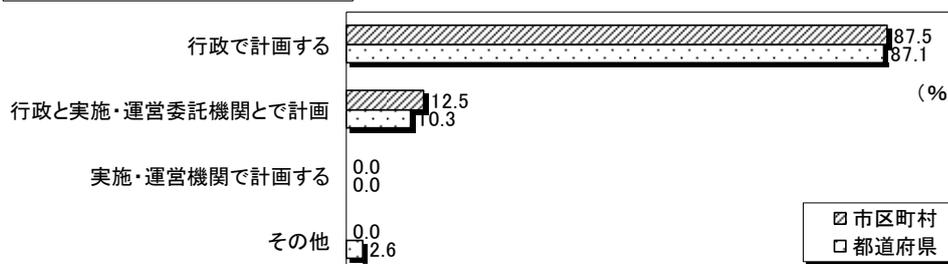
1) コーディネーター研修の計画主体

◆自市区町村でコーディネーター対象研修を実施している自治体に、研修の計画をどこで行なうかを尋ねたところ、「行政(自自治体)で計画する」との市区町村が9割近くである。少数派ではあるが、行政と委託機関とが共同で計画する自治体も3市区町村、4都道府県ある。

問 10-A: コーディネーター研修の計画主体(SA)

市区町村調査と都道府県調査の比較		市区町村		都道府県	
		実数	%	実数	%
①	行政で計画する	21	87.5%	34	87.1%
②	行政と研修実施・運営委託機関とで計画する	3	12.5%	4	10.3%
③	研修実施・運営委託機関で計画する	0	0.0%	0	0.0%
④	その他	0	0.0%	1	2.6%
全体		24	100%	39	100%

コーディネーター研修の計画主体



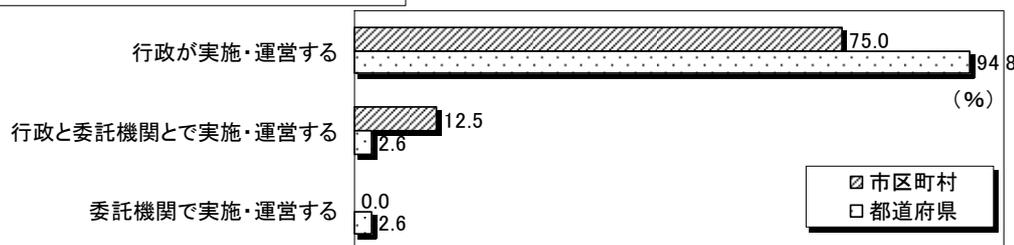
2) コーディネーター研修の実施・運営主体 [SA]

◆研修の実施・運営については、市区町村では、行政と委託機関との共同実施が3例、都道府県では、共同実施1例、委託機関に任せる例が1例であった。

問 10-B: コーディネーター研修の実施・運営主体(SA)

市区町村調査と都道府県調査の比較		市区町村		都道府県	
		実数	%	実数	%
①	行政で実施・運営する	18	75.0%	37	94.8%
②	行政と研修実施・運営委託機関とで実施・運営する	3	12.5%	1	2.6%
③	研修実施・運営委託機関で実施・運営する	0	0.0%	1	2.6%
④	その他	0	0.0%	0	0.0%
	不明	3	12.5%	0	0.0%
全体		24	100%	33	100%

コーディネーター研修の実施・運営主体



(7) コーディネーターの役割とコーディネーターに向くタイプ

1) コーディネーターの役割

- ◆市区町村では、行政、学校、地域等と教室の調整役となり、かつ、教室内での遊びや体験、しつけなどに対してもコーディネーターの関わりへの期待が高い。
- ◆都道府県では、コーディネーターの役割が限定的に捉えられている。教室内での対応はコーディネーター以外の役割とされる。その分、教室外との連携、特に、地域の方への協力依頼、動員要請をコーディネーターの役割とする値が最も高い。
- ◆保護者対応については、市区町村、都道府県とも、教育委員会の役割とする値が高い。

問 7: “放課後子ども教室等”運営に関わる業務の役割分担(各項目ごとにSA)

市区町村調査と都道府県調査の比較		市区町村				都道府県			
		コーディネーターが主担当	コーディネーター以外のスタッフが主	コーディネーターも他スタッフも同等	教育委員会等行政が主担当	コーディネーターが主担当	コーディネーター以外のスタッフが主	コーディネーターも他スタッフ	教育委員会等行政が主担当
行政対応	行政、学校等への連絡・報告文書作成	27 49.1% ①	12 21.8%	8 14.5%	13 23.6%	16 41.0% ①	2 5.1%	3 7.7%	15 38.5%
	行政との折衝	25 45.5% ②	3 5.5%	5 9.1%	25 45.5%	15 38.5% ④	0 0.0%	5 12.8%	15 38.5%
地域対応	地域の方への協力依頼、動員要請	24 43.6% ③	5 9.1%	11 20.0%	15 27.3%	16 41.0% ①	0 0.0%	6 15.4%	14 35.9%
行政対応	行政、学校等への提案・要望文書作成	24 43.6% ④	7 12.7%	9 16.4%	16 29.1%	15 38.5% ④	1 2.6%	4 10.3%	16 40.9%
保護者対応	保護者への日常的な連絡・報告文書作成	21 38.2% ⑤	22 40.0%	9 16.4%	8 14.5%	8 20.5%	8 20.5%	12 30.8%	8 20.5%
学校対応	学校との折衝、協力依頼	21 38.2% ⑥	4 7.3%	5 9.1%	28 50.9%	12 30.8% ②	0 0.0%	1 2.6%	23 58.9%
保護者対応	放課後教室等への児童の登録・参加呼びかけ文書作成	19 34.5% ⑦	13 23.6%	8 14.5%	21 38.2%	13 33.3% ⑥	3 7.7%	3 7.7%	16 41.0%
	保護者、地域等への教室への理解、協力呼びかけ文書	19 34.5% ⑦	7 12.7%	8 14.5%	23 41.8%	8 20.5%	0 0.0%	5 12.8%	22 56.4%
	保護者からの要望、苦情への対応	17 30.9%	7 12.7%	14 25.5%	22 40.0%	4 10.3%	2 5.1%	14 35.9%	16 41.0%
教室内対応	子ども向けの教室内掲示物や文書作成	16 29.1%	19 34.5%	19 34.5%	6 10.9%	8 20.5% ⑦	15 38.4%	9 23.1%	4 10.3%
	教室活動の日常的な記録文書作成	12 21.8%	34 61.8%	12 21.8%	2 3.6%	6 15.4%	18 46.2%	10 25.6%	2 5.1%
保護者対応	保護者への日常的な対応、連絡	11 20.0%	26 47.3%	20 36.4%	3 5.5%	6 15.4%	14 35.9%	13 33.3%	3 7.7%
教室内対応	子どもの遊びや体験活動の日常的対応	3 5.5%	26 47.3%	30 54.5%	2 3.6%	2 5.1%	20 51.3%	13 33.3%	1 2.6%
	子どもへのしつけやきまりの徹底	3 5.5%	28 50.9%	29 52.7%	1 1.8%	0 0.0%	19 48.7%	15 38.5%	2 5.1%
	子どもへの学習支援の日常的対応	2 3.6%	31 56.4%	19 34.5%	1 1.8%	1 2.6%	24 61.5%	9 23.1%	2 5.1%
	安全管理	1 1.8%	32 58.2%	27 49.1%	1 1.8%	1 2.6%	22 56.4%	11 28.2%	2 5.1%

2) コーディネーターに向いているタイプ [MA]

問 6: コーディネーターに向いているタイプ(SA)

市区町村調査と都道府県調査の比較		市区町村		都道府県	
		実数	%	実数	%
①	子ども慣れ	子ども相手の仕事や活動を経験している	35 63.6%	12 30.8% ⑤	
②	世間慣れ	対人的な交渉能力に優れている	28 50.9%	29 74.4% ①	
③	地域慣れ	地域のために献身的に尽くしてくれる	25 45.5%	22 56.4% ③	
③	子ども慣れ	子どもの教育に情熱がある	24 43.6%	14 35.9% ④	
⑤	地域慣れ	地域でつきあいが広い	18 32.7%	23 59.0% ②	
⑥	子ども慣れ	子どもに好かれる、慕われる	14 25.5%	0 0.0%	
⑦	世間慣れ	面倒見がよく人から頼られる(親分肌である)	10 18.2%	1 2.6%	
⑧	行政慣れ	行政の仕事経験や行政職務への理解がある	9 16.4%	5 12.8% ⑥	
⑨	事務慣れ	事務処理能力に優れている	6 10.9%	1 2.6%	
⑩	世間慣れ	学校に対しての発言力がある	4 7.3%	1 2.6%	
⑪	世間慣れ	経営感覚に優れている	1 1.8%	5 12.8% ⑥	
⑫		大人に好かれる	0 0.0%	0 0.0%	
		その他	2 3.6%	2 5.1%	
全体			55	39	

- ◆市区町村では子どもとの相性、経験が重視される傾向にある。
- ◆都道府県では、まずは対人交渉、地域との関わりで、次に子どもとの関わりとなっている。行政業務や経営面の素養への期待もある。

(8) コーディネーター研修の内容

- ◆コーディネーター研修においては、教室内対応に関わる研修が主になっており、市区町村で実施される研修においてその傾向が強い。
- ◆第一に、安全管理、次いで遊びなどの活動プログラム関連、次いで、子どもへのしつけや障害児への配慮などについて研修を実施する割合が高い。
- ◆都道府県の研修においては、まずは、放課後対策の概論実施の割合がもっとも高い。その上で、教室内対応の重点はおさえながら、市区町村研修ではほとんど取り上げられていない地域人材の確保策等についての研修実施の割合が比較的高くなっている。
- ◆前述したコーディネーターの役割においては、行政、学校、地域等と教室の調整役としての期待が高いのに対して、研修内容、特に市区町村の研修においては、教室対応の研修への偏りが大きい。アンケートの質問項目の問題もあるかと思われるが、このような調整役として意識やスキルを養成する研修の組み立て、そして研修後のフォロー体制などが重要な課題と思われる。

問 12: コーディネーター等対象研修の実施状況(実施している研修課題: SA、研修形態: MA)

市区町村調査と都道府県調査の比較		市区町村										都道府県									
		実施している研修課題	主要研修課題	副次的な課題	講義	演習	見学	実習	その他	実施している研修課題	主要研修課題	副次的な課題	講義	演習	見学	実習	その他				
教室内対応	安全	けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて	18	85.7%	①	13	5	8	2	1	6	1	11	28.2%	⑩	10	1	6	4	3	
		子どもの安全管理と防犯などの安全対策について	16	76.2%	②	13	3	11	1	1	1	2	20	51.3%	④	16	3	14	7	1	2
	活動	遊びや体験活動の技術について	12	57.1%	③	10	2	2	2	6	3	8	20.5%	⑪	6	1	2	5	3	1	
		自市区町村内での“放課後子ども教室等”の実践例について	10	47.6%	④	8	2	4	1	1	3	22	56.4%	③	19	3	8	7	6		
	要配慮	子どもへの接し方や叱り方などについて	8	38.1%	⑤	5	3	3	3	2	3	13	33.3%	⑨	8	4	8	6	1	1	
		障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について	8	38.1%	⑤	5	3	6	1	1	1	7	17.9%	⑤	4	3	5	1	2		
活動	様々な地域の“放課後子ども教室等”の取り組み事例について	6	28.6%	⑧	5	1	3	1	1	1	33	84.0%	①	27	6	24	5	6			
基礎知識	放課後	放課後対策に関する概論について	6	28.6%	⑧	5	1	5				26	66.7%	②	23	3	25		1		
教室内対応	要配慮	人権について	5	23.8%		1	4	5				4	10.3%		2	2	2	1	1		
基礎知識	青少年	青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて	4	19.0%		3	1	4				17	43.6%	⑥	9	8	16	1			
	子育て	子育てを取り巻く現状などについて	4	19.0%		2	2	3		1		14	35.9%	⑦	4	10	13	1			
	ボランティア	ボランティア活動に関する概論について	4	19.0%		2	2	4	1			7	17.9%		3	4	7				
行政対応	事務	事務処理、経理・労務管理などについて	4	19.0%		2	2	2	1	1		2	5.1%		0	2	1		1		
行政	保護者	文書	広報等の文書作成、プレゼンテーションなどについて	4	19.0%		2	2	3	1		2	5.1%		1	1	1		1		
教室内対応	要配慮	いじめの発見、対応について	4	19.0%		1	3	2	1	1		3	7.7%		1	2	2		1		
地域対応	人材	地域人材の確保策等について	3	14.3%		1	2	1		2		19	48.7%	⑤	10	9	10	7	3		
保護者	地域	折衝	コミュニケーションや対人関係スキルについて	3	14.3%		0	3	2	1		6	15.4%		3	3	2	4	1		
基礎知識	生涯学習	生涯学習や社会教育に関する概論について	2	9.5%		1	1	2	1			4	10.3%		1	3	4				
地域対応	施設	体験活動のフィールドや受け入れ施設等について	1	4.8%		0	1	1				1	2.6%		0	1	1				

(9) 市区町村、都道府県での研修プログラム概要

1) 市区町村での研修プログラム

市区町村独自で研修を実施していると回答のあった 21 市区町村の研修プログラム概要を示す。

①標準型と目される市区町村

- ◆全体の研修時間が 4～6 時間(2 回または 3 回の研修)の自治体が主となっている。
- ◆研修内容は、安全管理と遊び等の活動に関わる教室内対応を主に、放課後対策、青少年対策、子育て、ボランティアなどの概論と組み合わせて実施される傾向にある。

問 12:コーディネーター等対象研修の実施状況(実施状況と研修形態の市区町村間比較:回答の一部)

		北海道 A市	秋田県 B市	山形県 C市	福島県 D市	埼玉県 E市	東京都 F区	東京都 G市	東京都 H市	神奈川県 I市	新潟県 J市	長野県 L市	和歌山 県M市	愛媛県 N市	福岡県 O市
全児童対象放課後対策実施		5/ 48校	● 16/ 16校	2/ 37校	5/ 9校	12/ 101校	● 40/ 40校	● 15/ 15校	● 18/ 18校	● 10/ 10校	6/ 54校	5/ 48校	9/ 52校	8/ 61校	
コーディネーター業務の主たる対象(役割)		地域 保護者 教室	地域 行政		行政 保護者	行政	地域 学校 保護者	地域 学校 行政	学校	学校 行政	学校 行政 保護者	地域 学校 行政	保護者	ほぼ 全て	ほぼ 全て
モデル的なコーディネーターの存在			いない	不明	● いる	● いる		不明	● いる	不明	● いる	不明	不明	不明	不明
研修時間と回数		14h 2h ×7回	4h 4h ×1回	4h 2h ×2回	4h 2h ×2回	4h 2h ×2回	10h 2h ×5回	4.5h 1.5h ×3回	4h 2h ×2回	6h 2h ×3回	6h 2h ×3回	2h 2h ×1回	6h 3h ×2回	4.5h 1.5h ×3回	3h 3h ×1回
教室内対応	安全	けがや事故に対する応急処置 や初動対応などについて	85.7% ①	● 実習	● 実習	● 実習	△ その他	● その他		● 講義	△ 講義		● 講義	△ 講義	● 演習
		子どもの安全管理と防犯などの 安全対策について	76.2% ②		● 講義	● 実習	△ その他	● その他		● 講義	● 講義	△ その他		△ 講義	● 演習
	活動	遊びや体験活動の技術について	57.1% ③	● 実習	△		● その他	● その他	● 講義・ 見学	● 実習		△ その他		● 実習	
		自市区町村内での“放課後子 ども教室等”の実践例について	47.6% ④				●		●	● 見学		● その他		● 講義	
		活動プログラムの立案・作成に ついて	38.1% ⑤		● 講義・ 演習		△ その他					△ その他		△ 講義	
	要 配慮	子どもへの接し方や叱り方など について	38.1% ⑤			● その他	△ その他			● 講義		△ その他		△ 講義	
	活動	障害のある児童や配慮を要す る児童についての理解や対応 様々な地域の“放課後子ども教 室等”の取り組み事例について	38.1% ⑤	● 講義・ 演習			●	●		● 講義		● 講義		△ 講義	● 講義
基礎知識	放課 後	放課後対策に関する概論につ いて	28.6% ⑧	● 講義		△					● 講義			● 講義	
教室内対応	要 配慮	人権について	23.8% ⑩							△ 講義					
基礎知識	青 少年	青少年を取り巻く現状や青少年 の心理などについて	19.0% ⑪						● 講義						
	子 育	子育てを取り巻く現状などにつ いて	19.0% ⑪	● 講義											
	ボラ ンチ ア	ボランティア活動に関する概論 について	19.0% ⑪								● 講義				
行政対応	事務	事務処理、経理・労務管理など について	19.0% ⑪												
行政 保護者	文書	広報等の文書作成、プレゼン テーションなどについて	19.0% ⑪												
教室内対応	要 配慮	いじめの発見、対応について	19.0% ⑪			△									
地域対応	人材	地域人材の確保策等について	14.3% ⑰								△ その他				
保護者 地域	折衝	コミュニケーションや対人関係ス キルについて	14.3% ⑰										△ 講義	△ 講義	
基礎知識	生涯 学習	生涯学習や社会教育に関する 概論について	9.5% ⑲												
地域対応	施設	体験活動のフィールドや受け入 れ施設等について	4.8% ⑳												

②充実型と目される市区町村

- ◆研修時間の多い自治体と比較的幅広く内容をカバーしている自治体に着目して充実型と目される自治体をリストアップした。
- ◆横浜市では、キッズクラブ主任指導員対象として全分野をカバーする計 181 時間の研修が生まれ、はまっ子スクールのチーフパートナー対象も 40 時間程度という充実した内容になっている。
- ◆奈良市は、2 時間×2 回ながら全ての分野を含む内容との回答である。旭川市、岐阜市、東海市なども時間は少ない中で、事務処理、文書・プレゼンテーション、地域人材動員、コミュニケーションなど、他の市区町村では珍しい内容を取り入れている。

問 12: コーディネーター等対象研修の実施状況(実施状況と研修形態の市区町村間比較: 回答の一部)

所在都道府県		北海道 P市	東京都 Q区	東京都 R区	神奈川県 S市		岐阜県 T市	愛知県 U市	奈良県 V市	島根県 W市
全児童対象放課後対策実施		3/ 55校	● 64/ 64校	● 49/ 49校	△ 347/ 349校		△ 47/ 49校	● 12/ 12校	5/ 48校	14/ 33校
コーディネーター業務の主たる対象(役割)		保護者 行政	地域 学校 行政 保護者	行政 保護者	ほぼ 全て		学校 行政 保護者	地域 保護者	地域 行政 保護者	保護者
モデル的なコーディネーターの存在		不明	その他	不明	● いる	● いる	不明	不明	不明	不明
研修時間と回数		4h 2h ×2回	10h程 2h ×数回	50h程 1.5h, 2h ×28回	181h 計181h 計27回	40h程度 約2h ×20回	4h 2h ×2回	5h 2h, 3h ×2回	4h 2h ×2回	20h 2h ×10回
全体の実施率										
教室内対応	安全									
	けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて	85.7% ①	△ 講義	● 講義・ 演習	● 講義・ 見学	● 講義・ 演習	● 講義・ 演習	△ 講義	● 実習	△ 講義
	子どもの安全管理と防犯などの安全対策について	76.2% ②	● 講義	● 講義	● 講義	● 講義・ 実習	● 講義	● 講義	● 講義	● 講義
	遊びや体験活動の技術について	57.1% ③			● 演習	● 講義・ 実習		● 実習		● 講義・ 実習
	活動					● 講義		● 講義	△ 講義	● 講義・ 実習
	自市区町村内での“放課後子ども教室等”の実践例について	47.6% ④				● 講義		● 講義	△ 講義	● 講義・ 実習
	活動プログラムの立案・作成について	38.1% ⑤	● 演習			● 講義・ 実習		● 演習	● 講義	● 講義
	要配慮				● 講義	● 講義・ 実習	● 講義			● 講義
子どもへの接し方や叱り方などについて	38.1% ⑤			● 講義	● 講義・ 実習	● 講義			● 講義	
活動					● 講義		△ 講義		● 講義	
様々な地域の“放課後子ども教室等”の取り組み事例について	28.6% ⑧				△ 講義		△ 講義		● 講義	
基礎知識	放課後		● 講義		● 講義	● 講義		● 講義	● 講義	
教室内対応	要配慮		● 講義		● 講義	● 講義	△ 講義		△ 講義	△ 講義
基礎知識	青少年			● 講義	● 講義				△ 講義	
基礎知識	子育て				● 講義		△ 講義		△ 講義	● 講義
基礎知識	ボランティア				● 講義	● 講義	△ 講義		△ 講義	● 講義・ 演習
行政対応	事務				● 講義	● 講義・ 実習	△ 演習	● 講義	△ 講義	
行政	保護者				● 講義	● 演習	△ 講義	△ 講義	△ 講義	
教室内対応	要配慮				● 講義		△ 講義		△ 講義	● 講義・ 演習
地域対応	人材				● 講義	● 講義		△ 講義	● 講義	
保護者	地域			● 講義	△ 演習		△ 実習		△ 講義	
基礎知識	生涯学習				● 講義				△ 講義	● 講義・ 演習
地域対応	施設				● 実習				△ 講義	
									△ 講義	

＜充実型と目される市区町村の自由記入回答＞

問 13:コーディネーター等の認識、技能、資質などとして、その保持や充実に努めるべきと思われる点

北海道:市	地域、或いは社会で子供を育てるという熱意、子供やその保護者を対象とした教育活動の経験、 <u>一般的な事務処理能力、他のスタッフや学校関係者との調整能力</u>
東京都:区	本事業の目的や内容を十分理解してもらい(子どもを取り巻く)保護者、地域、学校・行政の文字通り「調整役」になること。また、 <u>現場スタッフの管理</u> ができること。
神奈川県:市	・事業に関する知識 ・運営スタッフのとりまとめ ・児童育成に関わる経験と熱意 ・ <u>運営企画・立案</u> ・適切な <u>保護者対応</u> ・ <u>学校、地域、関係団体との連携・調整能力</u> ・安全管理に関する知識
岐阜県:市	<u>地域の信頼関係を築こうと努力</u> する人。各教室をできるだけ訪問し、喜びを共有したり、課題を分かち合ったりしようとする人。 <u>行動力のある人</u>
愛知県:市	子どもに <u>様々な体験活動等を経験させたいという気持</u>
奈良県:市	他教室や他市町村と現状や課題等に対する情報交換を密にし、 <u>専門家や多方面からの意見を聞ける機会</u> を設ける。
島根県:市	コーディネーターは各地区において、放課後子どもプラン推進の核となる存在であり、子どもの居場所、活動拠点づくりを進めるとともに、 <u>地域づくりの視点</u> をもって取り組んで頂きたい。特に地域全体で子どもを育てていく気運を高めるために、学校、地域、家庭をつなげ、役割を分担し、お互いを補完していく体制づくりを進めて頂きたいと考えている。そのため、 <u>学校教育、社会教育、学校連携、融合等</u> についても認識をもって頂きたい。

問 14:コーディネーターからの個別の相談対応やサポート体制

A. 教育委員会等行政での相談対応、サポート体制(例:放課後教室相談員による個別対応など)

神奈川県:市	本市担当課職員及び巡回相談嘱託員(学校長出身、コーディネーター経験者)による <u>個別対応(電話相談、訪問による指導助言)</u> 。はまっ子ふれあいスクールの初任のコーディネーターについては、 <u>巡回相談員が訪問により実地指導</u> 。
奈良県:市	放課後子ども教室サポートセンターを設置し、 <u>学校教育、生涯学習の関係課が連携してサポート</u> できる体制をつくる予定。
島根県:市	2か月に1回、 <u>コーディネーター会議開催</u> 。 <u>地域教育コーディネーター(県派遣社会教育主事)</u> がブロック毎に担当し、相談対応している。

B. 地域での相談対応、サポート体制(例:放課後教室地域サポートセンターによる対応など)

神奈川県:市	放課後キッズクラブの評議会及びはまっ子ふれあいスクールの運営委員会に地域代表が参加。
島根県:市	地域運営委員会(実行委員会)の事務局が公民館であり、館長、担当職員が相談対応している。

C. 学校での相談対応、サポート体制(例:放課後教室地域サポートセンターへの学校長の参加など)

神奈川県:市	放課後キッズクラブの評議会及びはまっ子ふれあいスクールの運営委員会に学校長等が参加。
島根県:市	地域の運営委員会に小学校長が参加している。

D. その他の相談対応、サポート体制

神奈川県:市	放課後キッズクラブ主任指導員連絡会及びはまっ子ふれあいスクールチーフパートナー連絡協議会(市、各区)の開催。
島根県:市	地域の運営委員会に小学校長が参加している。

問 15. その他、コーディネーター等の人材確保や育成、研修などにつきましてご意見やご提案

奈良県:市	<u>コーディネーター等の養成講座や実践講座を開催し、人材確保に努めるとともに、地域に広げていく必要がある</u> と思います。
-------	--

2) 都道府県での研修プログラム

都道府県については全てで研修を実施しているが、アンケート回答及び補足資料で比較的情報の多い15都道府県を選び研修プログラム概要を示す。

①標準型と目される都道府県

- ◆全体の研修時間は、4～6時間の自治体が多い(大阪府と高知県は地区別の開催を含む)。
- 市区町村の標準的内容に地域人材確保が追加された傾向にある。

問7:コーディネーター等対象研修の実施状況(実施状況と研修形態の都道府県間比較:回答の一部)

所在地方ブロック		関東A県	関東B県	近畿C府	四国D県	九州E県	九州F県	九州G県	南西H県
ガイドライン		△ 共通認識	ない	△ 共通認識	△ 共通認識	△ 共通認識	● あり 国要綱	ない	△ 共通認識
コーディネーター業務の主たる対象(役割)		地域 学校 行政	なし	学校 行政	子ども 向け文 書	保護者	行政 子ども 学校	地域 学校 行政	地域 学校 保護者
モデル的なコーディネーターの存在		いない	不明	● いる	いない	その他	いない	いない	不明
研修の計画、実施・運営委託		計画 実施・運営	共同 委託		推進委	共同 共同			
研修時間と回数		12h 3h ×4回	4.5h 4.5h ×1回	14h* 2h ×7回	15h* 3h ×5回	6h 6h ×1回	8h 4h ×2回	8h 4h ×2回	5h 2.5h ×2回
市区町村実施率の高い順		都道府県全体の実施率							
①	教室内対応	安全	けがや事故に対する応急処置 や初動対応などについて	27.3% ⑧	● 演習	● 実習			
②		安全	子どもの安全管理と防犯などの 安全対策について	54.5% ④	● 演習			● 講義	
③		活動	遊びや体験活動の技術につ いて	21.2% ⑩	● 総合 して				
④			活動	目市区町村内での“放課後子 ども教室等”の実践例について	57.6% ③	● 演習	● 講義		● その他
⑤		要 配慮	活動プログラム立案・作成に ついて	36.4% ⑥		△ 講義			
⑤			要 配慮	子どもへの接し方や叱り方など について	24.2% ⑨	● 演習	△ 講義	△ 講義	
⑤		活動	要 配慮	障害のある児童や配慮を要す る児童についての理解や対応	15.2%		● 講義		
⑧			活動	様々な地域の“放課後子ども 教室等”の取り組み事例について	81.8% ①	● 講義	△ 講義	● その他	● 演習
⑧	基礎知識	放課 後	放課後対策に関する概論につ いて	63.6% ②	● 講義	● 講義	● 講義	△ 講義	● 講義
⑩		青 少年	青少年を取り巻く現状や青少年 の心理などについて	19.0%		△ 講義		● 講義	● 講義
⑪	教室内対応	要 配慮	人権について	6.1%		△ 講義			
⑫	基礎知識	子 育	子育てを取り巻く現状などに ついて	33.3% ⑦		△ 講義	△ 講義	△ 講義	
⑫		ボ ラン ティア	ボランティア活動に関する概論 について	15.2%	△ 講義				
⑫	行政対応	事務	事務処理、経理・労務管理など について	3.0%					
⑫	行政	保護者	文書	広報等の文書作成、プレゼン テーションなどについて	3.0%				
⑯	教室内対応	要 配慮	いじめの発見、対応について	3.0%					
⑰	地域対応	人材	地域人材の確保策等について	45.5% ⑤	△ 講義		△ 演習	● 演習	△ 講義
⑱	保護者	地域	折衝	コミュニケーションや対人関係ス キルについて	15.2%				
⑲	基礎知識	生涯 学習	生涯学習や社会教育に関する 概論について	6.1%			△ 講義		
⑳	地域対応	施設	体験活動のフィールドや受け入 れ施設等について	0.0%					

②充実型と目される都道府県

- ◆比較的研修時間の多い都道府県を充実型として選んだ。研修としては、標準型と大きな違いは見られない。
- ◆栃木県については、8時間の基本研修に加えて希望者を対象に4時間のオプション研修を実施。山口県は、研修時間自体はそれほど多くないが、事前に研修参加者から研修ニーズ等に関する要望、意見を募りこれをもとにプログラムを組み立てている。

問7:コーディネーター等対象研修の実施状況(実施状況と研修形態の都道府県間比較:回答の一部)

所在地方ブロック		北海道	東北J県	関東L県	関東M県	関東N県	近畿O県	中国P県	中国Q県	
ガイドライン		○あり 未公表	△共通的 認識	△共通的 認識	△共通的 認識	○あり 未公表	△共通的 認識	●あり 公表	●あり 公表	
コーディネーター業務の主たる対象(役割)		ほぼ 全て	地域	地域 学校 行政	なし		地域 学校 保護者	学校 保護者	地域 行政 保護者	
モデル的なコーディネーターの存在		不明	●いる	●いない	●いない	●いる	●不明	●いる	●いる	
研修の計画、実施・運営委託		計画 実施・運営				共同				
研修時間と回数		20h 10h ×2回	15.5 10.5h +5h	15h 5h ×3回	8h 4h ×2回	24h 4h ×6回	18h 6h ×3回	18h 2h、4h ×5回	12h 6h ×2回	
市区町村実施率の高い順		都道府県全体の実施率								
①	教室内対応	安全	けがや事故に対する応急処置 や初動対応などについて	27.3% ⑧	●講義 演習			●講義	△講義	
②		安全	子どもの安全管理と防犯などの 安全対策について	54.5% ④	●講義 演習	△講義	○オプション 演習	●講義	△講義	
③		活動	遊びや体験活動の技術について	21.2% ⑩	●演習		○オプション 演習	●実習	●演習	
④			活動	自市区町村内での“放課後子ども 教室等”の実践例について	57.6% ③	●その他	△講義		●演習	●講義
⑤		要 配慮	子どもへの接し方や叱り方など について	36.4% ⑥	●演習	●演習	●講義	○オプション 演習	△実習	●演習
⑤			要 配慮	障害のある児童や配慮を要する 児童についての理解や対応	24.2% ⑨	●演習	△演習		○オプション 演習	●講義
⑧		活動	様々な地域の“放課後子ども 教室等”の取り組み事例について	15.2%	●講義 演習			●講義	△その他	△講義
⑧		基礎知識	放課後 青少年	様々な地域の“放課後子ども 教室等”の取り組み事例について	81.8% ①	●講義	●演習	●講義	●講義	●講義
⑩	基礎知識		放課後対策に関する概論につ いて	63.6% ②	●講義	●講義	●講義	●講義	●講義	
⑪	教室内対応	要 配慮	青少年を取り巻く現状や青少年 の心理などについて	19.0%	●講義	△講義	●講義	●講義	△講義	
⑪	基礎知識	子 育て	人権について	6.1%	●演習		△講義			
⑫		基礎知識	子 育て	子育てを取り巻く現状などにつ いて	33.3% ⑦	●講義	●講義	△講義	△講義	△講義
⑫	行政対応	ボラン チア	ボランティア活動に関する概論 について	15.2%	●講義	●講義		●講義	△講義	
⑫		行政対応	事務	事務処理、経理・労務管理など について	3.0%	△講義			△その他	
⑫	行政	保護者	文書	広報等の文書作成、プレゼン テーションなどについて	3.0%	●演習			△その	
⑯	教室内対応	要 配慮	いじめの発見、対応について	3.0%	△演習		△講義			
⑰	地域対応	人材	地域人材の確保策等について	45.5% ⑤	●講義	△演習		△その他	△講義	
⑱	保護者	地域	折衝	コミュニケーションや対人関係ス キルについて	15.2%	●講義 演習			●演習	
⑲	基礎知識	生涯 学習	生涯学習や社会教育に関する 概論について	6.1%	△講義					
⑳	地域対応	施設	体験活動のフィールドや受け入 れ施設等について	0.0%	△講義					

<充実型と目される都道府県の自由記入回答>

問 8:コーディネーター等の認識、技能、資質などとして、その保持や充実に努めるべきと思われる点

東北	事業の趣旨の理解
関東	企画、連絡、調整の仕事が重要と考えられるので、 <u>コミュニケーション能力に秀れており、幅広い人脈を持つ、人物の確保に努めていきたい。</u>
関東	地域、こども、学校等の現状を把握した上で、 <u>放課後子ども教室の充実等図れる技能を身につけられるよう研修に努めてまいりたい。また、複数のコーディネーター(コーディネーターズ)で活動できるよう配慮してまいりたい</u>
関東	様々な技能や資質が求められるが、 <u>高いコミュニケーション能力を有しているリーダー的な存在であると思われる。個人の資質によるところが大きく一朝一夕に育成できない。</u> 実践しながら学ぶ、学びながら実践するという少々長期的な観点で行く育成プログラムを開発すべき。
中国	地域の実状に応じて、 <u>地域の子どもに係わる取り組みをつかみ、つなげる力量</u>
中国	<u>地域と学級、子ども教室と児童クラブの双方の立場を理解していることが大切。お互いの立場を認めつつも連携を図っていくために、「つなぎ役」としての人材が求められる。</u>
四国	子どもとの接し方ということではなく、 <u>教室運営についてコーディネートしていく力が求められる。</u>
九州	<u>交渉能力、企画力、子どもの健全育成に関する知識、放課後子どもプランについての理解</u>

問 9:市区町村教委やコーディネーター個人に対する、コーディネーターについての相談対応やサポート体制

東北	コーディネーター研修が前期2日、後期1日(2地区)。安全管理員等研修を県内6地区前・後期各1日日程。
関東	県としては市町村からの問い合わせに対して、 <u>素早い対応を図り、支援・協力体制を取っている。</u>
関東	とちぎ放課後子どもプラン推進委員会(事務局県教委)担当で相談等対応
関東	区市町村によってまちまちであると思うが、 <u>行政担当者がサポートしていると思われる。</u>
中国	事業についての相談対応等においては県生涯学習課及び各地区の教育事務所が行っている。
中国	研修会の実施。定期的な情報提供、市町への訪問
四国	各市町村教委の担当者とコーディネーターが話し合いながら進めている。
九州	市町担当者から、 <u>地域からコーディネーターに適した人材を発掘することが難しいとの意見が多い。</u> 今後は各校区にコーディネーターを配置できるよう、県レベルでの人材育成が必要。
中国	県教委では、人材バンク(「長崎県教育活動能力サポート人材バンク」における講師情報)に退職教員や地域ボランティアなどの登録を行い、サポートを行っている。

問 10:その他、コーディネーター等の人材確保や育成、研修などにつきましてご意見やご提案

関東	コーディネーター等の <u>人材確保は難しい現状もあり、今後も市町で連携し、育成、研修に努めてまいりたい。</u> 現時点では市町担当者にコーディネーターの役割を担当して頂いている現状。
近畿	コーディネーター等の <u>人材確保が地域によっては、かなり困難</u> である。
中国	実践例や研修プログラムなどの情報があるとよいと考える。
中国	全国の先進的事例紹介、講師リストの提供→ホームページ上でも可。中国地区ブロックレベルの研修会の実施
四国	今現在、 <u>コーディネーターの役割を市町村教委担当者が担っているのがほとんどである。</u> 各市町村担当者も多忙で人材確保はできて、 <u>育成までおよんでいないのが現状ではないか。</u>

2. 市区町村、都道府県対象ケーススタディの結果

(1) 市区町村対象のケーススタディ

市区町村については、以下の7自治体を対象にケーススタディを行った。

A. 「総合的な放課後対策」先進的自治体

市区町名	立地条件	地域タイプ	総人口 2006年3月末	人口密度 可住地面積 1平方km当り	65歳以上 人口比率	一・二・三次産業人口比 2000年国勢調査
①江戸川区 (東京都)	東京駅より JR等30分	大都市圏 政令指定都市	640,585人	12,848人	15.9%	0.3-27.5-69.3%
②横浜市 (神奈川県)	東京駅より JR40分	大都市圏 政令指定都市	3,544,104人	8,911人	17.2%	0.5-25.1-72.4%

B. 「地域子ども教室以降「総合的な放課後対策」取り組み自治体

市区町名	立地条件	地域タイプ	総人口 2006年3月末	人口密度 可住地面積 1平方km当り	65歳以上 人口比率	一・二・三次産業人口比 2000年国勢調査
③福山市 (広島県)	広島駅より 新幹線25分	地方圏 中核市臨海部	462,950人	1,828人	19.9%	2.4-36.7-59.9%
④徳島市 (徳島県)	徳島空港より バス30分	地方圏 県庁所在地 (非中核市)	261,350人	1,882人	20.7%	4.6-23.1-69.4%
⑤常陸大宮市 (茨城県)	水戸駅より JR40分	首都圏 山間部	48,846人	372人	26.8%	16.2-35.7-47.7%
⑥大崎上島町 (広島県)	三原駅より 高速艇30分	地方圏 離島	9,348人	375人	40.5%	19.4-24.6-56.0%
⑦那賀町 (徳島県)	徳島空港より バス等1時間 30分	地方圏 山間部	11,368人	328人	32.8%	19.2-36.5-44.3%

1) 「総合的な放課後対策」先進的自治体

①江戸川区（東京都）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆区内全校で実施（73校／73校）

◆実施日数：294日

ii. 学童保育(留守家庭児童対策)との関係

◆一体的に実施

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

◆実施した

- b. コーディネーターの確保、育成
 - i. コーディネーターの確保状況
 - ◆ 1 教室に 1 人確保済み
 - ◆ 地域より推薦
 - ii. コーディネーターの役割
 - ◆ 地域、学校、行政などとの対外折衝が主
 - ◆ 日常的な教室対応は、サブマネージャーが主担当
 - iii. 市区町村としてのコーディネーター研修
 - ◆ なし
 - iv. サポート体制、連絡調整会議
 - ◆ 地域キーマン等からなる教室ごとの「サポートセンター」が応援、協力
 - ・ブロックごとの連絡会議

②横浜市（神奈川県）

- a. 放課後教室実施及び経緯
 - i. 全児童対象放課後対策の実施状況
 - ◆ 市内全校で実施（367 か所：キッズ 48、はまっ子 295、はまっ子充実型 24）
 - ◆ 実施日数：298 日
 - ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係
 - ◆ 約 2 割が一体、順次一体型に移行
 - iii. 「地域子ども教室」（平 16～18 年度）の実施状況
 - ◆ 実施した
- b. コーディネーターの確保、育成
 - i. コーディネーターの確保状況
 - ◆ 1 教室に 1 人確保済み
 - ◆ 地域より推薦、公募、校長 O B などの場合があり
 - ii. コーディネーターの役割
 - ◆ 地域、学校、行政などとの対外折衝も担当
 - ◆ 日常的な教室対応も、コーディネーターが主担当
 - iii. 市区町村としてのコーディネーター研修
 - ◆ はまっ子 4 回、キッズ 44 日 180 時間
 - iv. サポート体制、連絡調整会議
 - ◆ 研修終了後、個別に各教室で現地助言、指導
 - ・月一回（キッズは年 4 回）のコーディネーター連絡会

2) 地域子ども教室以降「総合的な放課後対策」取り組み自治体

③福山市（広島県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

- ◆開設意向ある学校全校で実施 35校／78校
- ◆実施日数：平均70～80日（週1回程度）

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

- ◆78校中74校に学童あり（学校内施設）。35校の放課後教室は併設。

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

- ◆36校で実施した

b. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆全体で3人（今後増員の予定）
- ◆地域子ども教室のコーディネーターに引き続き依頼

ii. コーディネーターの役割

- ◆広報誌制作他、教室情報の取材、教室間の情報共有支援
- ◆日常的な教室対応は、コーディネーター以外の教室指導員が主担当

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

- ◆地域キーマン等からなる教室ごとの「実行委員会」が応援、協力

④徳島市（徳島県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

- ◆市内の一部の学校で実施（3校／31校）
 - ・要望があり体制の整った学校から順次開設（年度に5校ずつ新設を計画）
- ◆実施日数：130日（週2回）2校、86日（週1回）1校

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

- ◆3校の実施校には学童なし。19度中に学童（学校内）と併設の教室を1校新設予定。

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

- ◆10校で実施した

b. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆全体（3校）で1人

◆紹介を受けて市より依頼。地域子ども教室への参画はなし。

ii. コーディネーターの役割

◆教室と行政及び教室間の調整、広報誌作成

◆日常的な教室対応は、コーディネーター以外の教室指導員が主担当。コーディネーターも、開催日には、原則教室巡回。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

◆地域キーマン等からなる教室ごとの「運営委員会」が応援、協力

⑤常陸大宮市（茨城県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆19年度中には要望のある全校で実施の予定（19年11月現在 11校／19校）

・要望校は13校で、19年度内に残り2校も実施予定

◆実施日数：200日

ii. 学童保育(留守家庭児童対策)との関係

◆学童併設2校、学童のみ(放課後教室なし)2校、9校(11校)が放課後教室単独

iii. 「地域子ども教室」(平16～18年度)の実施状況

◆1校で実施した

b. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

◆3人確保を予定しているが、19年11月現在では一人も確保できていない。

◆市職員の推薦で確保できず、教室指導員より公募したがやはり難しく、一般公募の予定で準備中である。

ii. コーディネーターの役割

◆地域、学校、行政などとの対外折衝が主になる予定である。

◆日常的な教室対応は、コーディネーター以外の教室指導員が主担当の予定である。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

◆年度内に1回開催予定である。

iv. サポート体制、連絡調整会議

◆地域キーマン等からなる教室ごとの「実行委員会」が応援、協力

・月1回の指導員会議(教室ごとに行政担当者が参加して開催)

⑥大崎上島町（広島県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆町内全校で実施（4校／4校）

・要望校は13校で、19年度内に残り2校も実施予定

◆実施日数：280日

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

◆一体的に実施

・留守家庭児童対策（学童保育補助はなし）から放課後教室に移行

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

◆1校で実施した

b. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

◆4校で1人確保できている。

◆留守家庭児童対策指導員から教室指導員を公募し、コーディネーターは町で任命

ii. コーディネーターの役割

◆保護者対応、プログラム実施の教室間の調整等が主

◆日常的な教室対応は、コーディネーター以外の教室指導員が主担当。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

◆地域キーマン等からなる教室ごとの「実行委員会」が応援、協力

・月1回のミーティング（コーディネーター及び各教室指導員参加）

⑦那賀町（徳島県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆町内の一部の学校で実施（1校／7校）

・要望の強い学校で開設。次年度1校新設予定。

◆実施日数：235日

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

◆1校の実施校に学童はなし。町内に1校の学童あり（放課後教室予定なし）。

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

◆1校で実施した

b. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆1人確保を予定しているが、19年11月現在では確保できていない。
- ◆退職校長に依頼すべく打診したが多忙で固辞。安全管理員からの選任などを検討中。

ii. コーディネーターの役割

- ◆教室と行政及び教室間の調整、地域と連携し活動プログラム企画
- ◆日常的な教室対応は、指導員が主担当。行政担当者も、開催日には、原則教室巡回。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

- ◆行政担当者がコーディネーターの役割を兼務、日常的に教室に顔を出しきめ細かく対応。

(2) 都道府県対象のケーススタディ

都道府県については、下記の3県を対象にケーススタディを行った。

- ①青森県
- ②島根県
- ③山口県

1) 青森県

①放課後子どもプラン普及のための企画

i. 「放課後子どもプラン」(全児童対象放課後対策) 普及のための指針

◆マニュアル提示

- ・「あおもりの地域子ども教室 虎の巻 運営編」
* Q & A 充実、「放課後教室」版に改訂中

ii. 「地域子ども教室」とのつながり

- ◆「地域子ども教室」実施に当たり、1年目に「安全管理マニュアル」作成、2年目に「虎の巻 運営編 遊び編」作成、3年目に「子ども教室フェスティバル」開催
- ◆この積み上げが「放課後子ども教室」実施につながっている

②放課後子どもプラン普及のための体制

i. 県と市町村の連携体制

- ◆県担当と県内6教育事務所担当(派遣社会教育主事が主)とによる、「放課後子ども教室運営検討委員会」を組織
・「虎の巻」改訂作業も担当

ii. 放課後児童健全育成事業(学童保育、放課後児童クラブ)との連携

- ◆学童保育の保育現場の事情、関係者間の研修、情報交換等の実情と、「放課後子どもプラン」でめざすものとは距離があるようであり、これを埋めることにも腐心している。

③教室運営

i. コーディネーターとは

- ◆地域住民と事業実施現場をつなぐコーディネーターにおいては、放課後子どもプランの事業趣旨の理解が欠かせない。保護者、行政、指導員、地域住民などと話す機会がもっとも多いセッションだと思う。放課後子どもプランについての誤解がある話しが聞こえたら、その場で対応できることが必要だと思う。
- ◆次には、地域で子どもを育てる必要性や子育て支援などに見識があることが望まれる。それが、地域の応援を得る力につながると考える。スキルとしては、地域の教育力をいかに事業に役立てるかという企画力、それを実現させる人間関係を築けることが必要だと考える。
- ◆そもそも、子どもと接する安全管理員、放課後児童指導員とコーディネーターとでは、

必要な力は、異なると考えている。青森県では、コーディネーター等研修と指導員研修では、ねらいが異なる。もちろん、どちらの講座も受講することが可能である。

④研修の実施状況

- ◆放課後子どもプランは、放課後子ども教室と放課後児童クラブの両事業を合わせたものであり、一体的あるいは連携しての実施が望まれている。しかしながら、放課後子ども教室と放課後児童クラブの趣旨は、発生的に異なっている。子どもの育成を中心にすえて、両事業関係者が相互理解を進めるためには、研修はもっとも重要であると認識している。青森県においては、両事業関係者に対する研修は、県教委が担当して、特に児童クラブ関係者には、貴重な研修機会になっている。
- ◆青森県では、指導員等研修会の前期を「放課後子どもプランフォーラム」として、できるだけ多くの関係者に呼びかけた。安全管理員、放課後児童指導員、児童館関係者、学校教員、PTA、民生委員等。放課後子どもプランの推進のためには、多くの方の力がいると考えたからである。後期は、「合同指導員等研修」として、事業関係者の話し合いに力点を置いた。指導員研修会は、関係者にとって、できるだけ身近な開催地とするため、6教育事務所に主管してもらっている。開催時間も、指導員方に支障の少ない午前中としている。講師は、県内講師である。アンケートでは、「もっと多く開催してほしい」「話し合いの時間が短い」、などの積極的な意見が多く見られる。
- ◆地方の市町村では、子ども教室、児童クラブの開設のための研修（準備として）を実施するという例は、まれであろう。また、教諭や保育士の資格を持つ方が確保できるとは、限らない。
- ◆他人の子どもの面倒をみるというのは、様々な困難があるようだ。研修では、講演だけでなく、ワークショップ形式での意見交換を重要視している。他の子ども教室や児童クラブの運営に関する情報交換や悩みの共有は、有意義であるようだ。今後、子どもへの対応、児童心理、遊びのプログラムなどの現場で必要なテーマも考えていきたい。
- ◆コーディネーター研修は、指導員等研修に比べて、レベルを高く設定している。コーディネーター、行政の事業担当者や指導員の主任クラスを対象と考えている。事業の中心となって推進していくことができる人材を育成したいと考えて、講師も県外からお願いしている。

2) 島根県

①放課後子どもプラン普及のための企画

i. 「放課後子どもプラン」(全児童対象放課後対策) 普及のための指針

◆ガイドライン提示

- ・「子どもたちの心安らぐ放課後や休日のために 島根県の放課後子どもプランについて」

- * 地域の実情や主体性に応じたプランのあり方、進め方（大枠）を提示
- ・ 放課後子どもプランの基本方針を、よく他県である議論の「学童保育事業と放課後子どもプランをうまく融合させるか」ではなく、古くから地域に根ざす団体（「読書会」、「スポーツ少年団」他）の力を借りながら、体系的に進めていく、としている。

ii. 「地域子ども教室」とのつながり

- ◆ 「地域子ども教室」の実施状況を踏まえるとともに、県独自に「ふるさと教育」「子どもの心やすらぐ居場所づくり支援事業（ハード支援が主）」なども推進しており、これらをベースに「放課後子ども教室」の普及に向けた指針を提示

②放課後子どもプラン普及のための体制

i. 県と市町村の連携体制

- ◆ 県から、11市町村に「地域教育コーディネーター」と呼ばれる派遣社会教育主事（教員）を配置しており、それを県の教育事務所にいるスタッフリーダーがまとめている。この「地域教育コーディネーター」が各地域をまとめている関係で、各地域の状況把握などコミュニケーションがスムーズで、県としては助かっている。放課後コーディネーターと行政の間に、「地域教育コーディネーター」がもう一枚噛むことで、各地域の状況管理やコミュニケーションが円滑になっている。
- ◆ 島根県の地域性からか、昔から公民館を子どもの居場所として活用しており、さらに地域子ども教室も3年を経て地域に根付いた感じで、それらのリソースをうまく活用し、放課後子どもプランに移行している。

ii. 放課後児童健全育成事業（学童保育、放課後児童クラブ）との連携

- ◆ 県の基本方針は、「学童保育事業と放課後子どもプランをうまく融合させるか」ではなく、古くから地域に根ざす団体の力を借りながら、体系的に進めていく、としている。こうしたハッキリしたビジョンを県が示した上で、コーディネーターの役割を「各地域の状況に合った放課後の姿をつくること」としているのでもわかりやすいし、ぶれない。

③教室運営

i. コーディネーターとは

- ◆ 県として、コーディネーターの役割は、各地域の状況を見た上で各小学校区での放課後対策についてその方向性を示すことだと考えている。

ii. プラン実施あるいは教室運営上の課題

- ◆ 放課後子どもプランを進める上で、以下の三大課題を抱えている。
 - ・ コーディネーター、および指導員の確保が難しい（特に山間部・離島）
 - ・ 保護者の理解・参画を得るのが難しい
 - ・ 予算確保の問題

④研修の実施状況

- ◆ 今年度のコーディネーター研修については2日間で、任意参加。研修内容は遊びに関

すること、障害児対応など。任意研修であるだけにどうしたら来ていただけるのが最大の課題。

- ◆もともと地域子ども教室用に、県単独で生涯学習推進センターや香川大学助教授と連携してつくりあげた、コーディネーター・指導員・ボランティア用の研修（前年度実施）があった。コーディネーターは総論、指導員・ボランティアは各論に重きを置いている内容で、コーディネーターの研修はファシリテート力育成の内容が含まれており、かなりハイレベルであった。
- ◆来年度は、上記前年度の内容を、今年度の研修内容に少し加えたものを予定している。

3) 山口県

①放課後子どもプラン普及のための企画

i. 「放課後子どもプラン」（全児童対象放課後対策）普及のための指針

◆【マニュアル提示】

- ・「ちいきいきいき 子どもサポーターハンドブック できるっちゃ！」
 - *コンパクトに総論から各論（実践編）、文書例まで掲載
 - *「放課後教室」版に改訂中
- ・「子どもたちの心安らぐ放課後や休日のために 島根県の放課後子どもプランについて」

ii. 「地域子ども教室」とのつながり

- ◆「地域子ども教室」の実践を踏まえて、上記の「ハンドブック」を、平成19年3月に発行

②放課後子どもプラン普及のための体制

i. 県と市町村の連携体制

- ◆県内で33人のコーディネーター（全市町村に配置）のうち、県派遣社会教育主事の兼務が10人、一般行政職の兼務が3人、地域の一般の方の「選任コーディネーター」が20人

ii. 放課後児童健全育成事業（学童保育、放課後児童クラブ）との連携

- ◆児童クラブとの連携については難しいと感じている。特に、指導員の謝金単価の違いなどは、調整が難しい。
- ◆児童クラブ（学童保育）の指導員は、経験が長く、保育士、教員資格保有者なども多く、しっかりとしているが、新たな子ども観や放課後対策等の受け入れにはやや抵抗感があるようにも感じられる

④研修の実施状況

- ◆2回の研修を実施。可能ならば3回の研修が望ましいが、経費と時間の制約で2回にせざるを得なかった
- ◆1回目：年度初めに実施：プランの概要、理論編：実施に当たっては、アンケート調

査を実施して、研修への要望や教室実施に当たって直面している課題などを詳細に把握し、これをもとに研修内容を決定

- ◆2回目：2月に実施予定：1年間の実践を通して事例発表、情報交換、「次年度に向けて」
- ◆次年度研修では、もう少し実践的内容を深めることや、初心者研修と経験者のスキルアップ研修などが必要かとも考えている。教室間の相互訪問なども採り入れたい。
- ◆県の研修では市町村間の情報交換等が主になり、市町村の研修では、スキルアップやより現場に近い内容が主になるのではないか

Ⅱ. コーディネーター対象調査

1. コーディネーター対象アンケート調査の結果

市区町村対象アンケートにおいて「コーディネーターがいる」と回答のあった下表の市町を対象にアンケートを送付した。

教育委員会等に一括で送付してコーディネーターへの配布をお願いし、回収についてはFAXでの直接返信あるいは教育委員会経由とした。

<コーディネーター対象アンケート調査の実施概要>

□発送数：2008年1月18日発送：合計399

□回収数：2008年2月4日締切：合計223

□回収率：55.9%

フェイスシート：所属市町(SA)

(1) 回答者の属性等

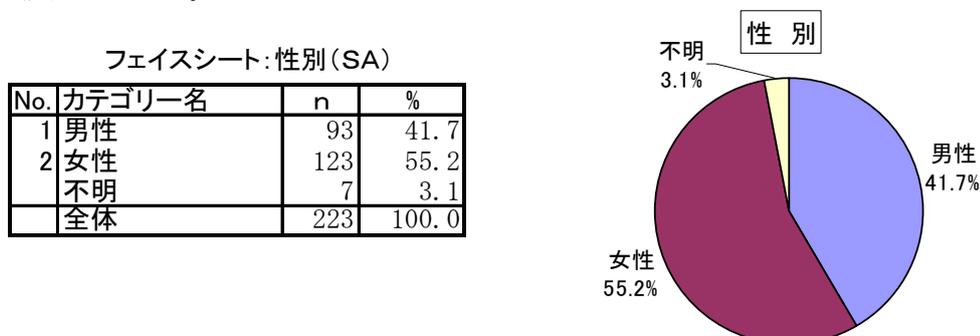
1) 所属自治体

- ◆配布対象の多くが都市であり、しかも回収サンプルの多数を首都圏及び関西圏の大都市のコーディネーターが占めることになった。
- ◆回答のあった市町については、多くが、自治体に所属する全コーディネーターの半数以上から回答があった。
- ◆都市への偏りはあるものの、33頁に示す「問8：コーディネーターとしての関わり方」の結果のようにコーディネータータイプとしては比較的偏りの少ないデータが得られたといえる。

No.	カテゴリー名	n	%
1	札幌市	1	0.4
2	函館市	2	0.9
3	青森市	6	2.7
4	おいらせ町	1	0.4
5	二戸市	1	0.4
6	本吉町	1	0.4
7	大仙市	3	1.3
8	山形市	0	0.0
9	西川町	1	0.4
10	長岡市	1	0.4
11	田村市	5	2.2
12	三春町	1	0.4
13	宇都宮市	1	0.4
14	さいたま市	5	2.2
15	所沢市	1	0.4
16	日野市	10	4.5
17	横浜市はまっ子	23	10.3
18	横浜市キッズ	22	9.9
19	新潟市	28	13.3
20	高岡市	17	7.6
21	勝山市	1	0.4
22	坂井市	0	0.0
23	長野市	0	0.0
40	岐阜市	2	0.9
24	東海市	11	4.9
25	堺市	3	1.3
26	守口市	18	8.1
27	箕面市	0	0.0
28	神戸市	26	11.7
29	松江市	15	6.7
30	雲南市	0	0.0
31	矢掛町	0	0.0
32	下関市	4	1.8
33	萩市	4	1.8
34	徳島市	1	0.4
35	安芸市	0	0.0
36	黒潮町	1	0.4
37	福岡市	7	3.1
38	江北町	0	0.0
39	久米島町	0	0.0
	不明	0	0.0
	全体	223	100.0

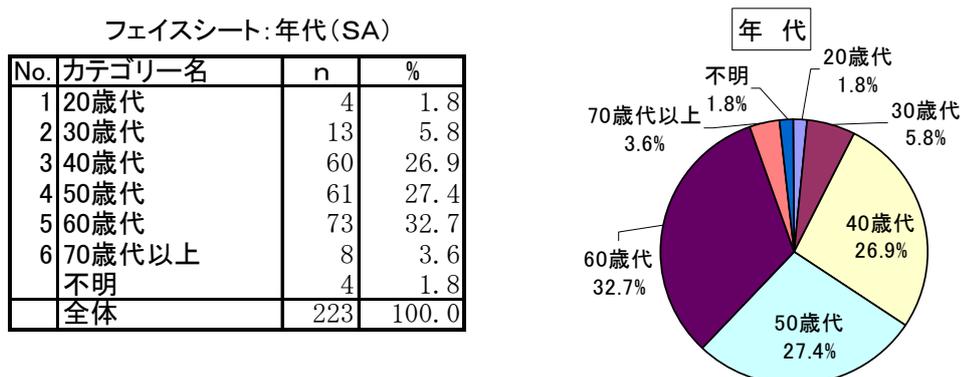
2) 性別

- ◆ケーススタディの印象からは女性が多数を占めると予想したが、結果は、やや女性上位との傾向であった。



3) 年代

- ◆40歳代、50歳代、60歳代がそれぞれ約3割を占めている。
- ◆少数ではあるが、20歳代のコーディネーターも4名から回答があった。



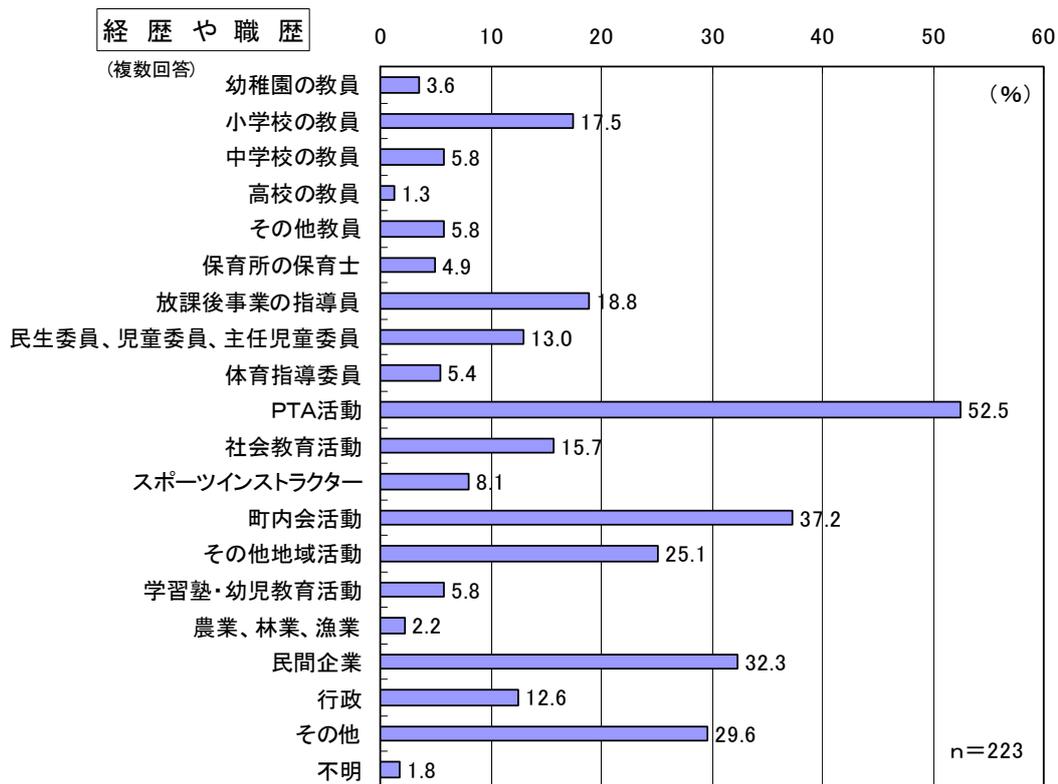
(2) 経験、職歴、資格等

問1:自身の経歴や職歴(MA)

1) 経験や職歴

- ◆PTA活動経験者(子育て経験者)が半数を超える。
- ◆次いで多いのが町内会活動経験者、民間企業経験者で、それぞれ3割前後である。
- ◆教員経験者は、小学校、中学校、高校、その他教員、幼稚園を合計すると34.0%、保育士を加えると38.9%となる。

No.	カテゴリー名	n	%
10	PTA活動	117	52.5
13	町内会活動	83	37.2
17	民間企業	72	32.3
14	その他地域活動	56	25.1
7	放課後事業の指導員	42	18.8
2	小学校の教員	39	17.5
11	社会教育活動	35	15.7
8	民生委員、児童委員、主任児童委員	29	13.0
18	行政	28	12.6
12	スポーツインストラクター	18	8.1
3	中学校の教員	13	5.8
5	その他教員	13	5.8
15	学習塾・幼児教育活動	13	5.8
9	体育指導委員	12	5.4
6	保育所の保育士	11	4.9
1	幼稚園の教員	8	3.6
16	農業、林業、漁業	5	2.2
4	高校の教員	3	1.3
19	その他	66	29.6
	不明	4	1.8
	全体	223	100.0



2) 子どもの指導や保育に関わる資格の保有状況

- ◆資格については教員免許及び保育士資格の保有者が多数を占める。
- ◆社会教育主事については3.6%と、ケーススタディ(県、市区町村等訪問調査)で得られた印象ほどは多くなかった。

問2: 資格の保有状況(MA)

No.	カテゴリー名	n	%
3	中学校教諭	54	24.2
2	小学校教諭	41	18.4
4	高校教諭	32	14.3
12	民生委員・児童委員	28	12.6
1	幼稚園教諭	19	8.5
6	保育士	12	5.4
8	社会教育主事	8	3.6
13	生涯学習インストラクター	8	3.6
7	指導主事	5	2.2
5	その他教諭	4	1.8
11	児童の遊びを指導する者(児童厚生員)	4	1.8
10	社会福祉士	3	1.3
9	児童福祉司	2	0.9
14	その他	33	14.8
	不明	88	39.5
	全体	223	100.0

3) “放課後子ども教室等”のコーディネーターとしてもっともためになっている経験

下記は、「もっとも“ため”になっている経験」についての自由記述の一部であるが、人それぞれの様々な経験が、教室コーディネーターに活かされていることがわかる。

問3:コーディネーターとして活動する中で、もっとも“ため”になっていると感じる経験)

タイプ	*タイプ1~4は、70頁のタイプ分けに対応
PTAでの経験	
1	特別な経験は言えませんが、「地域活動の参加」が最もためになっていると感じる。具体的には町内会の活動、PTA活動、地域出身議員の方の応援活動等。それらを通しての人脈が現在、コーディネーター活動において非常にためになっている。
1・4	PTA活動及びファミリーサポートの経験、施設開放、スポーツクラブでの子供達のふれあいの中から多くの子供達の生の意見が参考になっている。
生涯学習、社会教育での経験	
1	社会教育活動の中の子どもに関するプログラムを学んだ事。家庭教育学級で8年間委員長として、企画し、講座を開いて学んだ事。アソシエーション講座、カウンセリング講座
2	生涯学習インストラクターとしても勉強させてもらい、又、たくさんの方々から意見や工夫の助言を頂き、今の子ども達、これからの子ども達にも少しでもプラスになる子ども教室を作っていける一人としてこれからも力になりたいです。
2・4	3人の子ども育てた母親としての経験と、放送大学で教育学、心理学を学んだこと。区の生涯学習センターで学習相談員として様々な人脈を作れたこと等が全て役立っていると思います。
3	生涯学習まちづくりコーディネーター、ボランティアコーディネーター
3・4	地域子ども教室コーディネーター、人間ファシリテーター養成講座、家庭教育支援者ネットワーク形成講座(18日間)等の県社協センターでの学習等
	全国組織のおよこ劇場に入っている。同組織は会員制で会費で運営されており、生の舞台鑑賞を主に子どもの文化に携わり、親・子共々感動を共有し、成長していこうとするNPO。今年で17年目になるが、子どもの関わり、大人との関わりにおいて共通項が多い。
児童クラブ、YMCA等での経験	
1	放課後児童クラブの指導員を10年間続けたことです。その間に得た知識(研修、実践)は、現在、プログラムの立案などに役立っています。また、子育て経験が大きな自信になっています。
2	組織(YMCA)で幅広い青少年活動を通して子どもと常に関わりを持っていたことが一番の経験である。未就園児から高齢者までの広範囲にわたる年齢層のプログラムを実行してきたことも自信につながっている。
教員等、学校での経験	
1	教育センターでの教育相談の経験。スクールカウンセラーの経験。
2	学校で仕事をしていた経験(数多くの子どもや親と接した経験、学校組織を体験していたこと)、一般事務を手伝ったこと(公務員とは違う環境)、PTA活動(母親たちの学校に対する関わり方を知ることになった)
3	教員として身に付けた経験、体験と地域に入ってからボランティア活動(子育て支援事業代表)。また、主任児童委員としての研修など、相談員として個別の苦しみや悩みなどに触れたこと。これらが相互に作用して自分らしいスタンスを形成できたことは、ふり返ってみると本当に良かった。 施設開放事業を進めていく中で、学校とのつながりがあった事。
民間企業での経験	
1	40年以上の民間企業で修得した人間関係、組織の中での対応、
1	前職の営業で対人との係わりが“ため”になっている。子育ての経験があるので親の気持ちも、地域の住民としての立場も、ある程度の子どもの成長段階も理解出来る。
行政での経験	
1	行政に関わった5年間(嘱託職員として)に、地域人材バンクに関する様々な業務を経験した事が役立っている。

(3) コーディネーターになった経緯や当初の不安等

1) コーディネーターになった経緯

◆コーディネーターになった経緯は、学校・PTAからの推薦がもっとも多いが、自治体からの推薦、地域からの推薦も比較的多く、多様なルート形態になっている。

◆公募も12.1%とかなり多い。

問4: コーディネーターになった経緯(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
4	学校・PTAから推薦・依頼された	71	31.8
2	自治体から推薦・依頼された	62	27.8
3	地域から推薦・依頼された	53	23.8
1	公募に応じた	27	12.1
5	その他	45	20.2
	不明	3	1.3
	全体	223	100.0

2) コーディネーターに従事した際の当初の不安

①不安の有無

◆1/3が「特に不安はなかった」とするが、残りの2/3は何らかの不安があったと回答している。

問5: コーディネーターに従事する際の当初の不安(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
1	特に不安はなかった	77	34.5
2	多少不安であった	99	44.4
3	かなり不安であった	30	13.5
4	大変不安であった	14	6.3
	不明	3	1.3
	全体	223	100.0

②不安の内容

◆不安の内容は、子どもを預かるということから「安全管理」について不安があったとの回答が半数を超える。

◆その他では、「業務内容」「事務処理」「運営スタッフとの関係づくり」など、具体的な事柄についての不安が上位を占めている。

問6: 当初の不安の内容(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
7	安全管理について不安	76	53.1
1	業務内容がわからない	61	42.7
8	事務処理等について不安	46	32.2
3	運営スタッフとの関係づくりが不安	43	30.1
5	学校との関わり方が不安	35	24.5
2	児童との関わり方が不安	33	23.1
4	保護者との関わり方が不安	27	18.9
9	専門知識について不安	21	14.7
6	地域との関わり方が不安	18	12.6
10	その他	15	10.5
	不明	1	0.7
	非該当	80	
	全体	143	100.0

③不安の解消

◆不安の解消については、「教室スタッフと話しをして」「行政担当者と話しをして」「教室の雰囲気慣れるにつれ」「他のコーディネーターと話しをして」など、現場に慣れるにつれ解消される傾向にあるが、「まだ解消されていない」とするコーディネーターも1/4弱いる点は特筆される。

問7: 当初の不安の解消(SA)

No.	カテゴリー名	n	%
3	教室スタッフと話しをして	51	35.7
2	行政担当者と話しをして	49	34.3
4	他のコーディネーターと話しをして	43	30.1
7	教室の雰囲気に慣れるにつれ	43	30.1
1	まだ解消されていない	32	22.4
6	教室の子ども達と話しをして	26	18.2
5	保護者と話しをして	16	11.2
8	研修を受けて	11	7.7
9	その他	15	10.5
	不明	8	5.6
	非該当	80	
	全体	143	100.0

(4) コーディネーターとしての役割や業務

1) コーディネーターとしての関わり方

コーディネーターとしての関わり方の基本スタンスを把握するために、「コーディネーターとしての“あなたの関わり方”について尋ねた。

「1. 直接的な教室運営が主」「2. 学校、地域、行政との連携、調整に関わる」「3. 国・県、民間企業等まで関わる」「4. 放課後教室と児童クラブとの連携に関わる」という、4つの関わり方それぞれについて、「行政(教育委員会など)からの期待」はあるか(ないか)、「自身の実際」は関わりがあるか、「自身の希望」としては関わりたいかと尋ねた。

結果は、下表にまとめて示した。

①行政からの期待

◆1～4のいずれの関わり方についても「Yes (あり)」とする割合が半数を下回っており、行政からは、特に役割(何をやってほしいか)について明確な依頼、指示がなされていない場合が多いものとうかがわれる。

②自身の実際の関わり方

◆「1. 直接的な教室運営」には3/4のコーディネーターが関わっているという回答である。「2. 教室、学校、地域、行政との連携、調整」に関わっているのは半数弱(44.9%)で、より広く「3. 国・県、民間企業等」との多様な関わりの中で活動している方は1割弱(9.4%)である。

③自身として希望する関わり方

◆自身の希望する関わり方については答えにくかったようで、1～4のいずれも「行政からの期待」を下回る回答率(Yesの率)に留まっている。

No.	コーディネーターとしての役割認識 (関わり方の基本スタンス)	行政からの期待		自身の実際		自身の希望		
		n	%	n	%	n	%	
1	「直接的な教室運営」への関わり 教室(放課後子ども教室等)の運営が主要業務で、子ども、保護者、自教室スタッフ、行政担当者等への対応が主である。	Yes	92	41.3	164	73.5	78	35.0
		No	131	58.7	59	26.5	145	65.0
2	「学校、地域、行政との連携、調整」に関わり 教室、学校と地域や行政との連携や調整が主要業務で、地域の人々や担当以外の行政関係者、複数の教室のスタッフ、学校関係者等への対応も行なう。	Yes	78	35.0	99	44.4	51	22.9
		No	145	65.0	124	55.6	172	77.1
3	「国・県、民間企業等まで」に関わり 教室運営に留まらずに、国・都道府県等行政や民間企業、他地域の教室、行政等の状況も意識して連携できるものは連携するなど、総合的な放課後対策全般の企画、運営にも関わる。	Yes	57	25.6	21	9.4	36	16.1
		No	166	74.4	202	90.6	187	83.9
4	「放課後教室」と「児童クラブ」との連携に関わり 「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携や調整にも関わる。	Yes	63	28.3	52	23.3	42	18.8
		No	160	71.7	171	76.7	181	81.2
5	上のいずれでもない関わり方	Yes	8	3.6	6	2.7	8	3.6
		No	215	96.4	217	97.3	215	96.4
6	わからない	Yes	10	4.5	4	1.8	5	2.2
		No	213	95.5	219	98.2	218	97.8

2) 担当教室数、活動時間、謝金等

①担当している教室数

- ◆「1教室」との回答が7割弱を占めている。
- ◆担当数をもっとも多いのは44教室(1人:札幌市)、次いで22教室(1人:岐阜市)である。

②コーディネーターとしての活動時間

- ◆「週5日」活動されているコーディネーターが69人(30.9%)ともっとも多い。このうち、45人が横浜市の「はまっ子スクール」「放課後キッズクラブ」のコーディネーターである。
- *横浜市分を除くと、「週1日」22.5%、「週2日」17.4%、「週3日」11.2%、「週4日」7.3%、「週5日」13.5%、「週6日」5.1%となる。

③コーディネーターとしての謝金等(謝金、報奨金、報酬等)

- ◆この結果は、横浜市分の回答を除いたものである(月に240,000円という形態のため)。ちなみに、横浜市を金額を時給換算すると、 $240,000 \text{円} \times 12 \text{ヶ月} (288 \text{万円}) \div (1,500 \text{時間} : \text{週} 30 \text{時間} \times 50 \text{週})$ で、1,920円となる。
- ◆横浜市以外ではかなりバラつきがあり、「500円未満」が9.9%いる一方で、「1,700~3,000円未満」も11.2%とかなり多い。
- ◆横浜市を除く全回答の平均値は1,100円弱である。

*参考までに、年給に換算した結果が下表である。換算については、時給×予想年間時間(週当たり時間数×予想される実施週数)で計算した。年間活動日数や週数を尋ねていないためにかなり信頼度の低い結果であり、参考値としての紹介に留める。

問9:担当している教室数(数値記入)

No.	カテゴリー名	n	%
1	1教室	154	69.1
2	2教室	23	10.3
3	3教室	15	6.7
4	4教室	8	3.6
5	5教室	3	1.3
6	6教室	7	3.1
7	7教室	2	0.9
8	8教室	1	0.4
9	10教室	1	0.4
10	11教室	1	0.4
11	13教室	2	0.9
12	22教室	1	0.4
13	44教室	1	0.4
14	不明	4	1.8
	全体	223	100.0

問10:活動時間(数値記入)

No.	カテゴリー名	n	%
1	週に1日	40	17.9
2	週に2日	31	13.9
3	週に3日	20	9.0
4	週に4日	13	5.8
5	週に5日	69	30.9
6	週に6日	9	4.0
7	その他、不明	41	18.4
	全体	223	100.0

問11:謝金等:時給(数値記入)

No.	カテゴリー名	n	%
1	500円未満	22	9.9
2	500~800円未満	24	10.8
3	800~1,000円未満	24	10.8
4	1,000~1,300円未満	26	11.7
5	1,300~1,700円未満	17	7.6
6	1,700~3,000円未満	25	11.2
7	4,000~4,500円	3	1.3
8	その他、不明	82	36.8
	全体	223	100.0

問11:謝金等:年給(予想値)

No.	カテゴリー名	n	%
1	10万円未満	28	12.6
2	10~20万円未満	15	6.7
3	20~30万円未満	10	4.5
4	30~70万円未満	12	5.4
5	70~100万円未満	15	6.7
6	100~200万円未満	6	2.7
7	200~350万円未満	7	3.1
7	460万円	1	0.4
8	その他、不明	129	57.8
	全体	223	100.0

3) コーディネーターの役割

① コーディネーターと他の教室スタッフ等との役割分担

◆ 下段に位置する「安全管理」「子供へのしつけまりの徹底」「遊びや体験活動の日常的対応」「学習支援の日常的対応」以外の項目は、全て「コーディネーターが主担当」とする割合がもっとも高い。

◆ 全ての項目において、市区町村と都道府県が「コーディネーターが主担当」とした割合を大きく上回っている。自治体が認識している以上に、多くの業務をコーディネーター自身は「自分の仕事」と強く認識している。

問 12: コーディネーターと他の教室スタッフとの実務上の業務分担(各項目ごとにSA)

市区町村、都道府県調査との比較		コーディネーターの回答								市区町村		都道府県				
		コーディネーターが主担当		コーディネーター以外のスタッフが主		コーディネーターも他スタッフも同等		教育委員会等行政が主担当		コーディネーターが主担当		コーディネーターが主担当				
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%			
学校対応	学校との折衝、協力依頼	172	77.1	①	8	3.6	18	8.1	21	9.4	21	38.2	⑥	12	36.4	②
行政対応	行政、学校等への連絡・報告文書作成	149	66.8	②	9	4.0	19	8.5	35	15.7	27	49.1	①	12	36.4	②
地域対応	地域の方への協力依頼、動員要請	141	63.2	③	9	4.0	27	12.1	29	13.0	24	43.6	③	13	39.3	①
保護者対応	保護者からの要望、苦情への対応	140	62.8	④	22	9.9	33	14.8	27	12.1	17	30.9		3	9.1	
	保護者への日常的な連絡・報告文書作成	132		⑤	31	13.9	24	10.8	19	8.5	21	38.2	⑤	6	18.2	⑧
行政対応	行政との折衝	127	57.0	⑥	7	3.1	12	5.4	47	21.1	25	45.5	②	11	33.3	④
保護者対応	保護者、地域等への教室への理解、協力呼びかけ文書作成	127	57.0	⑥	17	7.6	19	8.5	50	22.4	19	34.5	⑦	6	18.2	⑧
行政対応	行政、学校等への提案・要望文書作成	121	54.3	⑧	8	3.6	14	6.3	47	21.1	24	43.6	④	11	33.3	④
	放課後教室等への児童の登録・参加呼びかけ文書作成	115	51.6	⑨	27	12.1	26	11.7	42	18.8	19	34.5	⑦	9	27.3	⑥
教室内対応	子ども向けの教室掲示物や文書作成	104		⑩	39	17.5	55	24.7	15	6.7	16	29.1	⑩	7	21.2	⑦
行政対応	「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携、調整	99			10	4.5	18	8.1	39	17.5						
保護者対応	保護者への日常的な対応、連絡	98	43.9		39	17.5	73	32.7	10	4.5	11	20.0		2	6.1	
教室内対応	教室活動の日常的な記録文書作成	95	42.6		56	25.1	63	28.3	4	1.8	12	21.8		3	9.1	⑩
	安全管理	57	25.6		38	17.0	147	65.9	5	2.2	1	1.8		1	3.0	
	子どもへのしつけやまりの徹底	44	19.7		48	21.5	144	64.6	1	0.4	3	5.5		0	0.0	
	子どもの遊びや体験活動の日常的対応	40	17.9		58	26.0	134		1	0.4	3	5.5		2	6.1	
	子どもへの学習支援の日常的対応	25	11.2		55	24.7	104	46.6	2	0.9	2	3.6		1	3.0	

②コーディネーターとして最も重要だと思う役割

下記は「もっとも重要な役割」についての自由記述の一部であるが、「子どものため」を第一に、スタッフも大切にするという基本の上で、「最も重要な役割」は多様である。

問 13: コーディネーターとして、もっとも重要な役割

タイプ	*タイプ 1~4 は、70 頁のタイプ分けに対応
1	年間の予算や決算等経理面も重要な業務と考えます。
1	子どもに必要な教室がどんなものかを考え、それに適した講師を依頼する。と同時に学校側に教室の意図に対してご理解、ご協力を頂くこと。企画した教室の評価を得て次年度に引き継ぎ、新たな企画に結びつけられるようなものを残す事。何より、子どもに対する視点を第一に考えることだと考えます。行政は、それに対する援助を行う体制を整えて欲しいです。
1	教室の企画力、運営力が必要です。講師の方との潤滑な交渉ができないとうまくいきません。相手の気質など見抜いて、対応していかなければいけないと思います。
1	スタッフが放課後子ども教室等の活動を負担に感じることがないようにすることが、最も重要だと思う。子ども達にも、スタッフにも「楽しく」過ごせることがベストだと思う。
1	遊びや体験活動、学習支援等の日常的対応、安全管理など、直接子どもに関わる内容が重要な役割と考え、捉えている。教室記録作成、教室内掲示物作成、保護者への連絡文書作成は、記録・報告もあるので、コーディネーター業務の一つとしてとらえている。地域への協力・動員要請、登録・参加呼びかけ、教室への理解・協力呼びかけ、行政等への提案などは本校の教頭が引き受けてくれている。
1	子供達が安全かつ楽しく過ごせる事が最重要で最優先。それを実践するために行政・学校・地域・現場のスタッフ(パートナー)保護者等との調整。
1	運営スタッフとのコミュニケーション。子供達が自立して遊ぼうとする環境作り、サポート。遊びを通じ子供達への教育(整理整頓、あいさつ、物を大切に扱う、後始末、人間関係等)、危険な行為への見守り。
1・4	運営委員会、学校との連絡調整、児童の安全管理とこどものしつけ、きまりの徹底
1・4	教室内容の充実(児童の参加満足感)と児童の安全管理(教室内、下校時)及びそれができる教室運営のための指導員間、学校、行政、児童クラブ等との連絡調整。
1・4	全体のバランスを考えられること。私自身仕事や地域活動、PTA活動をしつつコーディネーターをしているが、質量とも限界がある。コーディネーターは兼任できる事業ではない。
2	児童、指導員のパイプ役である事
2	安全管理が最重要と考えています。スタッフとの和が大切。
2	質の高いサービスをどれだけできるか
2	対外的な対応が主な仕事。スタッフから、日常の報告(子ども達の様子の変化)を沢山受けて、保護者先生方と話し合い、子どもへの指導方針を具体化して、また、スタッフに現場でいかしてもらおう。
2	事業の趣旨、必要性を自分の実践も含めて、色々な立場の人達にわかりやすく伝える。学校、地域の現状を踏まえつつ、そこで出来る取り組みを具体化し、実行する人材発掘をする。思う通りにいかななくても相手の立場や思いを尊重する柔軟なコミュニケーションをする。
2	ここで表されているコーディネーターの仕事内容は、堺市放課後ルームでは各クラスの主任が業務として行っている。コーディネーターは7校の統括として行政との折衝やクラスの健全運営のプランニング、新規プログラムの提案を行っている。又、各校主任指導員の研修プランニングも含めて、全体を把握しているのが現状です。
2・4	子どもとして「楽しい居場所」を運営できること。学校的なものではなく、あくまでも遊びの場であれば、子ども達は居ることが苦痛になってしまう。安全であることは当然のこと。
2・4	全体を見渡し、地域、学校との連携の中で子ども達が、学校や家庭ではできない面での豊かな体験の場となるよう運営すること。
2・4	保護者、学校等、理解(教室)を地域共々に参加協力できるよう呼びかけの柱になるよう努力している。また、時代のニーズにあうプランを取りあげている。
3・4	会計処理
3・4	1. 総合政策、コーディネートする考えに立つ事。2. 中・長期の視点に立った考えや計画反映。3. 年度の計画立案 4. 人と人、行政と団体・地域と教室のつなぎ役

(5) コーディネーターに必要と思われる資質、能力

1) コーディネーターとして必要と思われる資質および自身について

- ◆「コーディネーターとして必要だと思う」上位(①～⑧)は、教室を「無事を守る」(極力問題が出ないようにし、問題が起きたら誠実に対応する)上で必要な資質といえる。
- ◆中位(⑨、⑩、⑪)は、「問題、改善点などを洗い出しながらよりよくしていく」という傾向の資質である。
- ◆下位(⑫～⑮)は、自己の主張やビジョンを明確に示して、スタッフの本音も引き出しながら、教室に留まらず「総合的な放課後対策全般を改善、創造」していくという傾向の、かなり高度な資質といえそうである。
- ◆「自分自身に備わっているか」に注目すると、「1. 全体を調整しまとめる」「1. クレーム、トラブルを冷静に受け止める」など受動傾向の資質については、備わっているとの自己評価が高くなっているが、「7. メンバー個々の個性引き出し」「8. 地域からの動員」など、能動傾向の資質については、必要であるとは分かっていながら、自己評価はやや低めになっている。

問 14: コーディネーターとして必要と思われる資質、また自身に備わっているか(各項目ごとにSA×2)

	コーディネーターとして必要だと思う資質、能力及びそれらが自分自身に備わっているか	コーディネーターとして必要だと思う		自分自身に備わっていると思う			
		n	%	n	%		
教室を守る	問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる資質	①	179	80.3	3	111	49.8
	事業に関わるメンバー個々の意見や要望を踏まえながら、調整して全体をうまくまとめられる資質	②	175	78.5	1	114	51.1
	クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質	③	174	78.0	1	114	51.1
	的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論	④	169	75.8	3	111	49.8
	事業に関わるメンバー個々の個性や持ち味を引き出して教室運営などに活かすことのできる資質	⑤	152	68.2	7	86	38.6
	メンバー以外の地域の人々にも呼びかけ、協力を依頼して教室運営などに活かすことのできる資質	⑥	152	68.2	8	85	38.1
	利用者や顧客(教室では子どもや保護者)の立場からも考えられる資質	⑦	150	67.3	5	98	43.9
	記録・報告文書や経理・集計表などをまとめる能力	⑧	137	61.4	9	82	36.8
教室をよりよくする	相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気のできる資質	⑨	134	60.1	6	93	41.7
	自分の意見、主張や願いを相手に的確に伝えられる資質	⑩	130	58.3		76	34.1
	ビジョンやあり方に照らして、定期的に問題や課題を認識して、改善を加えていける資質	⑪	129	57.8		65	29.1
放課後対策を創造する	事業や活動のビジョン(「放課後子ども教室」のあり方等)を示す資質	⑫	125	56.1		43	19.3
	事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞く資質	⑬	123	55.2		76	34.1
	事業に関わるメンバーの心構えなど組織としてのあり方を示す資質	⑭	117	52.5		62	27.8
	アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成する能力	⑮	97	43.5		50	22.4

2) コーディネーターとして必要な資質、能力を身につけた経緯

- ◆多くの項目において、まず「社会人としての経験」、次に「PTAでの経験」で得られたとする回答が多数を占める。
- ◆「PTAでの経験」がもっとも活かしているのは「⑩自分の意見、主張やお願いを相手に的確に伝えられる資質」(39.5%)で、次いで「①メンバー個々の意見や要望を踏まえて全体をまとめられる資質」であり、女性が、「家庭から社会へと一步脱皮する機会、場」としてPTAが機能しているものと推察できる。
- ◆「家庭での経験」が比較的活かしているのは、「③適確な子ども観、接し方」「⑤利用者や顧客(保護者、子ども)の立場からの考え」である。
- ◆「近所・地域での経験(町会等)」が活かしているのは、当然であるが「⑧地域の人々への呼びかけ、協力依頼、活用」においてである。
- ◆「⑭アピール性、説得力ある文書、ポスター等作成」には、学生時代の経験が活かしているとする割合が比較的高い。

問 14: コーディネーターとして必要で自身に備わっているか資質、能力を身につけた経緯(各項目ごとにMA)

	「自分自身に備わっていると思う」とした割合	1子ども時代の経験	2学生時代の経験	3社会人としての経験	4家庭での経験	5 PTAでの経験	6近所・地域での経験	7地域子ども教室での経験	8放課後子ども教室での経験	9地域・放課後子ども教室の研修	
											n
教室を守る	① 事業に関わるメンバー個々の意見や要望を踏まえながら、調整して全体をうまくまとめられる資質	114	51.1			60.5	37.7 ②	28.1	23.7	7.0	
	① クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質	114	51.1			70.2 ②	32.5 ⑥	21.9	21.9	10.5 ⑦	
	③ 問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる資質	111	49.8			73.0 ①	30.6	31.5	25.2	11.7 ⑥	
	③ 的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論	111	49.8			46.8	45.0	31.5	30.6	12.6 ④	
	⑤ 利用者や顧客(教室では子どもや保護者)の立場からも考えられる資質	98	43.9			50.0	33.7	32.7 ⑤	23.5	8.2	
教室をよりよくなる	⑥ 相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気のできる資質	93	41.7			57.0	28.0	23.7	21.5	7.5	
教室を守る	⑦ 事業に関わるメンバー個々の個性や持ち味を引き出して教室運営などに活かすことのできる資質	86	38.6			68.6 ②	36.0 ③	27.9	29.1	7.0	
	⑧ メンバー以外の地域の人々にも呼びかけ、協力を依頼して教室運営などに活かすことのできる資質	85	38.1			44.7	35.3 ④	54.1	18.8	9.4	
	⑨ 記録・報告文書や経理・集計表などをまとめる能力	82	36.8			66.3 ⑤	24.1	14.5	13.3	8.4	
教室をよりよくなる	⑩ 自分の意見、主張やお願いを相手に的確に伝えられる資質	76	34.1			65.8 ⑥	39.5 ①	31.6	19.7	7.9	
放課後対策を創造する	⑩ 事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞く資質	76	34.1			57.9	26.3	31.6	26.3	23.7	9.2
教室をよりよくなる	⑫ ビジョンやあり方に照らして、定期的に問題や課題を認識して、改善を加えていける資質	65	29.1			67.7 ②	29.2		26.2	13.8 ⑤	
放課後対策を創造する	⑬ 事業に関わるメンバーの心構えなど組織としてのあり方を示す資質	62	27.8			62.9 ⑦	22.6		30.6	17.7 ②	
	⑭ アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成する能力	50	22.4			38.0	60.0	32.0 ⑦	22.0	12.0 ⑤	
	⑮ 事業や活動のビジョン(「放課後子ども教室」のあり方等)を示す資質	43	19.3			44.2	23.3		27.9	25.6 ①	

3) コーディネーターとして最も重要だと思う資質、能力

下記は「もっとも重要な資質、能力」についての自由記述の一部である。「子ども好き」が基本だが、子どもへの接し方等は専門知識や経験に裏づけられたものであるべきで、「サービス業」を心がけて、ビジョンを示し、ニーズに応じた臨機応変の対応を、スタッフをとりまとめながら実行していくという資質、能力が必要と見られる。

問 15: コーディネーターとしてもっとも重要な資質、能力

タイプ	*タイプ 1~4 は、70 頁のタイプ分けに対応
1	相手の立場と教室の状態と調整能力。全体のバランスを考え、説明出来る能力。目的にあった内容をロールプレイで学ぶのは有効だと思います。
1	先生とは違う立場での仕事ですから、事務よりもまず子ども、いきなり事務と子どもの相手の両立は大変です(でした)。まず、主任やチーフの下でスタッフとして子どもと接し、それぞれの仕事や一日の流れ、一ヶ月の流れを理解してその経験から主任やチーフとしての自分なりの考えが持てると思います。いろいろな教室を見て、それぞれの思いなどを感じた上で身につくと思います。
1	子どもを取り巻く様々な状況に対応する幅広い資質が求められる仕事だと思います。それらは実践に基づく経験でしか身につけられないような気がします。
1	地域全体の事を常に自分の事と捉えて、可能な限り役立とうという姿勢を持ち、また、そういう人材を育てられる。
1	事業のビジョンを明確にしつつ子どもの長所を生かす方策を柔軟に考えることができること。全体をうまく調整し、地域を支える教育力が最大限発揮されるようリーダーシップがあること。
1	的確な子どもへの対応や接し方、問題、課題に対して臨機応変に対応を考えられる資質が必要だと思う。ある程度は実際の活動からの体験で身に付くと思うが、教諭経験や福祉等の経験がない者にとっては、研修を受けたとしてもハードルが高い。
1・4	的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念。教員としての経験、研修等により身についた。
2	サービス業としての自覚、優しさ
2	臨機応変な対応と変化を怖がらないこと。
2	柔軟な人間性とコミュニケーション能力。社会の中で、社会性を養い、多くの人と出会い、あらゆる「学び」を経験し、人間的形成が出来るよう、自らが生活の中で学び、研修等で教養として身に付けることが望ましいと思う。専門家よりの指導も重要。
2	「子どもが好き」「子どもの笑顔」がたまらなく好きと言えること。これは生まれ持つので、身につけることではない。
2・4	自分の意見、主張を相手に的確に伝える事が出来、なおかつ広い人脈をもち、物事に対して常に冷静で臨機応変に対処できる能力。経験によって身につけるしかないのでは。素直な考え方。
2・4	子どもへの接し方、対応→教職経験により身に付いた。
3・4	子ども達の抱える問題点や課題、保護者からのクレーム、トラブル等に対して、臨機応変にすばやく的確に対応を考えられる処理能力。相手を思いやり、相手の立場になって考え、カウンセリングできるような内面的部分へのスキルアップ学習を何回かに分けて実践する。一度だけではいけないので、積み重ねが必要だと思う。
3・4	まずは、未来ある子どもを好きになることが基本。上から下に一元化して管理する子ども教室ではなく、家庭として、地域として社会として、子どもを育てていくことは「あたり前」のこと、行政が子どもを育てるのではない。資質・能力の前にこのことを誰もが理解すべきである。

(6) コーディネーター研修の受講状況と充実、新設希望

- ◆コーディネーターの回答において「研修で取り上げられた」研修内容について、もっとも高い項目（「①様々な地域の事例」）でも、45.3%に留まっている。ほとんどの項目において、市区町村と都道府県が「実施している」とする割合よりも大幅に低くなっている。「研修した」はずでありながら「研修を受けた」とは認識されていない傾向が見られ、研修実施上の大きな課題といえる。
- ◆「⑭地域人材の確保策等」は、都道府県で「実施している」割合が45.5%に対して、コーディネーターの認識は17.0%であり、上の傾向の顕著な例といえる。
- ◆コーディネーターが「充実、新設が必要」とした研修内容では、「②障害、要配慮児童の理解、対応」「④遊びや体験活動技術」「③子育ての現状」「⑤子どもへの接し方、叱り方」「⑧いじめ発見、対応」が「取り上げられた」と比べて低位であり、これらは、現場に出で、改めて、必要性を強く認識した研修内容といえるであろう。

問 16: 受講した研修で取り上げられた内容(各項目ごとにSA) 問 17 充実、新設が必要と思う内容(各項目ごとにSA)

市区町村調査、都道府県調査との比較			コーディネーターの回答				市区町村		都道府県		
			研修で取り上げられた		充実、新設が必要		実施している研修課題		実施している研修課題		
			n	%	n	%	n	%	n	%	
教室内対応	活動	様々な地域の“放課後子ども教室等”の取り組み事例について	101	45.3 ①	61	27.4 ①	6	28.6% ⑧	27	81.8% ①	
	安全	けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて	95	42.6 ②	43	19.3	18	85.7% ①	9	27.3% ⑧	
	安全	子どもの安全管理と防犯などの安全対策について	88	39.5 ③	49	22.0 ⑤	16	76.2% ②	18	54.5% ④	
	活動	自市区町村内での“放課後子ども教室等”の実践例について	81	36.3 ④	47	21.1 ⑦	10	47.6% ④	19	57.6% ③	
基礎知識	放課後	放課後対策に関する概論について	71	31.8 ⑤	21	9.4	6	28.6% ⑧	21	63.6% ②	
教室内対応	要配慮	障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について	58	26.0 ⑥	54	24.2 ②	8	38.1% ⑤	5	15.2%	
	活動	活動プログラムの立案・作成について	57	25.6 ⑦	42	18.8	8	38.1% ⑤	12	36.4% ⑥	
	活動	遊びや体験活動の技術について	56	25.1 ⑧	51	22.9 ④	12	57.1% ③	7	21.2% ⑩	
基礎知識	子育て	子育てを取り巻く現状などについて	55	24.7 ⑨	52	23.3 ③	4	19.0%	11	33.3% ⑦	
行政対応	事務	事務処理、経理・労務管理などについて	51	22.9 ⑩	20	9.0	4	19.0%	1	3.0%	
	折衝	「放課後子ども教室」・「放課後児童クラブ」の連携方策について	50	22.4 ⑪	35	15.7					
基礎知識	青少年	青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて	48	21.5 ⑫	44	19.7	4	19.0%	4	19.0%	
教室内対応	要配慮	子どもへの接し方や叱り方などについて	43	19.3 ⑬	48	21.5	8	38.1%	8	24.2%	
地域対応	人材	地域人材の確保策等について	38	17.0 ⑭	44	19.7	3	14.3%	15	45.5% ⑤	
教室内対応	要配慮	人権について	35	15.7 ⑮	19	8.5	5	23.8% ⑨	2	6.1%	
行政	保護者	文書	広報等の文書作成、プレゼンテーションなどについて	27	12.1 ⑯	21	9.4	4	19.0%	1	3.0%
基礎知識	ボランティア	ボランティア活動に関する概論について	22	9.9 ⑰	11	4.9	4	19.0%	5	15.2%	
	生涯学習	生涯学習や社会教育に関する概論について	22	9.9 ⑰	11	4.9	2	9.5%	2	6.1%	
教室内対応	要配慮	いじめの発見、対応について	20	9.0 ⑱	43	19.3 ⑧	4	19.0%	1	3.0%	
保護者	地域	折衝	コミュニケーションや対人関係スキルについて	20	9.0 ⑱	27	12.1	3	14.3%	5	15.2%
地域対応	施設	施設	体験活動のフィールドや受け入れ施設等について	20	9.0 ⑱	20	9.0	1	4.8%	0	0.0%

(7) コーディネーター等の人材確保や育成、研修などについての意見、提案

下記は「コーディネーター等の人材確保や育成、研修」などについての意見、提案の自由記述の一部である。

問 19: コーディネーター等の人材確保や育成、研修などについての意見、提案

タイプ	*タイプ 1~4 は、70 頁のタイプ分けを参照
1	研修等に時間をかけられないので、即戦力となれる人材発見が第一に望まれる。
1	とにかく事務スタッフ確保に悩む。会計処理から事務管理まで広く知識を有するスタッフを低いコストで確保できるシステムが日本には、まだ、確立されていないように思う。税理士などに顧問を依頼すればよいとも考えられるが、草の根的活動を行う我々のような団体から見るとコストがかかりすぎる。
1	文部科学省と厚生労働省との違いで、横浜市では、はまっ子ふれあいスクールと学童保育とで、最終目標は同じでも、運営その他が異なっていて早く統一すべきと思います。コーディネーター等の人材確保については、現状学校の協力を無くしては運営が難しく、その為には学校OB、OGより民間企業出身で、今迄通りの各種研修受講で学校、保護者とも関係がうまく出来るのではと思う。
1	今のところ、コーディネーターの個人的ネットワークに頼らざるを得ない部分があります。行政の方から(学校ではなく・現場は多忙ですので、)人材名簿等提供してもらえると助かります。次の方へも引き継ぎやすい。もっと宣伝もして欲しい。誰も知りません。学校はとても協力的ですが……。
1	研修について前もって問題や課題を提示し、それについての回答事例などを踏まえ、意見交換をする場が欲しい。
1	児童クラブの広報活動を通し広く募集。児童が来室までの短時間で研修時間の確保。
1	指導員はボランティアが中心なので、人材確保が難しい。児童クラブ指導員のように、時給になると人材確保がしやすくなるだろう。(本年度よりコーディネーターのみ時給)。指導員としての研修が必要であるが、ボランティアでは資質、能力向上の意欲が育ちにくい。
1	地域での人材確保も大事だが、困難な地域もあり、ある程度教職や福祉活動を積み重ねた方などが兼務されることが望ましい。その方がスタッフの人材育成がスムーズにいくと思う。先に行動ありきもよいのですが、人材を確保していくならそういう活動に興味を持ち、研修によく参加する人をどんどん登用したほうが近道だと思う。
1	お願いだけではなく、行政には体を使って行動をしてもらいたい。現場はスタッフ不足で一部の人にだけ負担が増大している。
1	あまりにも個人の方に頼りすぎていると思う。時間以外の文書作成、地域の働きかけ等が多いように思う。また、研修会参加もボランティアである。参考になる研修会には他の教室スタッフにも出席して欲しいと思っているが交通費も出してあげられない。各地区(全国)での交通費(ボランティアさんへ)もあまりにもバラつきがある。
1	人材確保は地域まかせでは不十分。行政が人材を確保して欲しい。
2	ボランティアではなく、きちんと位置づけした職員としてスタッフを確保したい。
2	一つの場所でのスタッフの任期が終了した場合、有能な人材を紹介するシステムがあるとしっかり動け、考える方は、また、違った環境でも早く対応出来ると思います。
2	各教室は、地域の実情に沿った運営となる。他の事例がそっくり、自分の所へもってこられる事はまずない。コーディネーターは、地域・学校としっかり連携して、その地オリジナルの活動を行って結果を出していくのが、正解ではないかと思う。
2	目的はしっかり認識しながら、関わる人達の立場や気持ちを重んじコミュニケーション能力とバランス感覚。仕事や活動で責任を負い、失敗やつまずきを体験～克服する積み重ね。
2	堺市放課後ルームでは、委託業者であるYMCAが独自の研修カリキュラムを使用し、各クラス主任に月1回の頻度で実施している。特に安全と対象理解(子ども)は全指導員に研修を行う。
2	教職者としての資格がない者の参加としては学ぶべき点は多数ある。
2	金銭ではなく児童愛があり、健康な方の人材確保が大切。

タイプ	*タイプ1~4は、70頁のタイプ分けを参照
2・4	地域の中で活動することが一番重要なので、いわゆる「コーディネーター」という職業の人が派遣されてきて業務をするという形ではうまくいかないことだと思う。それぞれの地域から、如何にして「やる気のある人」を見つけだすかがポイントなのでは？
2・4	コーディネーターとしての資格認定の確立
2・4	研修等は大切だと思うが、時間的に無理があると思う。
2・4	仕事をもちながら小学校での活動に参加しているので、平日の研修などは曜日が選べるようにしてもらいたい。
3	コーディネーターとして専門的に教育を受けている「生涯学習インストラクター」の人材の登用を望む。
3	放課後子ども教室をどのようなものにするのか、市町村で大きな違いがあると思う。重要と捉え場所、財源を確保していけるところ(トワイライトすくすくなど)、また、あくまで地域ボランティア活動としている所(自市)、双方ともコーディネーターの重要性は認識されているものの、その立場、待遇は確立されていないので、確保は難しい。加えて活動への評価も欲しい。
3・4	コーディネーターがどのような視点を持って、プログラムを作るか、関係者との繋がりを深めていくか、などによって教室の環境は大いに変わる事を考えると、偏らずに広く人材を求め、育成していくことを望みます。繰り返しの研修は必須だと思います。
3・4	他の学校の活動を知り連携していきたい。
3・4	①活動日に保護者が見学に来るぐらいの熱意が欲しい。②研修の数が多すぎる。もっと信頼して地域性を活かした活動を見守って欲しい。③スタッフの人数が増えればローテーションが組めてよい。

2. モデルコーディネーター対象ケーススタディの結果

モデルコーディネーターについては、以下の9人を対象にケーススタディを行った。

<都道府県、市町村等より紹介いただいたモデルコーディネーター>

- ① A コーディネーター（青森県三戸町）
- ② B コーディネーター（青森県おいらせ町）
- ③ C コーディネーター（福島県田村市）
- ④ D コーディネーター（神奈川県横浜市）
- ⑤ E コーディネーター（岐阜県岐阜市）
- ⑥ F コーディネーター（岐阜県岐阜市）
- ⑦ G コーディネーター（島根県浜田市）
- ⑧ H コーディネーター（山口県下関市）
- ⑨ I コーディネーター（山口県下関市）

(1) モデルコーディネーターの所属自治体の総合的な放課後対策実施概況

モデルコーディネーターの所属自治体は、以下の7自治体であり、各自治体の地域条件は下表の通りである。

市区町名	立地条件	地域タイプ	総人口 2006年3月末	人口密度 可住地面積 1平方km当り	65歳以上 人口比率	一・二・三次産業人口比 2000年国勢調査
①三戸町 (青森県)	八戸駅より 鉄道30分	地方圏 中山間部	12,937人	239人	29.0%	30.8-25.2-43.9%
②おいらせ町 (青森県)	八戸駅より JR20分	地方圏 都市近郊	24,848人	427人	18.2%	12.4-37.0-50.7%
③田村市 (福島県)	郡山駅より JR45分	地方圏 中山間部	44,007人	280人	26.4%	21.3-42.2-36.4%
④横浜市 (神奈川県)	東京駅より JR40分	大都市圏 政令指定都 市	3,544,104人	8,911人	17.2%	0.5-25.1-72.4%
⑤岐阜市 (岐阜県)	名古屋駅より 鉄道20分	地方圏 県庁所在地 (中核市)	413,009人	2,901人	21.0%	2.1-29.4-68.1%
⑥浜田市 (島根県)	出雲空港より バスとJR90分	地方圏 都市	62,295人	506人	29.1%	9.9-27.9-62.0%
⑦下関市 (山口県)	新下関駅より 車20分	地方圏 都市 (中核市)	290,364人	1,205人	25.6%	19.4-24.6-56.0%

①三戸町（青森県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆開設意向ある全校で実施（2校／4校）

- ・未実施中1校は児童館（児童クラブも）あり、1校は小規模校で放課後も先生が対応するため、両校とも放課後教室にニーズなし。

◆実施日数：150日弱

- ・月～金、長期休暇中

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

◆未実施の1校に学童あり。

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

◆1校で実施した

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

◆地区や学校の実情やニーズに沿って、それぞれの放課後教室を開設し運営

◆1校は、「放課後子ども教室」の趣旨に忠実な教室で、1校は、全時間自由活動、参加も自由

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

◆学校現場と教育行政に通じた町担当職員（県派遣社会教育主事）が、子ども会の世話役として永年活動されてきたコーディネーターとともに、いい意味で学校の延長的な放課後教室と自由尊重の教室という2教室を運営

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

◆1人確保済み

◆町が、地域子ども教室コーディネーターに依頼

ii. コーディネーターの役割

◆助言、相談役。指導員欠員をサポート。月1回の実行委員会出席。

◆日常的な教室対応は指導員が主担当。欠員の際はコーディネーターがサポート。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

◆月1回の実行委員会（コーディネーター及び各教室指導員参加）

②おいらせ町（青森県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆開設意向あるほぼ全校で実施（1校／5校）

- ・未実施中2校は、町直営で児童クラブ、児童館で全児童放課後対策実施。1校は町直営の児童クラブがあり、放課後教室の必要性低い。残り1校は、民間保育園に児童クラブ運営を委託、こちらについては、放課後教室への移行の可能性はあるが時期は未定。

◆実施日数：280日弱

- ・月～土、長期休暇中

ii. 学童保育(留守家庭児童対策)との関係

- ◆全校に学童あり、教室開設校の学童は学校から3km離れ利用者が異なる。

iii. 「地域子ども教室」(平16～18年度)の実施状況

- ◆1校で実施した

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

- ◆子どもの「自主・自立・自律」を促す放課後充実のために、地域、家庭、学校それぞれが積極的に関わり、それぞれ自体も高まる教室をめざす
- ◆「親育て」も重要と考える

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

- ◆町担当職員（社会教育主事）、コーディネーター、スタッフそれぞれが志、問題意識を持ち、主体的に取り組みながら、連携がとれている
- ◆コーディネーターに対して学校からの信望も厚い

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆1人確保済み
- ◆町が、地域子ども教室コーディネーターに依頼

ii. コーディネーターの役割

- ◆主要な役割は、月2回の体験活動実施に関わる地域との対外折衝
- ◆コーディネーターが週2回は日常的な教室対応にも関わる。また、お知らせ文書作成、保護者との折衝、スタッフ間の調整、学校との調整ほかにも関わっている。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

- ◆月1回のスタッフミーティング（コーディネーター、各教室指導員、町担当者が参加）

③田村市（福島県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

- ◆必要性や要望の強い学校から開設。合併前の旧5町全てに開設済み。(9校/25校)
 - ・旧5町に一つずつ児童館があり、残り16校全てに放課後教室が必要なわけではない。
- ◆実施日数：190日弱
 - ・月～金、長期休暇中

ii. 学童保育(留守家庭児童対策)との関係

- ◆旧5町に一つずつ児童館があり学童保育実施(学校外の施設)。

iii. 「地域子ども教室」(平16～18年度)の実施状況

- ◆2校で実施した

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

- ◆「預かり」「見守り」が基本
- ◆独自の遊び・体験プログラムについては、指導員ができる、あるいはやりたければやってもらっている(できなくても構わない)

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

- ◆公民館が旧5町村に一つずつあり、放課後教室の指導員募集・指導、教室関連事務などは公民館職員が担当

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆7人確保済み
- ◆町が、地域子ども教室コーディネーターに依頼。新規教室では、町が、指導員の中から依頼

ii. コーディネーターの役割

- ◆日々の指導員の出欠確認、欠員フォロー
- ◆公民館、学校等との連絡
 - ・指導員募集、指導、経理などは公民館職員(市の社会教育職員)が担当。旧5町に一つずつ公民館あり
- ◆日常的な教室対応は指導員が主担当。欠員の際はコーディネーターがサポート。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆3回実施：主旨は、情報交換、共通理解
 - ・①指導員、コーディネーター研修、②運営委員会での研修にコーディネーターも参加、③意見交換会(他地域からコーディネーター、指導員等招へい予定)

④横浜市（神奈川県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

- ◆市内全校で実施（367 か所：キッズ 48、はまっ子 295、はまっ子充実型 24）
- ◆実施日数：298 日
 - ・月～土、長期休暇中

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

- ◆約 2 割が一体、順次一体型に移行

iii. 「地域子ども教室」（平 16～18 年度）の実施状況

- ◆実施した

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

- ◆小学校施設を利用して、すべての児童を対象に「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた安全で快適な放課後の居場所を提供する。（はまっ子では、「遊び場」を確保し、遊びを通じた異年齢児間の交流を促進することによって、子どもたちの創造性や自主性、社会性を養い、児童の健全育成を図る）

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

- ◆キッズクラブとはまっ子充実型の一部は、運営を法人に委託（公募）
- ◆市で事業補助実施要綱を策定し、受託法人では要綱に沿った具体的な運営マニュアルを作成

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆1 教室に 1 人確保済み
- ◆地域より推薦、公募、校長OBなどの場合があり

ii. コーディネーターの役割

- ◆地域、学校、行政などとの対外折衝も担当
- ◆日常的な教室対応も、コーディネーターが主担当

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆はまっ子 4 回、計 40 時間程度、キッズ 44 日 181 時間

iv. サポート体制、連絡調整会議

- ◆研修終了後、個別に各教室で現地助言、指導
- ◆月 1 回のコーディネーター連絡会、キッズは年 4 回の主任指導員会議

⑤岐阜市（岐阜県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

◆ほぼ市内全校で実施。（47校／49校）

・未実施校2校については、小規模校ながら校区は広く、帰路の安全確保（スクールバス）等の面で、学校等での放課後対策については検討を要す。

◆実施日数：40～30日

・週1回で、長期休暇中未実施が主。週2回、長期休暇中実施も少数ながらあり。

ii. 学童保育（留守家庭児童対策）との関係

◆公設民営で「留守家庭児童会」が運営。全児童対策と共存できている。

iii. 「地域子ども教室」（平16～18年度）の実施状況

◆生成16年度：12校、17年度：22校、18年度：27校で実施し、22校が放課後教室に移行

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

◆「子どもたちが、放課後に遊び・学び・生活する」ことができるように、岐阜市放課後子どもプラン「放課後チャイルドコミュニティ」を実施。

◆下記の3つの事業が連携して、子どもにも、大人にも、“友だちの輪”“コミュニケーションの輪”“助け合いの輪”が広がることをめざす。

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

◆「放課後子ども教室」「放課後学びの部屋（放課後図書室活用事業）」「留守家庭児童会（放課後児童健全育成事業）」の3事業を連携づけて「放課後チャイルドコミュニティ」として実施。

◆22の「放課後子ども教室」に各1名「校区コーディネーター」を配置するとともに、教室間の連携や3事業間の連携を図り、事業全体の円滑な推進を進めるために「放課後チャイルドコミュニティ推進コーディネーター」を2名配置。

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

◆22教室に22人の「放課後コーディネーター」を確保、さらに2名の「推進コーディネーター」も確保

◆「校区コーディネーター」は地域からの推薦・依頼が主、「推進コーディネーター」は市からの推薦・依頼。

・コーディネーターの多くは「地域子ども教室」の時から活動し、「放課後教室」移行に際して、改めて地域から推薦されている。

ii. コーディネーターの役割

◆校区コーディネーター：安全管理員とボランティア確保 ・プログラム立案と準

- 備 ・学校や「学びの部屋」「留守家庭児童会」との連携 ・保険加入や会計、活動記録記入 ・放課後チャイルドコミュニティ事務局や推進コーディネーターとの連絡
- ◆推進コーディネーター：諸々の相談対応、地域の指導員との信頼関係・ネットワーク形成 ・教室間のネットワークづくり ・放課後子ども教室、学びの部屋の訪問 ・研修会の企画と実施 ・行政機関、企業、教育機関などとの連携、放課後チャイルドコミュニティの周知、啓発活動
- ◆校区コーディネーターは、日常的な教室対応も主担当として対応。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆2回実施
 - ・第一回(12月)：意見交換(KJ法等によるWS：「謝金について」「ボランティア確保」「学校との関係づくり」など)、「心の冒険プログラム」講義とWS
 - ・第二回(2月予定)：今年度のまとめ、次年度に向けて
 - ・安全管理員研修(コーディネーターも参加)(7月)：KYT(危険予知トレーニング)研修、ニュースポーツ研修「ふるさと教育ネットワーク会議」(県単独事業で、全ての小中学校で実施している年間38時間以上の地域参画授業を企画、運営する地域組織)

iv. サポート体制、連絡調整会議

- ◆「推進コーディネーター」及び教育委員会職員による相談対応、サポート
- ◆「校区運営委員会(青少年育成市民会議、民生委員、PTA、コーディネーター、学校関係者等)」の随時開催による、地域での相談対応、サポート

⑥浜田市(島根県)

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

- ◆必要性や要望のある学校については開設済み。(6校/26校)
 - ・未実施校20校のうち、14校ほどは学校内や学区内公民館に児童クラブがある。児童クラブのない学校は小規模校で学校の先生が放課後も対応。
- ◆実施日数：100日前後
 - ・週2または3回、長期休暇中実施校もあり

ii. 学童保育(留守家庭児童対策)との関係

- ◆放課後教室6ヶ所中、公民館で実施の4ヶ所は学童あり(うち2ヶ所は、学童と放課後教室統合)

iii. 「地域子ども教室」(平16~18年度)の実施状況

- ◆5ヶ所で実施し、放課後教室に移行

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

- ◆市としての統一的な指針は示されていない。
- ◆合併前の旧1市4町村でそれぞれ放課後教室を運営。1中学校区に1教室を想定。
- ◆旧浜田市地区のコーディネーター以外は、各地区の行政担当者（地域教育コーディネーター[県派遣社教主事]）が、コーディネーターを兼務

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

- ◆公民館活動が盛んで（1小学校区に1公民館以上）、児童クラブ（学童）も多くが公民館で運営
- ◆公民館、児童クラブを活用して、県派遣社教主事が放課後教室も運営
- ◆旧浜田市地区の放課後教室は、市民コーディネーターが、自宅で実施し異色であるが、県単独事業である「ふるさと教育ネットワーク会議」（放課後教室の実行委員会に当たる）が地域の人々を動員するベースになっている

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

- ◆5人確保済み
- ◆市民コーディネーター（1名）は、市が、地域子ども教室コーディネーターに依頼。他の4名は、市担当者（地域教育コーディネーター[県派遣社教主事]）が放課後コーディネーターを兼務（町村部では、コーディネーター及び教室スタッフの確保が難しい）

ii. コーディネーターの役割

- ◆自宅での教室（まちの縁側）開設であることもあり、「外も内も」すべてをコーディネーターが仕切っている。
 - ・「まちの縁側」は子どもだけが集まる場ではなく、地域の人が集まれる「小規模多機能」かつ「出会いの場」として位置づけている。
 - ・指導員募集、指導、経理などは公民館職員（市の社会教育職員）が担当。旧5町に一つずつ公民館あり
- ◆コーディネーターがスタッフとともに日常的な教室対応も行なう。

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

- ◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

- ◆「ふるさと教育ネットワーク会議」（県単独事業で、全ての小中学校で実施している年間38時間以上の地域参画授業を企画、運営する地域組織）

⑦下関市（山口県）

a. 放課後教室実施及び経緯

i. 全児童対象放課後対策の実施状況

- ◆都市部（旧市部）については、地域側で機が熟し体制の整った学校から徐々に実施。

(20校[22教室]／54校)

- ・旧1市4町の合併で新・下関市となり、旧市と旧4町とで、教室及びコーディネーターの性格が大きく異なる。旧市（全31校）では、市民活動をベースに7教室が開設されそれぞれの活動リーダーがコーディネーターとなっている（7教室に対し6人、後掲のモデルコーディネーターが2教室担当）。
- ・旧4町中3町では、ほぼ全校区に放課後教室が開設され、市担当者がコーディネーターを兼務。残りの旧1町では教室未実施。

◆実施日数：平均27日（102日～6日：36日前後が多い）

- ・週1回、月3回程度が多い

ii. 学童保育(留守家庭児童対策)との関係

◆旧市ではほとんどの教室が、学童とは別に放課後教室を開設。旧町部では、学童を兼ねる教室も多い。

iii. 「地域子ども教室」(平16～18年度)の実施状況

◆多くの教室が「地域子ども教室」から、放課後教室に移行

b. 放課後対策の企画、運営

i. 放課後対策、教室のあり方の基本方針

◆旧1市4町それぞれ

ii. 教室実施上の特徴的な体制や仕組み

◆旧下関市では、市民活動をベースに、地域として「取り組みたい」（取り組む意欲と体制のある）学校において開設

c. コーディネーターの確保、育成

i. コーディネーターの確保状況

◆旧市では7教室に6人を確保（旧4町中3町では、市担当職員が兼務）

◆市が、地域子ども教室コーディネーターに依頼。新規教室では、活動を担う市民グループリーダーに、市が依頼。

ii. コーディネーターの役割

◆プログラム企画、講師等動員、当日の実施・運営

◆1教室は週1回、1教室は月2回（土曜）の実施であり、実施日には、コーディネーターが前面に立って活動

iii. 市区町村としてのコーディネーター研修

◆なし

iv. サポート体制、連絡調整会議

◆放課後子ども教室の主管課が、コーディネーターからの個別の相談などに対応

(2) モデルコーディネーターについてのケーススタディ結果

1) ケーススタディ結果の総括

9人のモデルコーディネーターへのケーススタディ結果は以下のように総括される。

なお、各コーディネーターの個別結果は55頁以降に後掲する。

a. キャリア

◆「放課後子ども教室」コーディネーターになる以前の経歴、職歴は様々である。教員経験者は1名のみであった。経歴は様々であるが、いずれの方も、地域において子どもに関わる活動にリーダー的な立場で関わっていたことは共通している。

b. モチベーション（「放課後子ども教室」コーディネーターとしてのやりがい）

◆いずれの方も、「子どものため」「地域のため」という思いで活動しておられる。

◆また、いずれも「報酬」が主目的ではないが、「報酬」は気にしていないという方と、可能であれば「報酬」見直しも必要ではとの気持ちをもたれる方が半々である。現状の報酬額は、時給720円が多いが、時給1,440円、月に240,000円などもありバラつきがある。

c. コーディネーターの役割

◆2名の方は、「見守り、預かり」主体の教室を担当しており、教室内対応が主の「内向き」のコーディネーターを行なっている。

◆他の7名は、教室内対応に留まらず、地域の方々も動員して、変化のあるプログラムを実施する「外も」「内も」と言えるコーディネーターを行っている。このうち、2名の方については、日常的な教室運営にも主担当（責任者）として関わりながら外部との折衝も行なうという「内も外も」と言えるコーディネーターを行なっている。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	青森県 三戸町	青森県 おいらせ町	福島県 田村市	神奈川県 横浜市	岐阜市 推進 コーディネーター	岐阜市 校区 コーディネーター	島根県 浜田市	山口県 下関市	山口県 下関市
キャリア									
年代性別	60歳代、男性	40歳代、女性	70歳代、男性	20歳代、男性	50歳代、女性	40歳代、女性	50歳代、女性	50歳代、女性	40歳代、男性
主要キャリア	29年間子ども 会世話役経験	PTA、社会教育 経験	中学校教員経験	保育系短大、 子ども支援ボ ランティア経験	市生涯学習 コーディネーター	子ども会役員、 青少年育成市 民会議	地域看護・ケ ア経験	子ども劇場、地 域子ども支援 経験	子どもミニコミ 編集経験
モチベーション	【報酬は気に していない】 ・「子どもが好き」 「子どもにも、 よい遊びを保 証したい」	【報酬は気に していない】 ・「地域のため」 「子どものため」 「自分のため」 に何かやらねば	【報酬は気に していない】 ・経験や職歴 を活かして地 域・社会のため になることを やりたい。自 分自身が学び 続けたい。	【報酬もモチ ベーションを左 右する】 ・保育の仕事 が第一志望で ある ・現状の給与 体系にはやや 疑問もあり	【報酬を気にし ては務まらない】 ・「地域への思 い」「子どもの ため」 ・コーディネーター のみで生計は 立てられない	【報酬を気にし ては務まらない】 ・「地域のため」 の「やる気」 ・「職業」という 意識では務ま らない	【報酬は気に していない】 ・「地域力」を 高めたいとい う気持ち	【報酬もモチ ベーションを左 右する】 ・「子どものため」 「地域のため」 「自分のため」 ・できれば、月 50,000円でも いい、安定的 な収入を	【報酬は気に していない】 ・学校・家庭・ 地域が連携し 地域の中で3 世代と同様の 教育力を育ん でいく
◇謝礼、報酬等	1,440円 ／時間	720円 ／時間	800円 ／時間	240,000円 ／月	1,200円 ／時間	600円、1,200 円／時間	720円 ／時間	720円 ／時間	720円 ／時間
コーディネーターの役割	【内向き】 ・助言、相談 役。指導員欠 員をサポート。 月1回の実行 委員会出席。	【外も内も】 ・主要な役割 は、月2回の 体験活動実施 に関わる地域 との対外折衝	【内向き】 ・日々の指導 員の出欠確 認、欠員フォ ロー	【内も外も】 ・地域、学校、 行政などとの 対外折衝も担 当	【外も内も】・教 室間のネット ワークづくり ・研修会の企 画と実施	【内も、外も】 ・プログラム立 案、準備・学 校、「学びの部 屋」「留守家庭 児童会」との 連携	【外も内も】 ・自宅での教 室開設である こともあり、 「外も内も」す べてを仕切る	【外も内も】 ・プログラム企 画、講師等動 員、当日の実 施・運営	【外も内も】 ・プログラム企 画、講師等動 員、当日の実 施・運営

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

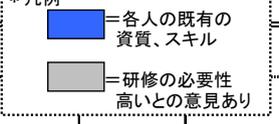
- ◆次頁の「市区町村、都道府県で実施されている研修との対応表」にも整理したが、いずれの方も、子ども対応、遊び・体験活動プログラム、地域人材動員、コミュニケーション・対人スキルなど、「放課後子ども教室」に関わる上でカギや強みとなる資質を経験の中ですでに備えている。
- ◆さらには、ファシリテート、福祉・保育、地域チームづくり、催し企画・運営、編集、「傾聴」など、それぞれ特徴的な専門的なスキルも持っている。

e. コーディネーター研修についての感想、意見、要望

- ◆教室実践例紹介の研修で、「失敗例などの生の声」「コーディネーターの悩み、問題点」などのケース紹介への要望があった。また、他地域等の事例よりも、自らが関わる地域内の現場についての情報や実地研修が有意義との意見もあった。
- ◆対人関係に関わる研修の必要性も複数の方が必要としている。集団の意見を引き出し方向づけする「ファシリテート能力」の研修などが必要と提案があった。
- ◆子どもの見方・捉え方や放課後教室自体のあり方などについての、スタッフ及び関係者間の共通的な価値観・意識形成の重要性も指摘されている。
- ◆研修内容への提案に留まらず、コーディネーターの適材を見出し、育成する“スーパー”コーディネーターの必要性や、コーディネーターの評価・認定やスキルアップ制度などの必要性などについての提案もなされている。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	青森県 三戸町	青森県 おいらせ町	福島県 田村市	神奈川県 横浜市	岐阜市 推進 コーディネーター	岐阜市 校区 コーディネーター	島根県 浜田市	山口県 下関市	山口県 下関市
キャリア									
年代性別	60歳代、男性	40歳代、女性	70歳代、男性	20歳代、男性	50歳代、女性	40歳代、女性	50歳代、女性	50歳代、女性	40歳代、男性
主要キャリア	29年間子ども会世話役経験	PTA、社会教育経験	中学校教員経験	保育系短大、子ども支援ボランティア経験	市生涯学習コーディネーター	子ども会役員、青少年育成市民会議	地域看護・ケア経験	子ども劇場、地域子ども支援経験	子どもミューコム編集経験
コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル	子どもの遊び指導、見守りのスキル	社会教育人脈とスキル。ボランティアコーディネーター、人権ファシリテート、親業、ピア・サポート・カウンセリング等のスキル	中学校教員としての資質、スキル	福祉・保育の専門知識、実践に基づき子どもを引きつけ、一目おかせ資質、スキル	情報収集のための幅広く多数の信頼感あるネットワーク、話し好きで聞き上手「傾聴」スキルもあり、クレームやトラブル対応	メンバーの意見や要望を踏まえ調整、アピール性や説得力なる文書やポスター等作成、記録・報告文書作成や経理・集計などの能力	「地域のチームづくり」のスキル	資金0で、催しを企画し、金、ヒトを集めて成功させる資質、スキル。文書や言葉による主張スキル。	子どもに関わる地域活動人材やグループとの人脈。取材、データ収集・分析、ドキュメント作成、プレゼンテーションスキル。
コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望	・成功事例、模範的事例よりも、失敗例などの「生の声」	・放課後教室の制度とねらい。意欲的な教室事例。コーディネーターの悩み、問題点。	・コーディネーター養成講座	・基礎・基本的な知識やノウハウとともに、現場の状況を伝える。 ・「対人関係」	・「推進コーディネーター」は他地域でも必要だと思う。国等で研修を行い認定する「ライセンス制」、認定後の評価やスキルアップの仕組みなども導入を検討する必要があるのではないかと	・地域の中で活動することが一番重要なので、いわゆる「コーディネーター」という「職業」の人では対応しにくいであろう ・各地域から、いかにして「やる気のある人」を見つけ出すかがポイント	・ファシリテート能力、遊びのスペシャリス能力、ゼネラリスト的視点、地域の課題把握、地域対応チームづくり、地域としての障害の理解・参画、地域での青少年ボランティア受け入れ	・子どものとらえ方、接し方などの価値観共有化。学童スタッフの放課後プランへの意識共有化。地域の実情、実態に沿ったプログラム立案。	・研修で育てることよりも、地域のコーディネーター人材を見つけ出し、コーディネーターとして一人前に育てるスーパー（ジェネラル）コーディネーターの登用などを検討すべきでは

市区町村、都道府県で実施されている研修についてのコーディネーターの保有状況、研修の必要性への意見

			三戸町 青森県	おいらせ町 青森県	田村市 福島県	横浜市 神奈川県	浜田市 島根県	下関市 山口県	下関市 山口県
年代、性別			60歳代 男性	40歳代 女性	70歳代 男性	20歳代 男性	50歳代 女性	50歳代 女性	40歳代 男性
主要キャリア			29年間子ども 会世話役 経験	P T A、社 会教育経験	中学校教員 経験	保育系短 大、子ども 支援ボラン ティア経験	地域看護・ケ ア経験	子ども劇 場、地域子 ども支援経 験	子どもミニ コミ編集経 験
市区町村実施率の高い順			都道府県 実施率	*凡例 					
①	教室内対応	安全	けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて	27.3% ⑧					
②			子どもの安全管理と防犯などの安全対策について	54.5% ④					
③		活動	遊びや体験活動の技術について	21.2% ⑩				遊びの スペシャリスト	
④			自市区町村内での“放課後子ども教室等”の実践例について	57.6% ③	失敗例		現場実態		
⑤		要配慮	活動プログラムの立案・作成について	36.4% ⑥					実情、実態に沿った立案
⑤			子どもへの接し方や叱り方などについて	24.2% ⑨					子どもの見方、接し方
⑤			障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について	15.2%				地域としての障害の理解	
⑧		活動	様々な地域の“放課後子ども教室等”の取り組み事例について	81.8% ①	失敗例	意欲的事例	現場実態		
⑧	基礎知識	放課後	放課後対策に関する概論について	63.6% ②		制度とねらい	基礎・基本		
⑩	青少年	青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて	19.0%					正確な子ども観の共有	
⑪	教室内対応	要配慮	人権について	6.1%				子どもの権利、参画	
⑫	基礎知識	子育て	子育てを取り巻く現状などについて	33.3% ⑦				正確な子ども観の共有	
⑫	ボランティア		ボランティア活動に関する概論について	15.2%				地域での青少年ホウ入	
⑫	行政対応	事務	事務処理、経理・労務管理などについて	3.0%					
⑫	行政 保護者	文書	広報等の文書作成、プレゼンテーションなどについて	3.0%				チラシの工夫など	
⑯	教室内対応	要配慮	いじめの発見、対応について	3.0%					
⑰	地域対応	人材	地域人材の確保策等について	45.5% ⑤				地域対応チーム形成	地域人材の動員
⑱	保護者 地域	折衝	コミュニケーションや対人関係スキルについて	15.2%			対人関係	ファシリテート、スキル磨き	
⑲	基礎知識	生涯学習	生涯学習や社会教育に関する概論について	6.1%					
⑳	地域対応	施設	体験活動のフィールドや受け入れ施設等について	0.0%					
追加項目			コーディネーターとしての悩み、問題点について			コーディネーターの悩み、問題			
追加項目			学童スタッフの放課後プランへの意識共有化					学童スタッフ意識共有	
追加項目			地域で子どもを育む志、地域愛						子どもへの志、地域愛

2) ケーススタディ個別結果

①Aコーディネーター（青森県三戸町）

a. キャリア

i. 年代、性別

◆60歳代、男性

ii. コーディネーターになられた経緯

◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

◆印刷技術者（「職人」）。時間のやりくりはしやすかった。現在は退職。

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

◆29年間子ども会を世話。昨年まで、約15年間、町の連合子供会会長。

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

◆定年退職し、フリー

b.モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

◆【報酬は気にしていない】

・「子どもが好き」「子どもに、よい遊びを保证したい」

ii. 謝礼、報酬等

◆1,440円/時間で、申告した活動時間に応じて支払われる

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

◆2教室（2校）

ii. 放課後子ども教室の性格

◆1校は、趣旨に忠実な教室：15～16時「学習タイム」、16～17時「遊びタイム」：指導員は、学校非常勤講師（先生）、校長OB、教諭OB、PTA、主婦など：ハロウィンなどの企画活動も実施（月1回はない）

◆1校は、全時間自由活動、参加も自由：指導員は「基幹センター（コミュニティ施設）」職員と指導員（農家）1名

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

◆子どもの遊び指導、見守り（子供会活動を通じて保有）

◆地域からの信頼が厚い

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

◆総論、概論は興味がない。

◆成功事例、模範的事例よりも、失敗例などの「生の声」を聞きたい。

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

- ◆「放課後教室」の趣旨とは合わないかもしれないが、プレイパーク（冒険遊び場）的な居場所を整えてあげたい。

②B コーディネーター（青森県おいらせ町）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆40 歳代、女性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆子息のPTAとして長年活動、その後、平成 13 年より地区集会所での移動図書館管理(月 2 回)、翌年より、移動図書館活動を発展させて毎土曜に子どもの居場所的活動（地域人材も動員）、平成 16 年から、この活動を「地域子ども教室」として運営（コーディネーターに）

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

- ◆上記の活動のほか、年 1 回程度の小学校一日講師（工作教室、トールペイント、生け花等）、旧百石町社会教育委員、青森県社会教育委員、青森県子育てメイト

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

- ◆おいらせ町社会教育委員、百石中学校評議員、町行政改革懇談会推進委員、生涯学習フェスティバル実行委員、青森県キャリア教育プログラム開発委員会

b. モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

- ◆【報酬は気にしていない】

・「地域のため」「子どものため」「自分のため」に何かやらねば

ii. 謝礼、報酬等

- ◆720 円／時間：教室スタッフと同額。月 48 時間が基本で、申告した活動時間に応じて支払われる。町臨時職員として雇用（2 ヶ月更新）。

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

- ◆1 教室（1 校）

ii. 放課後子ども教室の性格

- ◆町の方針と教室スタッフの高い意識、志のもと、子どもの「自主・自立・自律」を促す放課後充実のために、地域、家庭、学校それぞれが積極的に関わり、それぞれ自体も高まる教室をめざし、理想に近づきつつある。
- ◆通常は、宿題、読書、座禅、集団遊びほか、子どもの自主性を尊重しつつ、しつけ

やけじめなども意識させる教室がめざされている

- ◆月 2 回+α、地域人材を招いて体験活動（読み聞かせ、昔遊び、ジャガイモ植え・町めぐり、よもぎとり・春をさがそう、ニュースポーツ体験、英語で遊ぼう、将棋教室、座禅、いもほり、カレーライスづくり、、工作教室、ほか）

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

- ◆上記のような地域活動、社会教育活動の中で、人脈とスキルを広げ、県社教センターの家庭教育支援形成ネットワーク研修、ボランティアコーディネーター研修、人権ファシリテーター研修等に参加、自主的にも親業、ピア・サポート・カウンセリングなども学んでいる。

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

- ◆地域によって非常に温度差があり、教室開設の形態、教室場所、子ども数などもさまざまという現状を把握し、他のコーディネーターさんの抱える問題点などの話し合いを通して、コーディネーター同士のコミュニケーションを深める場になった。また、参加した指導員同士、改めて自分達の放課後教室を見つめなおすよい機会になった（他のいいところは積極的に採り入れる）。
- ◆自身が、研修講師（パネリスト）として参加する機会があり、自分自身を向上させる機会ともなった。
- ◆放課後教室の制度についてや、めざすところ、他の教室での意欲的な取り組みなどについての研修が意味あると考える

③C コーディネーター（福島県田村市）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆70 歳代、男性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆北海道で中学校教員退職後、13～14 年前に実質 U ターン（生まれは北海道で育ちは田村市）
- ◆市内中学校で「心の教育相談員」、児童館でボランティア

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

- ◆上に加え、平成 14 年度より「体験活動ボランティア支援センター」にも所属
- ◆老人クラブ役員としても、子どもとのふれあい活動（交流クラブ）に関わる

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

- ◆定年退職し、フリー

b. モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

◆【報酬は気にしていない】

・経験や職歴を活かして地域・社会のためになることをやりたい。自分自身が学び続けたい。

ii. 謝礼、報酬等

◆800 円／時間×4 時間×2 回／週

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

◆2 教室（2 校）

ii. 放課後子ども教室の性格

◆基本は「ノンプログラム」（自由遊び）。

◆指導員さんによって、遊びやモノづくり、手芸などの特技を活かして、スポット的にお楽しみプログラムを実施することもある（月に 1 回はない）。教室によって、年に数回程度は外部から人を呼んで特別プログラム実施

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

◆中学校教員としての資質、スキル。73 才ながらパソコンも使いこなす。

◆地域からの信頼が厚い

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

◆自分が高齢であることもあり、コーディネーター養成講座などによって後継者を育成することが必要かと思う。

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

◆よい教室づくり・運営は、コーディネーターよりも指導員によるところが大きい。

◆しかしながら、報償金が 360 円／時間×4 時間／1 回当たり と安いと、人の確保が難しい。シルバー人材センターでは、1 日当たり 5～6,000 円になるため、教室を見てくれる人は貴重な存在。

④D コーディネーター（神奈川県横浜市）

a. キャリア

i. 年代、性別

◆20 歳代、男性

ii. コーディネーターになられた経緯

◆キッズクラブ発足時に、主任指導員第一期生として応募

◆就職にあたり、保育の仕事が第一志望

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

◆平成 16 年 3 月に福祉・保育系専門学校・短大を卒業、4 月に市内の民間学童に就職、

- 6月にキッズ指導員に応募し、7月に採用される。18年4月より主任指導員となる
- ◆学生時代から、品川区児童センターでアルバイト(職員の補助、センタープログラム運営)、市内の自閉症訓練会でボランティア(自閉症児の余暇活動支援等)

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

- ◆同上

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

- ◆キッズ主任指導員として(財)横浜市青少年育成協会に常勤雇用(兼業禁止)。品川区児童センター、市内自閉症訓練会では、無償ボランティア活動を継続

b. モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション(やりがい)

- ◆【報酬もモチベーションを左右する】
 - ・就職に当たり、児童対象の保育の仕事が第一志望である
- ◆現状の給与体系でモチベーションを永続できるかどうかはやや疑問もあり

ii. 謝礼、報酬等

- ◆240,000円/月×12ヶ月(賞与はなし) *1日6時間勤務(13:00~19:00)
 - ・指導員(もう一人の常勤スタッフ)は、200,000円×12ヶ月

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

- ◆1教室(1校)

ii. 放課後子ども教室の性格

- ◆日替わりで、子どもたちが興味・関心を持てるプログラムを企画・提供
- ◆月1回大がかりな催し、週1回地域からゲスト、日常は教室スタッフの得意分野などで工夫したプログラム、全体では、月当たり20程度のプログラムを実施している
- ◆月~土、長期休暇中教室開設(休みは、日曜祝日、年末年始のみ)

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

- ◆福祉・保育の路を志して、専門学校・短大で福祉・保育を3年間学ぶとともに、児童センターでアルバイト、自閉症訓練会などで直接子どもに接して、高い意識、意欲に加えて、実体験に基づく、資質、知識、スキルを身につけていた
- ◆横浜のキッズで最年少の主任指導員であるが、市としても協会としても推薦できる。教室への参加率が高く、高学年の参加が多い点も特徴。
- ◆恐らく、もっとも厳しい指導員である。しかし、子どもに人気がある。「やさしいだけ」では子どもを惹きつけ続けることはできない。指導すべき、「善し、悪し」の確かな基準を学生時代、ボランティア経験の中でしっかりと身につけている。

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

- ◆平成16年度第一期生で、キッズクラブ立上げ時の研修であった。
- ◆キッズクラブ自体が存在していなかったため、直接の現場で実施できず、類似、関

連の施設での研修であった点が気になった程度で、放課後対策全般を知ることができてタメになった。

- ◆研修において、基礎・基本的な知識やノウハウとともに、現場の状況を伝えることが意味あると考える。17年度以降の研修においては、主任指導員等の提案もあって、現場実習のほか、先輩主任指導員の講師による「キッズの1日」「キッズの1年」「人員配置ローテーションの組み方」「おやつについて」「参加カード、お知らせなど文書作成」「外部ゲストを招いてのプログラム企画」などの研修が行なわれている。
- <横浜市青少年協会として>平成18年度より、「対人関係」を研修に採り入れた。専門的なプログラムを実施しているわけではないが、人権的な内容や、保護者や子どもに接する中で、まずは、様々な人がいることを受け入れること、そして、様々な人が一緒に活動したり考えたりすることが楽しい、充実感があると思えるように導くことなどについて学べるようにしている。

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

- ◆あえて言えば、給与体系が気になる。横浜市の報酬は他のコーディネーターに比べると恵まれているとは思いますが、自分の年齢が上がり、経験を積んで行った時に、現在の給与のまま続けられるかどうか多少不安になることもある。自分に限らず、経済的事情から辞めざるを得なくなる人も出てくるのではないかと。
- ・スキルアップ研修や認定システムなどと合わせて、能力給評価などの導入も検討してもらえないかという希望はある。

⑤E コーディネーター（岐阜県岐阜市）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆50歳代、女性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆民間企業10年(医療事務)、保育士2年(保育士資格、幼稚園教諭資格保有)
- ◆ボーイスカウトなど社会教育活動18年
- ◆市生涯学習まちづくりコーディネーター、市生涯学習ボランティアコーディネーター 計5年
- ◆美濃コットンボール銀行代表9年
- ◆日韓生涯学習交流の会事務局長5年

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経緯

- ◆上記の活動で多様に、深く関わっている

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

◆特になし

b. モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

◆【報酬を気にしてはコーディネーターは務まらない】

・「地域への思い」「子どものため」という意識が基本。

◆地域の声を聞きながら、地域として取り組みやすいやり方をともに考え、提案し、支援する。

◆コーディネーターは、地域の思いや要望を行政に伝える仲介者でもある（不安や不満も含め、ナマの声を聞けるように配慮）

◆コーディネーターのみで生計を立てることは不可能（職業とはいえない）。報酬というよりも、基本はボランティアで、多少の必要経費はいただけるという感じでないといけないかもしれない

ii. 謝礼、報酬等

◆1,200円/時 *年間800時間ほど活動

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

◆「推進コーディネーター」として22教室（22校）担当

*「学びの部屋（図書室利用）」も支援しており、全体では45校を担当

ii. 放課後子ども教室の性格

◆＜放課後子ども教室＞・週1～2回 ・学校体育館、運動場などで、地域の大人の協力を得て、子どもに体験の場・交流の場・遊びの場を提供する

◆＜放課後学びの部屋＞・週1～5回 ・放課後の図書室を利用し、子ども自らの意思で読書や学習ができる場を提供する

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

◆社会人経験、生涯学習コーディネーター経験を通じて、情報収集のための幅広く多数のネットワークを持っている（もらいっぱなしでなく、礼を尽くし、情報を返すことにも留意）。マスコミなどにこちらから積極的に情報発信したり、人々の動員を仕掛けることなども比較的できる方だと思う。

◆校区コーディネーターからの依頼や質問に対して、できないこと、分からないことは曖昧にせずその旨を伝え、改めて、解決方法や確認したことなどを伝える（誠意をもって対応し、信頼を得る）こと

◆人間が好きで話し好き、また、聞き上手でもある。「傾聴ボランティア」の経験もあり、本意を汲み取りながらじっくりと話しを聞くことができる。

◆社会人経験や家庭での経験を経て、クレームやトラブルを冷静に受け止められる。また、問題や課題に対して臨機応変に対応が考えられる。事業や活動のビジョンを示すことができる。

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

- ◆放課後子どもプランを担う各事業関係者（放課後教室、学童・児童クラブ、岐阜ではこれに加えて、学びの部屋 [図書室]）の間でのまずは情報共有、そして、さらに施設や用具などの共同利用なども含めた具体的な連携方策などについての研修
- ◆今後、新たにコーディネーターをお願いするとすれば、地域の中で信頼を得ている人や、「地域の子どものために」何かやりたいという人たちが対象になるであろう。このような、元々、経験や信頼のある人、強い意欲や高い意識のある人に、「放課後のコーディネーター」としてスキルアップしてもらうためには、限られた時間の中で、何を研修として伝えるのかということを考えて研修内容を吟味していけばよいのではないかと。
- ◆抽象的であるが、地域の人々が、主体的に、自分達の地域にあった、放課後教室等の運営・運用方法を見出し、創り出すことを、引き出せるような手法を学ぶことができればよいと考える。

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

- ◆岐阜市の「推進コーディネーター」のような立場の人材は、他の地域でも必要でないかと思う。このようなコーディネーターについては、国等で研修を行い認定する「ライセンス制」、認定後の評価やスキルアップの仕組みなども導入を検討する必要があるのではないかと。
- ◆現状は、責任と業務に対して割りの合わない立場だと感じている。しかし、仕事の醍醐味や達成感があるので続けられているが、現在の処遇のまま、今後も活動し続けられるかどうかは、何とも言えない。

⑥ F コーディネーター（岐阜県岐阜市）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆40歳代、女性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター、地域から推薦・依頼

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆民間企業 11年
- ◆放課後事業指導員 3年
- ◆PTA活動 1年
- ◆子ども会役員 4年、青少年育成市民会議 4年

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

- ◆上記の活動のほか、チェスサークルで小学校への出前指導ボランティアなども経験（2年）

- v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など
 - ◆特になし
- b. モチベーション
 - i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）
 - ◆【報酬を気にしてはコーディネーターは務まらない】
 - ・「地域の中で活動すること」が一番重要であり、「地域のため」の「やる気」がなければできない。
 - ii. 謝礼、報酬等
 - ◆<校区コーディネーターとして>600円/時 *月に8日、計20時間
 - ◆<推進コーディネーターとして>1,200円 *年間200時間ほど活動
- c. 放課後教室の性格
 - i. コーディネーターとしての担当教室数
 - ◆<校区コーディネーターとして>1教室（1校）
 - ◆<推進コーディネーターとして>22教室（22校）担当 *推進コーディネーターとしては、感覚的に2割程度の業務を担当。Eコーディネーターが残り8割を担当。
 - ii. 放課後子ども教室の性格
 - ◆<放課後子ども教室>・週1~2回 ・学校体育館、運動場などで、地域の大人の協力を得て、子どもに体験の場・交流の場・遊びの場を提供する
 - ◆<放課後学びの部屋>・週1~5回 ・放課後の図書室を利用し、子ども自らの意思で読書や学習ができる場を提供する
- d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル
 - ◆社会人経験、PTA経験、子ども会役員経験を経て、メンバーの意見や要望を踏まえ調整してまとめることができる考える。
 - ◆社会人経験、子ども会役員経験を経て、アピール性や説得力なる文書やポスター等の作成ができる考える。
 - ◆社会人経験を経て、記録・報告文書作成や経理・集計などの能力が身につけていると考える。
- e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望
 - ◆「子どもへの接し方や叱り方」「遊び、体験活動技術」「活動プログラム立案・作成」「安全管理・防犯」などについての具体的な内容の研修は、現場で直接役立っている。
 - ◆「放課後対策」の制度について、行政サイドの考え方や、学校への説明の仕方などを徹底させるような内容の研修も必要と考える。
- f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望
 - ◆地域の中で活動することが一番重要なので、いわゆる「コーディネーター」という

- 「職業」の人が派遣されてきて業務するという形ではうまくいかないと思う。
- ◆それぞれの地域から、いかにして「やる気のある人」を見つけ出すかがポイントになるのではないか。

⑦G コーディネーター（島根県浜田市）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆50歳代、女性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆6年前から浜田市（夫の郷里）に定住、それまでは、フルタイムで、中学校養護教諭、看護師（訪問看護等）やケアマネージャーとして活動。

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経緯

- ◆訪問看護に携る中で、中心市街地でもコミュニティが希薄になっていると感じ、「地域力」を高めるために「居場所」が必要と考えた。独自に全国事例調査や地元ワークショップを行なって、「世代を越え」「制度やセクションを越える」、小規模・多機能空間が必要と認識し、平成16年6月に、自宅を改装し、「まちの縁側」を居場所づくり事業としてスタート。

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

- ◆「浜田のまちの縁側」代表、地域通貨タスキークラブ事務局担当

b. モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

- ◆【報酬は気にしていない】

- ・「地域力」を高めたいという気持ち。しかし、地方には、福祉や教育等の部門ごとの市民・地域組織が少ないため、全てひっくるめて横のつながりを使いながら、例えば子どもの居場所の問題と合わせて地域の問題を解決していくような形を作っていくとけない。

ii. 謝礼、報酬等

- ◆720円/時間

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

- ◆1教室：3小学校（1中学校区）が対象

ii. 放課後子ども教室の性格

- ◆3回の「まちの縁側」での活動は、文字通り子ども達の「放課後の居場所」（ノンプログラム）、土曜は「みんなの居場所」として実施される「お昼・おやつづくり」などに

子どもも参加可能

- ◆月1回3小学校（月替わり）に、出向き、「ほうかご遊び隊」を開催。中学生ボランティアを巻き込んだ異学年交流プログラムで、自由遊びが主であるが、1時間強の中で、中学生がサポートしながら、鬼ごっこ、かくれんぼ、工作などイキイキとした活動が見られる

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

- ◆中学校養護教諭として子どもに接した経験もあるが、「子どもの専門家ではない」。訪問看護、ケアマネージャーとして、「地域のチーム」を作ってきた経験がもっとも生きている。学校や病院の先生も、「地域」と関わった経験があるか否かで仕事の質が変わる。

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

- ◆コーディネーター研修に必要なものは、例えば会議をうまく回すようなファシリテート能力の養成、子どもの主体性を失わずに子どもを遊びに熱中させられるような遊びのスペシャリスト(例:プレイリーダー)的能力の養成、また一方でゼネラリスト的視点の養成も必要。
- ◆放課後子ども教室を各地域でどうとらえるか、コーディネーターがどうとらえるか、また地域の課題をどうとらえるか、それによって放課後のあり方も変わってくる。このような見方、考え方とこれを形にすることがコーディネーターに求められると思われ、このための研修が必要と考える。

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

- ◆「子どもたちが町を育てる」意識や活動を促したい。例えば、中学校で「まちクラブ」を作り普及させたい。中学生等が子どもたちの目線で地域の課題を見つけ、まちづくり活動を行なえるようにしたい。
- ◆コーディネーターとして活動を充実させるには、「中立であり、かつ権限がある」という立場が保証されるとよいと思っている

⑧Hコーディネーター（山口県下関市）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆50歳代、女性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆平成5～12年：下関子ども劇場事務局で活動
- ◆平成3年に「生野第2土曜日あそぼう会」を仲間とともに発足。平成17年度より第2、第4土曜の月二回開催とし「生野あそぼう会」と改称。

◆平成16年度：「地域子ども教室」として、「放課後ひろば☆山の田」をスタート。

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

◆上記のほか、山の田中学校区青少年健全育成協議会理事、下関市地域福祉圏域福祉ネットワーク推進委員、下関地域シニアアクティブクラブ推進会議委員、山口県地域教育力活性化協議会委員、山口県地域子ども教室推進委員

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

- ◆自営業のご主人の経理等手伝い
- ◆行政統計調査員、民間商品調査員（ミステリーショッパー）等のパート

b.モチベーション

i. コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

- ◆【報酬もモチベーションを左右する】
 - ・「土曜あそぼう会」発足に象徴されるように、「子どものため」「地域のため」「自分のため」に何かやらねば
- ◆できれば、月 50,000 円でもいいので、安定的な収入になるとよい（余程の子ども好き、生きがいと感じられる人でないと続きにくい）

ii. 謝礼、報酬等

- ◆720 円/時（現場スタッフとして参加の際は、1,000 円/1 回・4 時間） *合わせて、4~7 月（4 ヶ月）で 60,000 円強

c. 放課後教室の性格

i. コーディネーターとしての担当教室数

- ◆2 教室（2 校）
- *この他に、1 教室の立上げを支援。教室へのニーズアンケートを実施し、結果をもとに、「居場所をつくろう会」の呼びかけ文書作成、「つくろう会」当日も運営。参加者募集及び参加者説明会まで様々なノウハウを提供し事務や運営も支援。

ii. 放課後子ども教室の性格

- ◆＜放課後ひろば☆山の田＞全 41 回：毎週水曜 4 時間弱：自由あそび（1 時間弱）、みんなであそぼう、つくろう（1 時間半：出店から選択：集団ゲーム、昔あそび、紙飛行機、たこ等ものづくり、ダンス、音楽会）、話し合い、読み聞かせ、うた（20 分）
- ◆＜生野あそぼう会＞全 23 回：第二土曜午前（スタッフ提案型企画）、第四土曜午後（参加者もりよち企画）、各 2 時間：ジャンボこいのぼりづくり、手作り電池教室、いも植え、大正琴コンサート、おひとり座講演、ダンボールであそぼ、しめかざりづくり

d. コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

- ◆下関子ども劇場事務局での活動などを通じて、資金 0 で、催しを企画し、金、ヒトを集めて子どもや地域のためになることをやる経験を積んだ
- ◆団塊世代にかかっており、問題意識が強く、仲間の意見を集約しながら、文書や言

葉でアピールすることには慣れていた

e. コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

- ◆子どものとらえ方、接し方などの価値観を、教室関係者の中で一致させておく必要がある
- ◆子どもがまともに育ちにくくなっている社会の中で、大人はどのような心持で子どもに接し、気づいてあげて、どう接するべきか。大人も遊び心は持ちつつ、ケジメはきちんとつける。
- ◆学童スタッフとの認識や子どもに接する意識、態度のズレの解消

f. コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

- ◆教室当日の運営及び企画、データ、文書作成など、自分以外のスタッフだけでも対応できるように意識はしているが、自分でやるのが早く、確実であるために、性分もあつてまかせきれていない。
- ◆月 50,000 円程度でも安定的な収入になれば、もっと活動がしやすくなる

⑨ I コーディネーター（山口県下関市）

a. キャリア

i. 年代、性別

- ◆40 歳代、男性

ii. コーディネーターになられた経緯

- ◆「地域子ども教室」でもコーディネーター

iii. コーディネーターとなる以前のお仕事、活動など

- ◆市内に転居後、会社勤めの傍ら、平成 8 年に地区子ども会の世話役に。子ども会の低迷を感じ、平成 9 年に地区の 120 世帯対象の子ども会新聞を発行。平成 11 年には地区の小学校で配布してもらえる子ども向けミニコミ誌となり、その後旧下関市東部 5 地区の全小学校での配布をめざして活動し平成 13 年に 1 万世帯全戸折込配布が実現した。平成 18 年には 1 市 4 町の合併で新・下関市が誕生し、54 校（旧市は 33 校）に増加した小学校全校に配布する青少年対象情報誌「あそびっ子・下関」となり、この発行事務局代表・編集長として活動。

iv. 子ども及び地域の人々との関わり経験

- ◆子ども会世話役及び上記の子ども向けミニコミ誌の取材を通じて、子どもたち自身や子どもを支える多くの組織や人々と関わってきている。

v. 現状の、コーディネーター以外のお仕事、活動など

- ◆農業
- ◆「あそびっ子・下関」発行事務局代表・編集長
- ◆「内日（江後）里山（里山事業、古民家交流）」村長、代表
- ◆「21 世紀・夢プロジェクト（環境団体）」事務局長

b.モチベーション

i.コーディネーターとしてのモチベーション（やりがい）

◆【報酬は気にしていない】

・これからの時代は、学校・家庭・地域が連携し地域の中で3世代と同様の教育力を育んでいかななくてはならない。

ii.謝礼、報酬等

◆720円/時間

c.放課後教室の性格

i.コーディネーターとしての担当教室数

◆1教室（1校）

ii.放課後子ども教室の性格

◆<清末あそびっ子クラブ>全36回：毎週水曜、土日：「学びの場」「体験の場」「交流の場」「遊びの場」「生活の場」を提供：クラブ独自教室（野菜づくり、お菓子づくり、手づくり乾電池ほか）、子ども会と協働（奉納相撲等）、公民館活動と協働（お話し会、ネイチャーゲーム、たこづくり、のり巻きづくりほか）、地域の恒例行事に参加（どんど焼きほか）、児童クラブと協働、「あそびっ子・下関」と連携（里山ふれあい教室ほか）

d.コーディネーター就任以前から保有している優れた資質やスキル

◆子ども向けミニコミ誌発行を通じて、小粒のボランティアまでも含めて子どもに関わる地域活動人材やグループとの広く深いネットワークを得てきた。

◆取材、データ収集・分析、ドキュメント作成、プレゼンテーションは当然優れている

e.コーディネーター研修についての感想、ご意見、ご要望

◆「地域で子どもを育てる」ことに関わってもらえる実績あるいは意欲を持つ人を掘り起こして、その人々が実際に子ども達のために動ける体制や仕組み、シフトをつくっていくのがコーディネーターである。コーディネーターと地区の事務局（世話人）数人がいれば、教室立上げ可能である。

◆研修で何かを学ぶというより、志と地域を愛し、知ることが大切なように思う

f.コーディネーターとして活動される中での今後の希望、要望

◆地域のコーディネーター人材を見つけ出し、コーディネーターとして一人前に育てるスーパー（ジェネラル）コーディネーターが必要では。

◆研修よりも、都道府県単位、可能ならば市区町村で一人ずつこのようなスーパーコーディネーターを任命し、それなりの報酬、活動費なども保証した方が、費用対効果は高いのではないか

Ⅲ. 放課後子どもプランの全国への普及を推進するための研修のあり方の提案

1. 研修のあり方についての検討の進め方

(1) コーディネーター研修のあり方についての検討のための主要データ

研修のあり方の提案にあたり、次の二つのデータを主に分析と検討を行った。

- A. データ a : 「コーディネーターに必要な資質」と「コーディネーター自身の保有認識」
- ・「コーディネーターとして必要と思われる資質」とこれらの資質について「コーディネーター自身が備えているか否か(保有認識)」を比較し、この結果をもとに、一般的な研修としては取り上げにくい、コーディネーターの資質向上において重視されるべき項目を整理した。
- B. データ b : 実施例のある研修に対するコーディネーターの「研修充実・新設ニーズ」
- ・実施例のある研修項目について、コーディネーターに「充実あるいは新設の必要性」を尋ねた結果をもとに、研修のあり方を分析、検討した。

(2) コーディネーター研修のあり方についての検討のための切り口

研修のあり方の提案にあたり、次の二つのクロス集計を主に分析と検討を行った。

- A. クロス a : コーディネートタイプ別クロス(教室及び放課後対策への関わり方でタイプ分け)
- ・コーディネーターの活動や関係者の広がりに着目して、「放課後子ども教室」への関わりの基本スタンスを尋ねた結果をもとに、以下のようにコーディネートタイプを4タイプに類型化した。
 - ・その上で、このタイプごとに必要な資質、能力、研修へのニーズ等を整理し、これらに対応するためという視点から研修のあり方を提案する。
 - ・タイプ分けのデータは、次頁に示す
- ①タイプ1【該当 94名】: 教室を守るコーディネート
- ・「直接的な教室運営」に関わり、タイプ2,3,4のコーディネートには関わっていない
- ②タイプ2【該当 85名】: 教室をよりよくするコーディネート
- ・「学校、地域、行政との連携、調整」にも関わり、タイプ3,4のコーディネートには関わっていない
- ③タイプ3【該当 20名】: 教室を越えるコーディネート
- ・「教室間の連携や国・県、民間企業等まで」関わる
- ④タイプ4【該当 2名】: 「放課後教室」と「児童クラブ」連携をコーディネート
- ・「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」連携、調整のみに関わる

<コーディネータータイプの類型化>

コーディネーター対象アンケートの間 8 (コーディネーターとしての関わり方の基本スタンス 32 頁) の回答結果をもとに、次のような考え方で類型化を行なった。

No.	コーディネーターとしての役割認識 (関わり方の基本スタンス)	「自身が実際関わっている」として割合【全体】		コーディネータータイプ											
				タイプ 1		タイプ 2		タイプ 3		タイプ 4		タイプ 5		タイプ “4+”	
				n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
		n	%	94	45.9	85	41.5	20	9.8	2	1.0	4	2.0	54	26.3
1	「直接的な教室運営」への関わり 教室(放課後子ども教室等)の運営が主要業務で、子ども、保護者、自教室スタッフ、行政担当者等への対応が主である。	164	73.5												
2	「学校、地域、行政との連携、調整」に関わり 教室、学校と地域や行政との連携や調整が主要業務で、地域の人々や担当以外の行政関係者、複数の教室のスタッフ、学校関係者等への対応も行なう。	99	44.4												
3	「国・県、民間企業等まで」に関わり 教室運営に留まらずに、国・都道府県等行政や民間企業、他地域の教室、行政等の状況も意識して連携できるものは連携するなど、総合的な放課後対策全般の企画、運営にも関わる。	21	9.4												
4	「放課後教室」と「児童クラブ」との連携に関わり 「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携や調整にも関わる。	52	23.3												
5	上のいずれでもない関わり方	6	2.7												

★タイプ1【該当 94名】：教室を守るコーディネーター

上記選択肢の1“のみ”に○がついた場合を、タイプ1とした。

<タイプ1：「教室を守るコーディネーター」の主要業務、関わり方>

- ・主として、教室(放課後子ども教室等)の運営を担い、保護者、自教室スタッフ、行政担当者等と関わり、対応が主である

★タイプ2【該当 85名】：教室をよりよくするコーディネーター

上記選択肢で2“のみ”または1・2に○がついた場合を、タイプ2とした。

<タイプ2：「教室をよりよくするコーディネーター」の主要業務、関わり方>

- ・主として、教室、学校と地域や行政との連携や調整を担い、地域の人々や担当以外の行政関係者、複数の教室のスタッフ、学校関係者等との関わり、対応も行なう。

★タイプ3【該当 20名】：教室を越えるコーディネーター

上記選択肢で3“のみ”または1・3、2・3、1・2・3に○がついた場合を、タイプ3とした。

<タイプ3：「教室を越えるコーディネーター」の主要業務、関わり方>

- ・教室運営に留まらずに、国・都道府県等行政や民間企業、他地域の教室、行政等の状況も意識して連携できるものは連携するなど、総合的な放課後対策全般の企画、運営にも関わる。

★タイプ4【該当 2名】：「放課後教室」と「児童クラブ」連携をコーディネーター

上記選択肢で4“のみ”に○がついた場合を、タイプ4とした。

*なお、上表では、タイプ4(4のみに○)と、タイプ“4+”(4に○のついている方全て)も設定しているが、タイプ4は2人と少ないため以降の分析では参考的に数値のみ示す。タイプ“4+”については、タイプ1~4と重複のある群であり以降では対象としない。

B. クロスb：主要キャリア別クロス(放課後教室参画以前の主要職歴・経験で類型化)

「放課後子ども教室」等に関わる以前の経験や職歴を尋ねた結果をもとに、以下のよ
うに主要キャリアタイプを類型化した。

①教員経験者 【該当 63名】

・幼稚園、小学校、中学校、高校の教員とその他教員の経験者。他のキャリアの有無に
関係なく、教員経験を優先。

②保育士経験者 【該当 7名】

・保育士の経験者。教員経験がある場合はそちらを優先。教員以外のキャリアでは
保育士経験を優先。

③放課後指導員経験者【該当 27名】

・「児童クラブ」「地域子ども教室」等の経験者。教員経験、保育士経験以外はこのキャ
リアを優先。

④民間企業経験者 【該当 52名】

・「民間企業」の経験者。教員経験、保育士、放課後指導員経験以外はこのキャリアを
優先。

⑤PTA経験者 【該当 43名】

・「PTA活動」の経験者で、上記のいずれの経験もない方。

なお、クロスa(コーディネートタイプ)とクロスb(主要キャリア)との対応関
係は次表のようになっている。

<クロスaとクロスbとの対応関係>

クロスa(コーディネートタイプ)とクロスb(主要キャリア)との対応(主要キ
ャリア別コーディネートタイプの内訳は、次の通りである。

コーディネートタイプと主要キャリアの対応	合計		教員 経験者		保育士 経験者		放課後 経験者		民間 経験者		PTA 経験者	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
全体	175	100	52	100	7	100	27	100	48	100	41	100
タイプ1:教室を守るコーディネート 「直接的な教室運営」に関わる	83	47.4	27	51.9	3	42.8	10	37.0	24	50.0	19	46.3
タイプ2:教室をよりよくするコーディネート 「学校、地域、行政との連携、調整」にも関わる	73	41.7	18	34.6	3	42.9	13	48.1	20	41.7	19	46.3
タイプ3:教室を越えるコーディネート 「教室間の連携や国・県、民間企業等まで」関わる	17	9.7	6	11.5	1	14.3	4	14.8	4	8.3	2	4.9
タイプ4:「放課後教室」と「児童クラブ」の連携 をコーディネート 「放課後教室」と「児童クラブ」連携のみに関わる	2	1.1	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	2.4

- ①教員経験者：タイプ1が半数強で、タイプ2が約1/3である。
 ②保育士経験者：タイプ1と2が同数である。
 ③放課後経験者：タイプ2が多く、タイプ3も他の経験者に比べてやや比率が高い。
 ④民間経験者：タイプ1が半数で、タイプ2も4割強である。タイプ3は比較的少ない。
 ⑤PTA経験者：タイプ1と2が同数で、タイプ3は比較的少ない。

2. コーディネーターの「研修充実・新設ニーズ」をもとにした分析、提案

(1) コーディネートタイプ別の検討

下表は、「今後、充実や新設が必要と考える研修内容」について尋ねた結果を、タイプ別に整理したものである。これをもとに、以下でタイプ別の主要研修項目を示す。

研修内容について、「今後、充実や新設が必要」と回答した割合 【コーディネートタイプ別クロス集計】		全体	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4
		n201	n94:46.8%	n85:42.3%	n20:10.0%	n2:1.0%
教室内対応	様々な地域の教室取組み事例	27.4	27.7 ①	30.6 ③	15.0	0.0
	障害や要配慮児童理解や対応	24.2	18.1 ③	32.9 ①	30.0 ②	0.0
基礎知識	子育ての現状など概論	23.3	17.0 ⑤	31.3 ②	30.0 ②	0.0
教室内対応	遊びや体験活動の技術	22.9	17.0 ⑤	29.4 ④	30.0 ②	0.0
	子どもの安全管理と防犯対策	22.0	17.0 ⑤	23.5 ⑧	25.0 ⑧	50.0
	子どもへの接し方や叱り方	21.5	14.9 ⑩	29.4 ④	30.0 ②	0.0
	自市区町村内での教室実践例	21.1	23.4 ②	22.4	10.0	0.0
地域対応	地域人材の確保策	19.7	18.1 ③	20.0	35.0 ①	0.0
基礎知識	青少年の現状や心理など概論	19.7	14.9	24.7 ⑦	25.0 ⑧	0.0
教室内対応	いじめの発見、対応	19.3	16.0 ⑧	23.5 ⑧	30.0 ②	0.0
	けがや事故への応急処置	19.3	16.0 ⑥	22.4	20.0	0.0
	活動プログラムの立案・作成	18.8	13.8	27.1 ⑥	25.0 ⑧	0.0
行政対応	「放課後教室」「児童クラブ」連携	15.7	9.6	22.4	25.0 ⑧	0.0
保護者 地域	コミュニケーションや対人スキル	12.1	7.4	15.3	30.0 ②	0.0
行政 保護者	広報等の文書作成、プレゼン	9.4	8.5	11.3	15.0	0.0
基礎知識	放課後対策に関する概論	9.4	10.6	9.4	10.0	0.0
行政対応	事務処理、経理・労務管理	9.0	8.5	7.1	15.0	0.0
地域対応	体験活動フィールドや受入施設	9.0	5.3	10.6	10.0	0.0
教室内対応	人権について	8.5	6.4	8.2	20.0	0.0
基礎知識	ボランティア活動に関する概論	4.9	3.2	5.9	10.0	0.0
	生涯学習や社会教育概論	4.9	1.1	5.9	20.0	0.0

①タイプ1：教室を守るコーディネート

- ・主として、教室（放課後子ども教室等）の運営を担い、保護者、自教室スタッフ、行政担当者等と関わり、対応が主である

＜「教室を守るコーディネート」が主要業務となる場合の主要研修項目＞

- ①様々な地域の教室取組み事例

- ②自市区町村内での教室実践例
- ③障害や要配慮児童理解や対応
- ③地域人材の確保策
- ⑤子育ての現状など概論
- ⑤遊びや体験活動の技術
- ⑤子どもの安全管理と防犯対策

②タイプ2：教室をよりよくするコーディネート

・主として、教室、学校と地域や行政との連携や調整を担い、地域の人々や担当以外の行政関係者、複数の教室のスタッフ、学校関係者等との関わり、対応も行なう。

<「教室をよりよくするコーディネート」が主要業務となる場合の主要研修項目>

- ①障害や要配慮児童理解や対応
- ②子育ての現状など概論
- ③様々な地域の教室取組み事例
- ③地域人材の確保策
- ④遊びや体験活動の技術
- ⑤子どもへの接し方や叱り方 【タイプ2向け研修の重点項目】
- ⑥活動プログラムの立案・作成 【タイプ2向け研修の重点項目】

③タイプ3：教室を越えるコーディネート

・教室運営に留まらずに、国・都道府県等行政や民間企業、他地域の教室、行政等の状況も意識して連携できるものは連携するなど、総合的な放課後対策全般の企画、運営にも関わる。

<「教室を越えるコーディネート」が主要業務となる場合の主要研修項目>

- ①地域人材の確保 【タイプ3向け研修の重点項目】
- ②障害や要配慮児童理解や対応
- ②子育ての現状など概論
- ②遊びや体験活動の技術
- ②子どもへの接し方や叱り方
- ②いじめの発見、対応 【タイプ3向け研修の重点項目】
- ②コミュニケーションや対人スキル 【タイプ3向け研修の重点項目】

(2) 主要キャリア別の検討

下表は、「今後、充実や新設が必要と考える研修内容」について尋ねた結果を、主要キャリア別に整理したものである。これをもとに、以下で主要キャリア別の主要研修項目を示す。

研修内容について、「今後、充実や新設が必要」と回答した割合 【主要キャリア別クロス集計】		全体	教員 経験者	保育士 経験者	放課後 経験者	民間 経験者	PTA 経験者
		n192	n63:32.8%	n7:3.6%	n27:14.1%	n52:27.1%	n43:22.4%
教室内対応	様々な地域の教室取組み事例	27.4	28.6 ②	71.4 ①	29.6 ②	28.8 ①	23.3 ②
	障害や要配慮児童理解や対応	24.2	27.0 ④	28.6 ⑤	18.5	23.1 ④	25.6 ①
基礎知識	子育ての現状など概論	23.3	28.6 ②	42.9 ②	25.9 ④	19.2 ⑦	18.6
教室内対応	遊びや体験活動の技術	22.9	22.2 ⑥	28.6 ⑤	25.9 ④	25.0 ③	23.3 ②
	子どもの安全管理と防犯対策	22.0	30.2 ①	42.9 ②	14.8	21.2 ⑤	18.6
	子どもへの接し方や叱り方	21.5	23.8 ⑤	14.3	22.2 ⑦	26.9 ②	16.3
	自市区町村内での教室実践例	21.1	20.6 ⑧	42.9 ②	18.5	21.2 ⑤	23.3 ②
地域対応	地域人材の確保策	19.7	15.9	28.6 ⑤	33.3 ①	19.2 ⑦	9.3
基礎知識	青少年の現状や心理など概論	19.7	19.0	28.6 ⑤	29.6 ②	13.5	23.3 ②
教室内対応	いじめの発見、対応	19.3	12.7	28.6 ⑤	25.9 ④	13.5	23.3 ②
	けがや事故への応急処置	19.3	22.2 ⑥	14.3	22.2 ⑧	17.3	16.3
	活動プログラムの立案・作成	18.8	17.5	28.6 ⑤	14.8	19.2 ⑦	20.9 ⑦
行政対応	「放課後教室」「児童クラブ」連携	15.7	17.5	28.6 ⑤	11.1	9.6	16.3
保護者	地域 コミュニケーションや対人スキル	12.2	12.7	14.3	18.5	9.6	11.6
行政	保護者 広報等の文書作成、プレゼン	9.4	6.3	14.3	7.4	7.7	14.0
基礎知識	放課後対策に関する概論	9.4	19.0	28.6 ⑤	3.7	5.8	4.7
行政対応	事務処理、経理・労務管理	9.0	14.3	14.3	14.8	1.9	9.3
地域対応	体験活動フィールドや受入施設	9.0	9.5	0.0	3.7	13.5	7.0
教室内対応	人権について	8.5	11.1	0.0	14.8	5.8	4.7
基礎知識	ボランティア活動に関する概論	4.9	3.2	14.3	3.7	5.8	4.7
	生涯学習や社会教育概論	4.9	4.8	0	7.4	9.6	2.3

①教員経験者

＜教員経験者を対象とする場合の主要研修項目＞

- ①子どもの安全管理と防犯対策例 【教員経験者対象研修の重点項目】
- ②様々な地域の教室取組み事例
- ②子育ての現状など概論 【教員経験者対象研修の重点項目】

- ④障害や要配慮児童理解や対応
- ⑤子どもへの接し方叱り方
- ⑥遊びや体験活動の技術
- ⑥けがや事故への応急処置

②保育士経験者

<保育士を対象とする場合の主要研修項目>

- ①様々な地域の教室取組み事例
- ②子育ての現状など概論
- ②子どもの安全管理と防犯対策
- ②自市区町村内での教室実践例
- ⑤障害や要配慮児童理解や対応
- ⑤遊びや体験活動の技術
- ⑤地域人材の確保 【保育士経験者対象研修の重点項目】
- ⑤青少年の現状や心理など概論 【保育士経験者対象研修の重点項目】
- ⑤いじめの発見、対応 【保育士経験者対象研修の重点項目】
- ⑤活動プログラムの立案・作成 【保育士経験者対象研修の重点項目】
- ⑤「放課後教室」「児童クラブ」連携 【保育士経験者対象研修の重点項目】

③放課後指導員経験者

<放課後指導員を対象とする場合の主要研修項目>

- ①地域人材の確保 【放課後指導員経験者対象研修の重点項目】
- ②様々な地域の教室取組み事例
- ②青少年の現状や心理など概論 【放課後指導員経験者対象研修の重点項目】
- ④子育ての現状など概論
- ④遊びや体験活動の技術
- ④いじめの発見、対応 【放課後指導員経験者対象研修の重点項目】
- ⑦子どもの接し方や叱り方

④民間企業経験者

<民間企業経験者を対象とする場合の主要研修項目>

- ①様々な地域の教室取組み事例
- ②子どもの接し方や叱り方 【民間企業経験者対象研修の重点項目】
- ③遊びや体験活動の技術
- ④障害や要配慮児童理解や対応
- ⑤子どもの安全管理と防犯対策

⑤自市区町村内での教室実践例

⑦子育ての現状など概論

⑦地域人材の確保 【民間企業経験者対象研修の重点項目】

⑦活動プログラムの立案・作成 【民間企業経験者対象研修の重点項目】

⑤PTA経験者

<PTA経験者を対象とする場合の主要研修項目>

①障害や要配慮児童理解や対応

②様々な地域の教室取組み事例

②遊びや体験活動の技術

②自市区町村内での教室実践例

②青少年の現状や心理など概論 【PTA経験者対象研修の重点項目】

②いじめの発見、対応 【PTA経験者対象研修の重点項目】

⑦活動プログラムの立案・作成 【PTA経験者対象研修の重点項目】

(3) コーディネータータイプと主要キャリアを考慮した研修のあり方

下表は、主要研修項目を主要キャリア別とコーディネータータイプ別のマトリクスで整理したものである。

コーディネータータイプ	教員経験者	保育士経験者	放課後指導員経験者	民間企業経験者	PTA経験者
1 教室を守る	① 様々な地域の教室取組み事例 1	① 様々な地域の教室取組み事例 1	① 様々な地域の教室取組み事例 2	① 様々な地域の教室取組み事例 1	① 様々な地域の教室取組み事例 2
	③ 障害や要配慮児童理解や対応 4			③ 障害や要配慮児童理解や対応 4	③ 障害や要配慮児童理解や対応 1
	⑤ 子育ての現状など概論 2	⑤ 子育ての現状など概論 2	⑤ 子育ての現状など概論 4		
	⑤ 子どもの安全管理と防犯対策 1	⑤ 子どもの安全管理と防犯対策 2		⑤ 子どもの安全管理と防犯対策 5	
		② 自市区町村内での教室実践例 2		② 自市区町村内での教室実践例 5	② 自市区町村内での教室実践例 2
		③ 地域人材の確保策 5	③ 地域人材の確保策 1	③ 地域人材の確保策 2	
2 教室をよりよくなる			④ 遊びや体験活動の技術 4	④ 遊びや体験活動の技術 3	④ 遊びや体験活動の技術 2
	④ 子どもへの接し方や叱り方 5			④ 子どもへの接し方や叱り方 2	
	⑥ 活動プログラムの立案・作成 5	⑥ 活動プログラムの立案・作成 5		⑥ 活動プログラムの立案・作成 7	⑥ 活動プログラムの立案・作成 7
		⑦ 青少年の現状や心理など概論 5	⑦ 青少年の現状や心理など概論 2		⑦ 青少年の現状や心理など概論 2
3 教室を越える		① 地域人材の確保策 5	① 地域人材の確保策 1	① 地域人材の確保策 7	
		② いじめの発見、対応 4	② いじめの発見、対応 4		② いじめの発見、対応 2
		② 「放課後教室」「児童クラブ」連携 5			
	② コミュニケーションや対人スキル 2	② コミュニケーションや対人スキル 2	② コミュニケーションや対人スキル 9		

* 凡例:①～⑦の番号はタイプ内での優先順位、1～7の番号は各キャリア内での優先順位

1) コーディネータータイプを考慮した主要キャリア別研修の考え方

①教員経験者の場合

・タイプ1の関わりに対しては経験豊富である。タイプ2への関わりでは「学校」とは違う「放課後なり」の子どもへの接し方、プログラム立案が、タイプ3にも関わる際は、コミュニケーションや対人スキルを磨くことも必要になる。

②保育士、放課後指導員経験者の場合

・タイプ1への対応では多くは必要ないが、子育てや青少年問題などのタイムリーな情報提供は必要となる。タイプ2では、「放課後なり」のプログラム立案、タイプ3では、地域人材確保やコミュニケーション、対人スキルのほか、子どもとやや距離ができるため、いじめサインの理解なども必要になる。

③民間企業経験者の場合

- ・タイプ1・2では、子どもや地域との関わりの薄さを埋める研修が必要である。タイプ3は、地域人材との関わりさえできれば最も得意とするところである。

④PTA経験者の場合

- ・親としての子どもへの関わりから、PTAを経て地域の子どもの放課後にも関わるようになった方達で、子どもや地域について最も身近であり、日々の活動に対する理論的、体系的な情報獲得により一層の活躍が期待される。

2) 必修研修項目と選択研修項目の考え方

前の整理表をもとに、必修研修項目と選択研修項目を下のように整理できる。

研修項目とともに、コーディネーターアンケートにおいて「充実や新設が必要な理由や、充実、新設の要点」として記述いただいた内容を整理して、研修のポイントとして示す。

A. 必修研修項目

A-①他地域事例に学ぶ（様々な地域の教室取組み事例）

<研修のポイント>

- ◆問題、課題とその解決例を示す
- ◆ナマの体験や苦労話を織り交ぜる
- *情報の共有、事例のデータベース化を図る
- *自教室と比較してレベルを認識でき対応のヒントが得られる内容を取り入れる

A-②障害のある児童や配慮を要する児童についての理解と対応

<研修のポイント>

- ◆多様化している障害のケースと対応上の留意点を取り上げる
- ◆「キレやすい」など、障害とは言えないが要注意児童への対応にもふれる
- ◆障害のある児童の保護者への対応も取り上げる
- ◆障害について、「どこまで誰に知らせるか、知らせないか」を判断できるような内容を取り入れる
- ◆ケースワーカー、看護師、医師、養護教諭等による実地研修を取り入れる
- ◆学校学級担任、養護教諭等との連携の進め方にもふれる
- ◆施設などでの実地研修も取り入れる
- *コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する
- *一度で終わらせず、少なくとも年に一回の研修を確保する

＜研修事例＞

実施自治体	内容	方法	講師
横浜市 (はまっ子)	自閉症や多動性障害等の児童への理解と対応について(概論)	講義	
横浜市 (はまっ子)	知的障害・自閉症児の理解、軽度発達障害児の理解、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由児の理解	講義	
横浜市 (はまっ子)	事例をもとにした障害児対応	講義	
横浜市 (はまっ子)	知的障害児の世界を知ろう(ワークショップを通じて知的障害児の特性を理解)	ワークショップ	早稲田大学大学院教授
岐阜市	KYT(危険予知トレーニング)	ワークショップ	栗木典子講師

A-③子育てを取り巻く現状（子育ての現状など概論）

＜研修のポイント＞

- ◆価値観が多様化している中での、多様な親への対応の心得(基準)などが理解できるような内容とする
- ◆子育てしている親の不安やニーズを聞くような機会も取り入れる
- ◆子育てにゆとりを持てる心のケアについて理解できる内容とする
- ◆地域、保護者、学校、行政等の役割と共通理解、協力・連携体制の形成を図るための活動の進め方などにもふれる
- *保護者向けの講習も取り入れる
- *コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する

A-④安全管理、防犯（子どもの安全管理と防犯対策）

＜研修のポイント＞

- ◆現地に即したケースを想定した研修、シミュレーションなどを取り入れる
- ◆警察官、行政防犯担当者等による実地研修も取り入れる
- ◆安全、防犯のための人的配置、連携体制などの内容にもふれる
- *いたずらに不安を煽る内容は避ける
- *コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する
- *一度でなく、少なくとも年に一回の研修を確保する

A-⑤自地域事例に学ぶ（自市区町村での教室実践例）

＜研修のポイント＞

- ◆問題、課題とその解決例を示す
- ◆ナマの体験や苦労話を織り交ぜる
- *情報の共有、事例のデータベース化を図る

* 自教室と比較してレベルを認識でき対応のヒントが得られる内容を取り入れる

<研修事例>

実施自治体	内容	方法	講師
田村市(福島県)	市内教室事例発表「子ども教室指導員は、子どもたちにどのような支援ができるか」	講義	市内コーディネーター
田村市(福島県)	市内教室視察	見学	
横浜市 (キッズクラブ)	キッズクラブの一日、キッズクラブの一年	講義	キッズ主任指導員
島根県	事例報告「“縁側”の取り組みから見えるもの」	講義	県内コーディネーター
松江市	子ども・親との接し方(放課後の子ども遊びの様子から、保護者との関係)	講義	市内公民館長
松江市	支援の必要な子どもたち(実践編)(放課後の居場所にやってくるさまざまな子どもたちへの対応の様子から)	講義	市内公民館長
山口県	事例発表「児童理解・安全管理」	講義	
山口県	事例発表「児童クラブとの連携について」	講義	

B. 準・必修研修項目

B-①遊び、体験活動の技術

<研修のポイント>

- ◆ タイムリーな遊びほか遊びのバリエーションを知ることができる内容とする
- ◆ 子どもを引きつけられる「ちょっとした遊び」メニューなども取り入れる
- ◆ 遊びのルールブックの紹介や配布などを行なう

<研修事例>

実施自治体	内容	方法	講師
岐阜市	心の冒険プログラム	講義 ワークショップ	滋賀県立荒神山少年自然の家主任指導員
青森市	ロデオ研修	講義 ワークショップ	汐見稔幸氏

B-②子どもへの接し方、叱り方

<研修のポイント>

- ◆ 価値観が多様化している中での、子どもの叱り方(叱ると怒るの違い他)の心得(基準)などが理解できるような内容とする
 - ◆ 子どもに一目置かれて好かれるような対応の心得にも触れる
- * コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する

*一度でなく、少なくとも年に一回の研修を確保する

B-③いじめの発見と対応

<研修のポイント>

- ◆多様化しているいじめのケースと対応上の留意点が理解できるような内容とする
 - ◆早期発見のポイントがわかるような内容とする
 - ◆兆しがあった際どこまで関わるか(保護者、学校と教室の関係)についてもケースなどを交えて紹介する
 - ◆カウンセラー等による実地研修を取り入れる
 - ◆学校学級担任、養護教諭等との連携の進め方にもふれる
- *コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する
- *一度でなく、少なくとも年に一回の研修を確保する

C. 選択研修項目

C-①地域人材の確保と活用

<研修のポイント>

- ◆地域の人々自らが主体的に教室を運営できるような誘導の進め方などの内容を取り入れる
- ◆指導員、ボランティア等の募集、確保の進め方にふれる
- ◆情報源の紹介、可能ならば名簿紹介(市などでデータベース化してもらえとなおよい)
- ◆研修後もネット掲示板のような情報交換ができるような体制を取り入れる

<研修事例>

実施自治体	内容	方法	講師
青森県	放課後子ども教室や放課後児童クラブに学校・地域の力を取り込むアイデア	演習	早稲田大学大学院教授、「放課後プラン研究プロジェクト」主任
横浜市(キッズクラブ)	地域人材活用と情報交換		はまっ子チーフパートナー
長崎県	子どもの居場所と地域人材をコーディネートする	演習	ファシリテーター: 東和大学教授

C-②活動プログラム立案、作成

<研修のポイント>

- ◆「ちょっと」「半日・一日」「継続」などプログラムのバリエーションを組み立てられるような内容を取り入れる
- ◆タイムリーな内容を取り入れられるプログラムづくりの内容を取り入れる

- ◆子ども自らが作り出せる、子どもの目線に立ったプログラムづくりの内容を取り入れる
- ◆「反省までがプログラム」など、チェック、見直しを含めた内容にも触れる
- ◆プログラム集の紹介（市などでデータベース化してもらえとなおよい）化

<研修事例>

実施自治体	内容	方法	講師
横浜市 (キッズクラブ)	プログラム例の紹介:「人員配置ローテーションの組み方」「おやつについて」「参加カード、お知らせなど文書作成」「外部ゲストを招いてのプログラム企画」	講義 演習	キッズクラブ主任指導員、 外部講師
松江市	役に立つ体験活動プログラムとコツⅠ (和やかなふれあいの場)	講義	市内中学校教頭
松江市	役に立つ体験活動プログラムとコツⅡ (やる気を引き出す好奇心を高める場)	講義	市内中学校教頭
松江市	役に立つ体験活動プログラムとコツⅡ (誰とでも遊べる社会性を培う場)	講義	市内中学校教頭
山口県	プランニング演習	演習	

C-③青少年の心理や現状

<研修のポイント>

- ◆心理学や精神面の専門家からの講義を取り入れる
- ◆多様化している青少年問題の例と対応上の留意点を理解できるような内容とする
- *コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する

C-④「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携

<研修のポイント>

- ◆教室とクラブの明確な違いや共通点などをケースをまじえて紹介する
- ◆連携している地域の詳しい実例を紹介する
- ◆クラブは生活の場でもあることの共通理解が図れるような内容とする
- ◆施設・用具共同利用など具体的な連携方法についても理解できるようにする
- *コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する

C-⑤コミュニケーション、対人関係スキル

<研修のポイント>

- ◆会話のスキルが学べるようにする
- ◆さまざまな立場でのファシリテーター養成講座なども取り入れる
- ◆間主観的な考え方（二人の人の間で生まれる「第三の主観」、例えば、校風、家風等）が理解できるような内容も取り入れる
- ◆「適材適所」とはいかない人材不足の中での折り合いのつけ方などにもふれる

◆指導員同士のトラブルが起きた時の対処方法についてもケースを交えて紹介する

*コーディネーターに限らず、スタッフ全員への研修を実施する

<研修事例>

[人間関係づくり研修]

実施自治体	内容	方法	講師
横浜市 (キッズクラブ)	対人関係について(対人能力を身につける)	講義	
島根県 (18年度)	アイスブレイクの体験と指導技術、自己紹介につなげるアイスブレイク体験と支援技術	体験	香川大学教授
島根県 (18年度)	アイスブレイクとテーマにつながるアクティビティを企画しよう	企画	香川大学教授
島根県 (18年度)	人間関係づくりのためのアクティビティ体験と支援技術、眠った身体をほぐすアクティビティ、テーマにつながるアクティビティ体験と支援技術	体験 活動	香川大学教授
青森市	「ほほえみプロデューサーになろう」プログラム		

[ファシリテート研修]

実施自治体	内容	方法	講師
島根県 (18年度)	参加型学習の意義とファシリテーターの役割	講義	香川大学教授
島根県 (18年度)	KJ法を使ってファシリテーターを考える	体験	香川大学教授
島根県 (18年度)	ランキングを使って子どもの居場所を考える	体験	香川大学教授
島根県 (18年度)	ランキングの課題設定にチャレンジしよう(KJ法を使って項目の整理)	演習	香川大学教授
島根県 (18年度)	ランキングの成果発表とコンペ	発表 協議	香川大学教授
島根県 (18年度)	コンペで選ばれた課題をやってみよう	発表 協議	香川大学教授

3. 「コーディネーターに必要な資質」をもとにした分析、提案

(1) コーディネートタイプ別の検討

下表は、「放課後子ども教室コーディネーターとして必要と思われる資質や能力について」、コーディネーター自身が備わっていると回答した割合を、コーディネートタイプ別に整理したものである。これをもとに、コーディネートタイプ別のコーディネーター人材確保、育成のあり方や研修課題を示す。

放課後子ども教室等のコーディネーターとして必要と思われる資質や能力について【コーディネータータイプ別クロス集計】		「コーディネーターとして必要だ」と思った割合【全体】 n223	「コーディネーターとして必要でかつ自分自身に備わっている」とした割合			
			タイプ1 n94:42.1%	タイプ2 n85:38.1%	タイプ3 n20:11.2%	タイプ4 n2:0.9%
教室を守る	① 問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる	80.3	43.6 ④	56.5 ①	65.0 ②	50.0
	② メンバーの意見を踏まえ、調整し全体をまとめられる	78.5	47.9 ①	56.5 ①	60.0 ④	0.0
	③ クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質	78.0	44.7 ③	54.1 ④	80.0 ①	0.0
	④ 的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論	75.8	45.7 ②	56.5 ①	65.0 ②	0.0
	⑤ メンバーの個性や持ち味を引き出し教室運営などに活かすことができる	68.2	30.9 ⑧	45.9 ⑥	45.0	0.0
	⑤ 地域の人々にも協力を依頼して教室運営などに活かすことができる	68.2	30.9 ⑧	43.5 ⑧	60.0 ④	0.0
	⑦ 利用者や顧客(子どもや保護者)の立場からも考えられる	67.3	42.6 ⑤	44.7 ⑦	55.0 ⑥	0.0
	⑧ 記録・報告文書や経理・集計表などをまとめられる	61.4	31.9 ⑦	38.8	55.0 ⑥	0.0
教室をよりよくなる	⑨ 相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気のできる	60.1	37.2 ⑥	47.1 ⑤	45.0	50.0
	⑩ 自分の意見、主張や願いを相手に的確に伝えられる	58.3	29.8	35.3	55.0 ⑥	0.0
	⑪ ビジョンに照らして、定期的な問題や課題を認識し、改善していける	57.8	27.7	29.4	45.0	0.0
放課後対策を創造する	⑫ 事業や活動のビジョンを示すことができる	56.1	18.1	16.5	50.0	0.0
	⑬ 事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞くことができる	55.2	28.7	38.8	45.0	0.0
	⑭ メンバーの心構えなど組織としてのあり方を示すことができる	52.5	26.6	28.2	45.0	0.0
	⑮ アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成することができる	43.5	18.1	22.4	50.0	0.0

①タイプ1：教室を守るコーディネート

- ・タイプ1は「直接的な教室運営」のコーディネートのみに関わる場合で42.1%の方がこのような関わり方をしている。自ら備わっているとする上位は「メンバーの意見を踏まえ全体調整」「子ども観や接し方の理念」で、子ども対応の基本を知り、教室やスタッフを円滑、無事に維持、運営する上で必要となる資質や能力が主となっている。
- ・教室利用者本意に立って、スタッフをうまく取りまとめて対応しながら、問題が生

じたり課題が発生した際には責任を持って対応できるという資質が基本となる。

＜必要となる資質、能力＞

- i. 事業に関わるメンバー個々の意見や要望を踏まえながら、調整して全体をうまくまとめられる資質
- ii. 的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論
- iii. クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質
- iv. 問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる資質
- v. 利用者や顧客(教室では子どもや保護者)の立場からも考えられる資質

②タイプ2：教室をよりよくするコーディネーター

- ・タイプ2は「教室をよりよく変えていく」コーディネーターで38.1%の方がこのような関わり方をしている。タイプ1への対応に加えて「臨機応変の課題対応」「クレーム、トラブル等の状況把握」「メンバーの個性活用」「メンバーの本音把握」など、問題や変化への対応とともに、自ら変えようとする資質が必要になる。
- ・タイプ1に求められる基本的な資質、能力に加えて、教室への理解や魅力を広げるべくスタッフや地域の人々のニーズや個性なども考慮しながら教室に関わる輪を拡大するための資質が必要といえる。

＜タイプ1に加えて必要となる資質、能力＞

- i. 事業に関わるメンバー個々の個性や持ち味を引き出して教室運営などに活かすことのできる資質
- ii. 相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気のできる資質

③タイプ3：教室を越えるコーディネーター

- ・タイプ3は「教室を越える」コーディネーターで、「放課後子どもプラン推進事業実施要綱」のコーディネーター像に近い関わり方であるが、ここまで関わっている方は1割弱である。このコーディネーターには、前表の全ての資質を備えた方を確保するか、素地のある人材に対してこれらの資質を磨くための研修や経験機会を提供する必要がある。
- ・タイプ1の「教室を円滑、無事に守る」資質、能力、タイプ2の「外部の人の協力も得ながら教室への理解、魅力を広げる」資質、能力に加えて、タイプ3では、魅力的な教室を創造し、さらによりよくしていくというリーダーシップやアピール力が必要で、さらには、事務的なマネジメント力やクリエイティビティなども備えていることが必要となっている。まさに、何でもやり、何でもできるスーパーな人材像が浮かび上がる。

<タイプ1、タイプ2に加えて必要となる資質、能力>

- i. 自分の意見、主張や願いを相手に的確に伝えられる資質
- ii. ビジョンやあり方に照らして、定期的に問題や課題を認識して、改善を加えていける資質
- iii. 事業や活動のビジョン(「放課後子ども教室」のあり方等)を示す資質
- iv. 事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞く資質
- v. 事業に関わるメンバーの心構えなど組織としてのあり方を示す資質
- vi. アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成する能力

(2) 主要キャリア別の検討

下表は、「放課後子ども教室コーディネーターとして必要と思われる資質や能力」についてコーディネーター自身が備わっていると回答した割合を、主要キャリア別に整理したものである。これをもとに、以下で主要キャリア別の人材確保、育成のあり方や研修課題を示す。

放課後子ども教室等のコーディネーターとして必要と思われる資質や能力について【主要キャリア別クロス集計】		「コーディネーターとして必要だと思う」とした割合【全体】 n223	「コーディネーターとして必要でかつ自分自身に備わっている」とした割合				
			教員経験者 n63:28.3%	保育士経験者 n7:3.1%	放課後経験者 n27:12.1%	民間経験者 n52:23.3%	PTA経験者 n43:19.3%
教室を守る	① 問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる	80.3	50.8 ^④	57.1 ^②	66.7 ^①	42.3 ^③	51.2 ^①
	② メンバーの意見を踏まえ、調整し全体をまとめられる	78.5	60.3 ^①	42.9 ^⑥	63.0 ^②	46.2 ^①	44.2 ^②
	③ クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質	78.0	57.1 ^③	71.4 ^①	51.9 ^⑤	40.4 ^④	44.2 ^②
	④ 的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論	75.8	60.3 ^①	42.9 ^⑥	59.3 ^④	40.4 ^④	39.5 ^④
	⑤ メンバーの個性や持ち味を引き出し教室運営などに活かすことができる	68.2	46.0 ^⑤	57.1 ^②	44.4 ^⑨	40.4 ^④	34.9 ^⑥
	⑤ 地域の人々にも協力を依頼して教室運営などに活かすことができる	68.2	42.9 ^⑦	28.6 ^⑦	63.0 ^②	30.8 ^⑨	37.2 ^⑤
	⑦ 利用者や顧客(子どもや保護者)の立場からも考えられる	67.3	44.4 ^⑥	57.1 ^②	51.9 ^⑤	26.9 ^⑨	32.6 ^⑧
	⑧ 記録・報告文書や経理・集計表などをまとめられる	61.4	38.1 ^⑨	42.9 ^⑥	51.9 ^⑤	46.2 ^①	32.6 ^⑧
教室をよりよくする	⑨ 相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気ができる	60.1	41.3 ^⑧	42.9 ^⑥	40.7	32.7 ^⑦	34.9 ^⑥
	⑩ 自分の意見、主張や願いを相手に的確に伝えられる	58.3	38.1 ^⑨	28.6	44.4 ^⑨	32.7 ^⑦	30.2 ^⑩
	⑪ ビジョンに照らして、定期的に問題や課題を認識し、改善していける	57.8	33.3	57.1 ^②	48.1 ^⑧	30.8 ^⑨	27.9
放課後対策を創造する	⑫ 事業や活動のビジョンを示すことができる	56.1	39.7	42.9 ^⑥	29.6	21.2	23.3
	⑬ 事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞くことができる	55.2	31.7	42.9 ^⑥	22.2	21.2	27.9
	⑭ メンバーの心構えなど組織としてのあり方を示すことができる	52.5	22.2	42.9 ^⑥	37.0	19.2	16.3
	⑮ アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成することができる	43.5	31.7	28.6	22.2	11.5	11.6

①教員経験者

<「放課後子ども教室」コーディネーターとしての資質向上に向けた研修課題>

- ・「臨機応変の対応」や「様々な立場の人々と交渉し理解、協力を得る」ことなどが研修課題になる。

②保育士経験者

<「放課後子ども教室」コーディネーターとしての資質向上に向けた研修課題>

- ・保育現場に比べ、関わる人や参加する子ども達も多様になるので、これらの調整・まとめが研修課題になる。

③放課後指導員経験者

<「放課後子ども教室」コーディネーターとしての資質向上に向けた研修課題>

- ・「クレーム、トラブル等の状況把握」「メンバーの個性活用」などが研修課題になる。

④民間企業経験者

<「放課後子ども教室」コーディネーターとしての資質向上に向けた研修課題>

- ・一般社会での経験は豊富ですが、その分地域や子ども達と疎遠になっていたこともあり、「地域の人々との信頼・協力関係形成」「子どもや保護者の立場からの視点、発想」などが研修課題になる。

⑤PTA経験者

<「放課後子ども教室」コーディネーターとしての資質向上に向けた研修課題>

- ・自らの子育てと地域活動経験を活かして、できる範囲の協力は惜しまないとのスタンスですので、「臨機応変の対応」「メンバーの意見を踏まえ全体調整」「クレーム、トラブル等の状況把握」などが研修課題になる。

IV. コーディネーターの確保、育成に関わる諸課題

本調査研究を進める中で、訪問ヒアリング、電話ヒアリング、検討会などの機会及びアンケート自由記述において、コーディネーターの確保、育成、資質向上、研修などに関わる多くの貴重なご意見やご提案をいただいた。

しかしながら、本報告書においては検討や紹介をしきれなかった点多々ある。

本章では、これらの意見や提案を踏まえながら、コーディネーター確保、育成に関わる残された課題を整理し、まとめに代えさせていただく。

(1) コーディネーターの「資質向上」、「研修」について

そもそも、「放課後子ども教室」のコーディネーターに対する資質向上や研修が「必要であろうか」、また「できるのか」という根本的な問題提起もあった。

例えば、江戸川区では、地域の世話役・顔役的な方で、子ども、地域、学校に対して熱意と愛情のある方にコーディネーター(江戸川区では「クラブマネージャー」)をお願いしている。報酬は年間 50 万円と決して多い額ではない。本調査研究にあたり江戸川区を訪問して最初に投げかけられたのが、このようなコーディネーターに対して、行政が資質向上を求めたり、研修を受けてもらうということは、「とてもおこがましいのでは」との問いかけであった。

資質向上以前に、何をコーディネーターに託すのか、また、いかに人選するのかという方針を定めることが必要であり、自治体側でこれらを判断し決定することに資するための指針を示すべきと考えるが、本調査研究では、現状の整理に留まり指針を示すには到らなかった。

<残された課題>

- ◆何をコーディネーターに託し、いかに人選するかを自治体側で判断できるような指針の整理と提示

(2) コーディネーターの役割について

コーディネーター就任を依頼するに当たっては、「何を託すのか」、即ちコーディネーターの役割を明示する必要がある。本調査研究では、コーディネーター業務を「直接教室を運営する『教室を守るコーディネーター』」「学校、地域、行政との連携、調整にも関わる『教室をよりよくするコーディネーター』」「教室間連携や国・県、企業等まで関わる『教室を越えるコーディネーター』」という3タイプに分類した。

3タイプ別の研修項目や必要な資質についてはある程度の整理ができたが、どのような判断の上で市町村がタイプを選択すべきかについては示せていない。

コーディネータータイプを選択する上では、自治体として、どのような放課後教室とするのが定まっている必要がある。

例えば、子どもの自由遊びが主で、コーディネーターは「見守り、預かり」役でいい

のであれば、「教室を守る」ことがコーディネーターの主たる役割となる。放課後の特性を活かしながら、地域の方の参加も得て、地域や世の中のことを遊びながら学ぶという教室をめざすのであれば、「教室をよりよくするコーディネート」や「教室を越えるコーディネート」が必要となる。

さらには、このような教室像を定めるには、地域の子ども達にとって「あるべき放課後像」が示される必要がある。子ども達と保護者のニーズや、自治体としての教育方針、教室に確保できる場所・環境、参加できるボランティア等の人材の質と量などの要素を組み合わせた中から、地域としての「子ども像」、「放課後教室像」が浮かび上がってくる。

したがって、研修のあり方の提案以前に、地域、自治体として、どのように子ども達や保護者のニーズを把握し、地域の人的・物的シーズと組み合わせて、いかに「放課後像」、「教室像」を設定するのかについても情報提供や支援を行なう必要がある。

<残された課題>

- ◆地域としての「あるべき放課後像」、「教室像」を描くためのプロセスや分析、決定手法についての情報提供や支援

あるべき「放課後像」や「教室像」は、都市部と中山間部・山間部とで、また、人口規模などで異なるものと考えられる、本調査研究では、この違いにまで踏み込んだ検討、提案を行なうには到らなかった。この原因としては、アンケート、ヒアリング調査の対象を、「放課後子どもプラン」をすでに実施している、あるいは実施に対して積極的な自治体とせざるを得なかったことが挙げられる。消極的あるいは未実施の自治体については、担当部署、担当者の把握も容易でなく、このような実施方法をとらざるを得なかった。その結果、調査サンプルは、都市部が多くを占め、町村部についても積極的に放課後対策に取り組んでいる自治体が主となった。そのため、「放課後子どもプラン」実施に踏み切れていない自治体での教室実施、コーディネーター確保等の課題や問題点を洗い出すには到らなかった。

教室未実施であったり、実施しながらもコーディネーターが確保できていない自治体などのケーススタディ等により、「放課後子どもプラン」推進上の、切迫した具体的な問題点や課題を把握し整理する必要がある。

<残された課題>

- ◆「放課後プラン」の実施に踏み切れていない自治体の実態、事情や課題等の把握、整理

(3) コーディネーターの処遇について

コーディネーターが確保できていなかったり、確保に苦勞した自治体では、まずは、人材不足が主要因として挙げられた(人材はいるが限られているため、少数の方に複数

の役職などが集中してしまう)。このような場合には、やはり、多少経験や度量が不足している方にコーディネーターをお願いして、研修や行政等による相談対応やサポートで対応していくことが必要となる。

人材不足とともに、「待遇(報償金)」がネックになっているとする自治体も多かった。国が示した上限の1,440円/時間は決して低い水準ではないが、地元自治体では1/3の負担が重荷となり720円/時間の報償費としている自治体が多かった。また、「1日当たり4~6時間×教室実施日数」が上限で、これを越えた活動は無償という例が多い。

「教室をよくしていくコーディネート」や「教室を越えるコーディネート」をしっかりとできるコーディネーターを確保するには、「相応の待遇を」という声が多い一方で、コーディネーターは、「職業ではない」、「報酬を気にするようでは、しっかりとしたコーディネートはできない」という意見もある。

コーディネーターは、「ボランティアや地域の名誉職(謝礼程度の報酬)」であるべきか、あるいは「選ばれて待遇も保証される議員のような職」なのか、また、「資格や試験に裏づけられた専門職」であるべきかなど、どのような立場が、地域として、子ども達や保護者にとって、コーディネーター本人にとって、最適なのかについても、地域の実情や事情を考慮しながら検討を行う必要がある。

その上で、立場に応じて、相応の待遇と報酬水準を定めていく必要がある。

<残された課題>

- ◆コーディネーターの立場やそれに見合う待遇を地域の実情に則して検討し決定するためのプロセスや分析、決定手法についての情報提供や支援

(4) コーディネート業務の認定や評価について

コーディネーターを確保する上で、また、現在活動されているコーディネーターの意欲を持続させスキルアップを図る上で、コーディネーター業務の認定やそのための評価が必要ではないかとも意見や提案も多かった。例えば、国等で研修を実施し認定する放課後コーディネーター「ライセンス制」、認定後の評価やスキルアップの仕組みなども導入を検討する必要があるのではないかという具体的な提案もあった。

前述したような、待遇や報酬水準の妥当性を検討する上でもこのような評価基準が必要となる。

評価基準を定めるためには、コーディネーターの役割、業務内容、必要となる資質や能力を具体的に定める必要がある。本調査研究でもこれらを明らかにし、その上でこれらに対応するための研修のあり方を示すことを試みた。しかしながら、評価基準を検討するに足るだけの、段階・レベルに応じた役割、業務、資質、能力等を具体的に詳細に整理し提示するには到らなかった。

<残された課題>

- ◆コーディネーターとしての適性や活動状況などを客観的に把握し評価の参考とで

きるような視点や指標の整理

(5) コーディネーター確保、研修、資質向上への支援について

以上については、放課後やコーディネーターのあり方についての「そもそも論、あるべき論」についての課題であり、これらについても早急に整理や整備が進められるべきであるが、自治体としては、今すぐに結論や方向性を出すべき課題が数多くあり、これらのために取り組むべき事項や取り組み方を判断できるような情報提供が必要である。

『放課後子どもプラン推進事業』実施要綱が示されているが、これに加えて、この基本方針のもと、自治体でそれぞれの事情に応じて、具体的な取り組み方を検討できる、チェックリストとマニュアルあるいはガイドライン（指針）のような情報提供が必要であろう。

『放課後子どもプラン推進事業』実施要綱では、コーディネーターについて、「本事業と放課後児童クラブとの連携についての調整を図ることのほか、保護者等に対する参加の呼びかけ、学校や関係機関・団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの企画等を行なうこと」と示されている。これは、一つのコーディネーター像であるが、本調査研究では、この像に近い「タイプ3：教室を越えるコーディネート」まで行なっているコーディネーターは1割程度であることが把握された。

このほか、「教室をよりよくするコーディネート」や「教室を守るコーディネート」もあり、これらの各種のコーディネートの組み合わせによって「放課後子どもプラン」が動き出している。

様々な教室があり、様々なコーディネート形態があることが、タイプごとに、ケースを添えて紹介され、自治体の側でセレクトしながら、それぞれの放課後プランを組み立てられるような情報提供や支援が必要である。

そして、放課後像、教室像とコーディネートタイプに応じて、コーディネーターとして望まれる人物像、あれば望ましいスキル、参考となる資格、職歴、経験などについても例を示すことができればより望ましい。

また、都道府県や市区町村による研修例（実績及び計画）そして、今後国による研修も実施されるようであれば、これらも合わせて示した上で、自治体の側で研修や資質向上方策をセレクトして組み立てられるような情報提供も必要であろう。

<残された課題>

- ◆自治体の側で、放課後対策やコーディネーターのあり方をセレクトし「放課後子どもプラン」として組み立てられるような情報提供、支援の早急な実施についての検討

(6) 放課後児童クラブ（学童保育）との連携について

前述した『放課後子どもプラン推進事業』実施要綱でも、コーディネーターについての冒頭に示されているように、「放課後子ども教室と放課後児童クラブとの連携」

は、コーディネーターの主要な役割であるが、本調査研究では、この連携方策を示すには到っていない。

ケーススタディの中で、多様な連携形態があることは明らかになった。横浜市や江戸川区のように放課後教室と児童クラブが一体的に実施される例や、学校内に放課後教室と児童クラブが並立している例、学校内に教室、校区内の他施設にクラブという例などが見られた。また、放課後児童クラブのない学校から優先的に放課後子ども教室を実施するという自治体もあり、これも連携の一形態といえよう。

まずは、このような多様な連携のケースについて、現在の形に到るまでの経緯や、開設上の課題とその解決方策、メリット、デメリットなどを整理して、連携事例集として示すことなどが必要と考える。

＜残された課題＞

- ◆ 「放課後子ども教室と放課後児童クラブ」との多様な連携実態についてのタイプ整理と連携事例の紹介

< 参考資料 >

【 目 次 】

1. コーディネーター対象アンケート調査票	95
2. 市町村対象アンケート調査票	103
3. 都道府県対象アンケート調査票	109

1. コーディネーター対象アンケート調査票

C. コーディネーター調査

平成19年度 文部科学省「放課後対策に関する調査研究（コーディネーター等の資質向上方策）」
 “放課後子ども教室等”のコーディネーターに関わるアンケート調査

本アンケート調査について	
締め切り	2008年2月4日（月）までに、FAXにて回答をお願い致します。
回答送付方法について	★FAXにて、弊社宛て（03-3811-5157）ご返信をお願い致します。 ※FAX返信ができない場合は、市区町村ご担当者にお渡し下さい。
お問い合わせ先	株式会社 開発計画研究所 担当：吉塚・田中・二階堂 〒112-0002 東京都文京区小石川1-2-4 東洋ビル TEL：03-3811-5119 FAX：03-3811-5157

※ アンケートに記載いただいた情報は、本調査以外には使用致しません。

I. ご記入いただいている方について			
ご氏名		ご年代 (例：40歳代)	[] 0歳代
市区町村名		担当 小学校名	
ご連絡先	A. 組織に属している場合は 所属先名及び部署 []	B. 組織に属していない場合の連絡先は 1. 自宅 2. 携帯 3. その他 []	
ご連絡先 TEL	— —	ご連絡先 FAX	— —
メールアドレス			

II. ご自身のことについて

1. “放課後子ども教室等”に関わられる以前の、あなたご自身のご経験や職歴などについてお尋ねいたします。下のうち、ご自身で経験されたものに○をつけ、およその経験年数もご記入下さい。

(あてはまる番号に「○」をつけ[複数可]、経験年数をご記入下さい)

- 1 幼稚園の教員 [] 年
- 2 小学校の教員 [] 年
- 3 中学校の教員 [] 年
- 4 高校の教員 [] 年
- 5 その他教員【 年】[種別は? _____]
- 6 保育所の保育士 [] 年
- 7 放課後事業の指導員 [] 年
- 8 民生委員、児童委員、主任児童委員 [] 年
- 9 体育指導委員 [] 年
- 10 PTA活動 [] 年
- 11 社会教育活動 [] 年
- 12 スポーツインストラクター [] 年
- 13 町内会活動 [] 年
- 14 その他地域活動【 年】[どのような業種、職種? _____]
- 15 学習塾・幼児教育活動 [] 年
- 16 農業、林業、漁業 [] 年
- 17 民間企業 [] 年
- 18 行政 [] 年
- 19 その他【 年】[どのような経験? _____]

2. 子どもの指導や保育などに関わる以下のような資格をお持ちですか。

(あてはまる番号に「○」をつけて下さい【複数可】)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 幼稚園教諭 | 2 小学校教諭 |
| 3 中学校教諭 | 4 高校教諭 |
| 5 その他教諭 [種別は? _____] | 6 保育士 |
| 7 指導主事 | 8 社会教育主事 |
| 9 児童福祉司 | 10 社会福祉士 |
| 11 児童の遊びを指導する者(児童厚生員) | 12 民生委員・児童委員 |
| 13 生涯学習インストラクター | |
| 14 その他 [どのような資格? _____] | |

3. “放課後子ども教室等”のコーディネーターとして活動される中で、もっとも“ため”になっていると感じられる経験についてお尋ね致します 問1、問2で挙がっていない経験でも構いませんので下にご記入下さい。

Ⅲ.“放課後子ども教室等”のコーディネーターになられた経緯などについて

4. コーディネーターになられた経緯は？

(あてはまる番号に「○」をつけて下さい【複数可】)

- 1 公募に応じた
- 2 自治体から推薦・依頼された
- 3 地域から推薦・依頼された
- 4 学校・PTAから推薦・依頼された
- 5 その他 [どのような経緯? _____]

5. コーディネーターに従事する時に、不安はありましたか

(あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい)

- 1 特に不安はなかった
- 2 多少不安であった
- 3 かなり不安であった
- 4 大変不安であった

6. 上の問4で「2、3、4」とお答えの方にお尋ねいたします。不安だった点について、あてはまるものをお選び下さい。

(あてはまる番号に「○」をつけて下さい【複数可】)

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1 業務内容がわからない | 2 児童との関わり方が不安 |
| 3 運営スタッフとの関係づくりが不安 | 4 保護者との関わり方が不安 |
| 5 学校との関わり方が不安 | 6 地域との関わり方が不安 |
| 7 安全管理について不安 | 8 事務処理等について不安 |
| 9 専門知識について不安 [どのような専門知識? _____] | |
| 10 その他 [どのような不安? _____] | |

7. 問5にお答えの方(問4で「2、3、4」とお答えの方)にお尋ね致します。
不安は、どのように解消されましたか。

(あてはまる番号に「○」をつけて下さい【複数可】)

- 1 まだ解消されていない 2 行政担当者と話しをして
3 教室スタッフと話しをして 4 他のコーディネーターと話しをして
5 保護者と話しをして 6 教室の子ども達と話しをして
7 教室の雰囲気になれるにつれ 8 研修を受けて【どちらの研修? _____】
9 その他 【どのように? _____】

IV. コーディネーターとしての役割や業務などについて

8. “放課後子ども教室等”のコーディネーターとしてのあなたの関わり方についてお尋ね致します。教育委員会など「行政からの期待」、「あなたご自身の実際」の関わり方、そして、「あなたの希望」という、三つの視点からお答え下さい。

(三つの視点それぞれについて、あてはまる番号に「○」をつけて下さい【複数可】)

	行政からの期待	あなた自身の実際	あなたの希望
1 教室(放課後子ども教室等)の運営が主要業務で、子ども、保護者、自教室スタッフ、行政担当者等への対応が主である			
2 教室、学校と地域や行政との連携や調整が主要業務で、地域の人々や担当以外の行政関係者、複数の教室のスタッフ、学校関係者等への対応も行なう。			
3 教室運営に留まらずに、国・都道府県等行政や民間企業、他地域の教室、行政等の状況も意識して連携できるものは連携するなど、総合的な放課後対策全般の企画、運営にも関わる。			
4 「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携や調整にも関わる。			
5 上のいずれでもない関わり方 [_____]			
6 わからない			

9. コーディネーターとして担当している教室数及び学校区数はいくつですか。

①教室数は? [_____ 教室] ②学校区数は? [_____ 校区]

10. コーディネーターとしての従事時間はどのくらいですか。下のうち、お答えやすい書き方でお答え下さい。

A: 1週当たり [_____ 日、計 _____ 時間] B: 1月当たり [_____ 日、計 _____ 時間]
C: その他 [_____]

11. コーディネーターとしての謝金等(謝金、報償金、報酬など)は、おいくらですか。下のうち、お答えやすい書き方でお答え下さい。

A: 1時間当たり [_____ 円] B: 1日 当たり [_____ 円]
C: 1週 当たり [_____ 円] D: 1月 当たり [_____ 円]
E: 1年間当たり [_____ 円] F: その他 [_____]
[_____ 円]

12. “放課後子ども教室等”の運営に関わる以下のような業務について、コーディネーター
 と他の教室スタッフとの間での実務上の役割分担を教えてください。

(①～⑯の項目それぞれについて、右欄のいずれか一つに「○」をつけて下さい)

	1 コーディ ネーターが 主担当	2 コーディ ネーター 以外の教 室指導員 が主担当	3 コーディ ネーター も他の指 導員も同 等に担当	4 教育委 員会等 行政が主 担当	5 その他 *()内に主 担当を記入
①地域の方への協力依頼、動員要請					()
②学校との折衝、協力依頼					()
③「放課後子ども教室」と「放課後児童 クラブ」の連携、調整					()
④行政との折衝					()
⑤子どもの遊びや体験活動の日常的対 応					()
⑥子どもへの学習支援の日常的対応					()
⑦安全管理					()
⑧子どもへのしつけやきまりの徹底					()
⑨保護者への日常的な対応、連絡					()
⑩保護者からの要望、苦情への対応					()
⑪教室活動の日常的な記録文書作成					()
⑫子ども向けの教室内掲示物や文書作 成					()
⑬保護者への日常的な連絡・報告文書作 成					()
⑭放課後教室等への児童の登録・参加呼 びかけ文書作成					()
⑮行政、学校等への連絡・報告文書作成					()
⑯保護者、地域等への教室への理解、協 力呼びかけ文書作成					()
⑰行政、学校等への提案・要望文書作成					()

13. “放課後子ども教室等”のコーディネーターとして、もっとも重要な役割は何だとお考え
 ですか？ 前の問12で挙がっていない役割、業務でも構いませんので下にご記入下さい。

V. “放課後子ども教室等”のコーディネーターに必要と思われる資質、能力について

14. 1～14のうち、“放課後子ども教室等”のコーディネーターとして必要と思われる資質や能力について、あてはまるものに○をつけて下さい。また、○をつけた資質、能力について、あなた自身は備わっていると思いますか。そして、備わっている場合は、あなた自身はどのような経験や機会で身についたとお考えですか？

(必要な項目とあなたに備わっているものに○、どのように身についたかは番号【複数可】を記入)

	コーディネーターとして必要と思われる項目に○	コーディネーターとして必要で、かつあなた自身に備わっていると思うものに○	どのように身につきましたか？【複数可】 1 子どもの頃の経験 2 学生時代の経験 3 社会人としての経験 4 家庭での経験 5 PTAでの経験 6 近所・地域での経験 7 地域子ども教室での経験 8 放課後子ども教室での経験 9 地域・放課後子ども教室の研修 10 その他の研修 11 その他
1 的確な子ども観や子どもへの接し方についての理念や理論			
2 クレームやトラブルに対して、事態を冷静に受け止められる資質			
3 問題や課題に対して臨機応変に対応を考えられる資質			
4 相手の本音や悩みを引き出したり、話し易い雰囲気のできる資質			
5 自分の意見、主張やお願いを相手に的確に伝えられる資質			
6 記録・報告文書や経理・集計表などをまとめる能力			
7 アピール性や説得力のある文書やポスターなどを作成する能力			
8 事業や活動のビジョン(「放課後子ども教室」のあり方等)を示す資質			
8 事業に関わるメンバーの心構えなど組織としてのあり方を示す資質			
9 利用者や顧客(教室では子どもや保護者)の立場からも考えられる資質			
10 ビジョンやあり方に照らして、定期的に問題や課題を認識して、改善を加えていける資質			
11 事業に関わるメンバー個々の意見や悩み、本音などを聞く資質			
12 事業に関わるメンバー個々の意見や要望を踏まえながら、調整して全体をうまくまとめられる資質			
13 事業に関わるメンバー個々の個性や持ち味を引き出して教室運営などに活かすことのできる資質			

	コーディネーターとして必要と思われる項目に○	コーディネーターとして必要で、かつあなた自身に備わっていると思うものに○	どのように身につきましたか？【複数可】 1 子どもの頃の経験 2 学生時代の経験 3 社会人としての経験 4 家庭での経験 5 PTAでの経験 6 近所・地域での経験 7 地域子ども教室での経験 8 放課後子ども教室での経験 9 地域・放課後子ども教室の研修 10 その他の研修 11 その他
14 メンバー以外の地域の人々にも呼びかけ、協力を依頼して教室運営などに活かすことのできる資質			
15 その他、必要と思われる資質、能力① []			
16 その他、必要と思われる資質、能力② []			

15. “放課後子ども教室等”のコーディネーターとして、もっとも重要な資質、能力は何だとお考えですか？ 前の問14で挙がっていない資質、能力でも構いませんので下にご記入下さい。また、そのような資質、能力はどのように身につけることが望ましいでしょうか？

VI. コーディネーターへの研修について

16. 1～21のうち、“放課後子ども教室等”のコーディネーターとしてあなたが受講した研修で取り上げられた内容に○をつけ、よかった点、充実を望む点もご記入下さい。

*取り上げられなかったが、研修が必要と思う点については、次の問17でお答え下さい。

(研修で取り上げられたものに「○」をつけ、よかった点、充実を望む点をご記入下さい)

	取り上げられた項目に○	よかった点	充実を望む点
1 放課後対策に関する概論について			
2 「放課後子ども教室」・「放課後児童クラブ」の連携方策について			
3 生涯学習や社会教育に関する概論について			
4 青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて			
5 子育てを取り巻く現状などについて			
6 様々な地域の“放課後子ども教室等”の取り組み事例について			
7 自市区町村内での“放課後子ども教室等”の実践例について			

	取り上げられた項目に○	よかった点	充実を望む点
8 子どもへの接し方や叱り方などについて			
9 遊びや体験活動の技術について			
10 活動プログラムの立案・作成について			
11 子どもの安全管理と防犯などの安全対策について			
12 けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて			
13 地域人材の確保策等について			
14 体験活動のフィールドや受け入れ施設等について			
15 ボランティア活動に関する概論について			
16 障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について			
17 人権について			
18 いじめの発見、対応について			
19 コミュニケーションや対人関係スキルについて			
20 事務処理、経理・労務管理などについて			
21 広報等の文書作成、プレゼンテーションなどについて			

17. 研修内容について、今後、充実や新設が必要と考える内容についてご記入下さい。

(充実あるいは新設が必要と考えるものに「○」を付け、充実、新設の理由や要点を記入下さい)

	新設が必要な項目に○	充実や新設が必要な理由や、充実、新設の要点などを記入下さい
1 放課後対策に関する概論について		
2 「放課後子ども教室」・「放課後児童クラブ」の連携方策について		
3 生涯学習や社会教育に関する概論について		
4 青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて		
5 子育てを取り巻く現状などについて		
6 様々な地域の「放課後子ども教室等」の取り組み事例について		
7 自市区町村内での「放課後子ども教室等」の実践例について		
8 子どもへの接し方や叱り方などについて		

	新設が必要な項目に○	充実や新設が必要な理由や、充実、新設の要点などをご記入下さい
9 遊びや体験活動の技術について		
10 活動プログラムの立案・作成について		
11 子どもの安全管理と防犯などの安全対策について		
12 けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて		
13 地域人材の確保策等について		
14 体験活動のフィールドや受け入れ施設等について		
15 ボランティア活動に関する概論について		
16 障害のある児童や配慮を要する児童についての理解や対応について		
17 人権について		
18 いじめの発見、対応について		
19 コミュニケーションや対人関係スキルについて		
20 事務処理、経理・労務管理などについて		
21 広報等の文書作成、プレゼンテーションなどについて		

18. コーディネーターとして活動しておられて、下のような点で不安や不満がありますか。

(あてはまる番号に「○」をつけて下さい【複数可】)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 スポーツ・文化教室の講師の確保 | 2 学習指導者の確保 |
| 3 活動スペースの確保 | 4 教室スタッフの確保、養成 |
| 5 特別な配慮を要する児童への対応 | 6 児童の安全確保 |
| 7 保護者の参加、協力 | 8 学校の連携、協力 |
| 9 地域の連携、協力 | 10 苦情対応 |
| 11 自治体の支援 | 12 コーディネーター間の連携・情報交換 |
| 13 その他〔不安、不満な点は？ _____〕 | |

19. その他、コーディネーター等の人材確保や育成、研修などにつきましてご意見やご提案がありましたら、自由にご記入をお願い致します。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。FAXでご返信をお願い致します。

2. 市区町村対象アンケート調査票

A. 市区町村調査

平成19年度 文部科学省「放課後対策に関する調査研究（コーディネーター等の資質向上方策）」
“放課後子ども教室等”コーディネーターの確保、研修等についてのアンケート調査

本アンケート調査について

締め切り	2007年11月9日（金）までに回答をご送付下さい
回答送付方法について	① 郵送によるご返送 → 同封の返信用封筒にてご返送下さい。 ② FAXによるご返信 → 弊社宛て、ご返信下さい（03-3811-5157）。
お問い合わせ先	株式会社 開発計画研究所 担当：吉塚・田中・二階堂 〒112-0002 東京都文京区小石川1-2-4 東洋ビル TEL：03-3811-5119 FAX：03-3811-5157

※ アンケートに記載いただいた情報は、本調査以外には使用いたしません。

I. ご記入いただいている方について

ご氏名			
所属先	貴組織名	所属部署	
	所在地	〒	
	TEL	— —	FAX — —
	Mail		

II. 貴市区町村での「総合的な放課後対策（放課後子どもプラン）」全般について

1. 貴市区町村での、「総合的な放課後対策」の事業名を教えてください。

「総合的な放課後対策」の事業名

2. 貴市区町村での、“放課後子ども教室等事業（全児童対象の放課後対策）”の実施状況を教えてください。（あてはまる番号、一つに「○」をつけ、数値【概数でも可】をご記入下さい）

1 全小学校区で実施している

→ [全小学校区数 () 校区、教室実施数() 教室]

2 全小学校区での実施には到っていない

→ [教室実施小学校区数() 校区、教室実施数() 教室、全小学校区数() 校区]

III. 貴市区町村での“放課後子ども教室等”のコーディネーターについて

3. 下記の参考に示すような「コーディネーター」についてお尋ね致しますが、貴市区町村での“放課後子ども教室等事業（全児童対象の放課後対策）”において、このような役割を担われるのはどなたですか？

（あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい）

1 コーディネーター 2 「コーディネーター」以外の方 → [呼称は？ _____]

（参考）「コーディネーター」とは：文部科学省「放課後子ども教室推進事業等実施要綱」より・市町村（特別区を含む）は、各小学校区毎に、放課後対策事業の「総合的な調整役」を担う者（以下「コーディネーター」という。）を配置する

・コーディネーターは、本事業（「放課後子ども教室推進事業」）と放課後児童クラブとの連携についての調整を図ることのほか、保護者等に対する参加の呼びかけ、学校や関係機関・団体等との連絡調整、地域の協力者の確保・登録・配置、活動プログラムの企画等を行なうこと

4. “コーディネーター等(問3回答の1または2のスタッフ)”はどのように確保されましたか
(あてはまる番号に「○」(複数可)をつけ、右欄に数値[概数でも可]をご記入下さい)

1 公募	→	[全体の()%程度]
2 地域や学校などからの推薦をもとに貴市区町村から依頼	→	[全体の()%程度]
3 推薦なしで貴市区町村から依頼	→	[全体の()%程度]
4 その他→[どのように? _____]	→	[全体の()%程度]

5. “コーディネーター等”の募集や依頼の際に、資格や職務経験などの条件を設けていますか
(あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい)

1 条件を設け、明記している	→	左で1または2に○をつけた方は下の問5-1)にもお答え下さい														
2 明記はしていないが、考慮する条件がある	→	5-1) 下のうち条件とする資格や経験等に「○」(複数可)をつけて下さい														
		<table border="0"> <tr> <td>1 教諭・教員</td> <td>2 保育士</td> </tr> <tr> <td>3 放課後児童指導員</td> <td>4 学芸員</td> </tr> <tr> <td>5 社会教育主事</td> <td>6 児童福祉司</td> </tr> <tr> <td>7 民生委員</td> <td>8 生涯学習インストラクター</td> </tr> <tr> <td>9 公務員(行政職)</td> <td>10 学習塾、幼児教室等講師</td> </tr> <tr> <td>11 スポーツクラブ等指導者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 その他[_____]</td> <td></td> </tr> </table>	1 教諭・教員	2 保育士	3 放課後児童指導員	4 学芸員	5 社会教育主事	6 児童福祉司	7 民生委員	8 生涯学習インストラクター	9 公務員(行政職)	10 学習塾、幼児教室等講師	11 スポーツクラブ等指導者		12 その他[_____]	
1 教諭・教員	2 保育士															
3 放課後児童指導員	4 学芸員															
5 社会教育主事	6 児童福祉司															
7 民生委員	8 生涯学習インストラクター															
9 公務員(行政職)	10 学習塾、幼児教室等講師															
11 スポーツクラブ等指導者																
12 その他[_____]																
3 資格や職務経験などは問わない	→	左で3に○をつけた方は下の問5-2)にもお答え下さい														
		5-2) 資格や職務経験などは問わないが、選任に当たり重視する活動経験等がありましたら、下から選び「○」(複数可)をつけて下さい														
		<table border="0"> <tr> <td>1 PTA活動</td> <td>2 町会活動</td> </tr> <tr> <td>3 学校教育活動</td> <td>4 社会教育活動</td> </tr> <tr> <td>5 地域の子どもの関わり</td> <td>6 社会福祉活動</td> </tr> <tr> <td>7 地域の世話・相談役</td> <td>8 会社、商店経営</td> </tr> <tr> <td>9 行政での活動</td> <td>10 行政に関わる活動</td> </tr> <tr> <td>11 その他[_____]</td> <td></td> </tr> </table>	1 PTA活動	2 町会活動	3 学校教育活動	4 社会教育活動	5 地域の子どもの関わり	6 社会福祉活動	7 地域の世話・相談役	8 会社、商店経営	9 行政での活動	10 行政に関わる活動	11 その他[_____]			
1 PTA活動	2 町会活動															
3 学校教育活動	4 社会教育活動															
5 地域の子どもの関わり	6 社会福祉活動															
7 地域の世話・相談役	8 会社、商店経営															
9 行政での活動	10 行政に関わる活動															
11 その他[_____]																

6. 貴市区町村として望むコーディネーターに向いていると思われるタイプを、下記の1~12より3つ選び○をつけて下さい

(あてはまる番号、【三つ】に「○」をつけて下さい)

1 地域でつきあいが広い	2 学校に対する発言力がある
3 子ども相手の仕事や活動を経験している	4 地域のために献身的に尽くしてくれる
5 面倒見がよく人から頼られる(親分肌である)	6 大人に好かれる
7 子どもの教育に情熱がある	8 子どもに好かれる、慕われる
9 対人的な交渉能力に優れている	10 経営感覚に優れている
11 事務処理能力に優れている	12 行政の仕事経験や行政職務への理解がある
13 その他[_____]	

7. “放課後子ども教室等”の運営に関わる以下のような業務について、コーディネーターと他の教室スタッフとの間での実務上の役割分担を教えてください（*教室次第で“まちまち”である場合は、傾向として比較的多いと思われるものに○をお願い致します）。

（①～⑯の項目それぞれについて、右欄のいずれか一つに「○」をつけて下さい）

	1 コーディ ネーターが 主担当	2 コーディ ネーター 以外の教 室スタッ フが主担 当	3 コーディ ネーター も他のス タッフも同 等に担当	4 教育委 員会等行 政が主担 当	5 その他 *()内に主 担当を記入
①地域の方への協力依頼、動員要請					()
②学校との折衝、協力依頼					()
③行政との折衝					()
④子どもの遊びや体験活動の日常的対応					()
⑤子どもへの学習支援の日常的対応					()
⑥安全管理					()
⑦子どもへのしつけやきまりの徹底					()
⑧保護者への日常的な対応、連絡					()
⑨保護者からの要望、苦情への対応					()
⑩教室活動の日常的な記録文書作成					()
⑪子ども向けの教室内掲示物や文書作成					()
⑫保護者への日常的な連絡・報告文書作成					()
⑬放課後教室等への児童の登録・参加呼びかけ文書作成					()
⑭行政、学校等への連絡・報告文書作成					()
⑮保護者、地域等への教室への理解、協力呼びかけ文書作成					()
⑯行政、学校等への提案・要望文書作成					()

8. 貴市区町村の“コーディネーター等”の方で、全国での「放課後子どもプラン」充実のためのコーディネーター等の人材確保や資質向上を図る上で、モデルとなるような方がいらっしゃいますか。

（あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい）

1 モデル的なコーディネーター等がいる	2 モデル的なコーディネーター等はいない
3 わからない	4 その他 [_____]

IV. コーディネーター等を対象とした研修について

9. 貴市区町村では、“コーディネーター等”を対象とした研修を実施していますか
(あてはまる番号、一つに「○」をつけ、以下は、下の指示に沿って回答をお願いします)

- 1 自市区町村でコーディネーター等対象研修を実施している
- 2 自市区町村ではコーディネーター等対象研修を実施していない

→* 問9で「2 自市区町村では研修を実施していない」とご回答の方は、下の9-1)にお答えいただいて、最終頁の間13～間15にお進み下さい。

9-1): 研修を実施していない理由を下から選び「○」(複数可)をつけて下さい

- 1 自市区町村での研修が必要とは考えるが、研修を実施する体制が整っていない
- 2 都道府県が実施している研修を受けてもらう
- 3 コーディネーター等に対して研修は必要ない(例: 研修で伝える内容はすでに理解してくれている、研修が必要な人ではコーディネーターは務まらない)
- 4 コーディネーター等の主たる役割や活動内容は研修で伝えられるものではない
(例: 個別に説明や依頼を行なう、担当教室での実地指導、助言を行なう)
- 5 地域や教室の事情が様々であり、研修よりも、日常的な相談やサポート体制など、個別の課題や問題に対応できる体制を重視している
- 6 その他 [_____]

→* 問9で「1 自市区町村で研修を実施している」とご回答の方は、下をお読みいただいて、問10、問11、問12にご回答をお願いします。

- ◆ 問10～問12は、貴市区町村で実施しているコーディネーター等研修についてお尋ねします。
- ◆ 下のような、貴市区町村で実施しているコーディネーター等研修についての資料のうち、ご提供いただけるものがありましたら当アンケート票に添えてご提供をお願いします。
 - ・ 研修計画 (独立した資料でなく、事業全体の計画書、しおりなどの一部でも構いません)
 - ・ 研修報告 (上と同様です)
 - ・ 研修についての調査結果、報告書、レポートなど (上と同様です)

10. 研修の計画及び実施・運営はどちらの組織で行なっていますか。

(A. Bそれぞれについて、あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい)

A. 研修の計画	B. 研修の実施・運営
1 行政で計画する	1 行政が実施・運営する
2 行政と研修実施・運営委託機関とで計画する	2 行政と委託機関とで実施・運営する
3 研修実施・運営委託機関で計画する	3 委託機関で実施・運営する
4 その他 [_____]	4 その他 [_____]

11. 研修の時間、回数、研修開催月について、下にご記入下さい

A. 一回当たりの研修時間と回数	B. 研修開催月
()分または()時間 × ()回	()月()月()月()月または()月～()月

12. コーディネーター等対象研修の内容について、実施状況(計画も含む)を教えてください
 (1~20のうち、実施している研修課題で、主要研修課題には「○」、副次的な研修課題には「△」
 を記入し、研修形態の欄に該当番号、特徴的内容・プログラムの欄には概要をご記入下さい)

	実施している 研修課題 * 主要研修 課題には○ * 副次的な研 修課題には△	研修形態 * 番号記入 1 講義 2 演習 3 見学 4 実習 5 その他	特徴的な内容、プログラム * 貴市区町村として、特徴的な内 容、プログラムといえる項目につい ては、その概要をご記入下さい
1 放課後対策に関する概論について			
2 生涯学習や社会教育に関する概論 について			
3 青少年を取り巻く現状や青少年の 心理などについて			
4 子育てを取り巻く現状などについ て			
5 様々な地域の“放課後子ども教室 等”の取り組み事例について			
6 自市区町村内での“放課後子ども教 室等”の実践例について			
7 子どもへの接し方や叱り方などに ついて			
8 遊びや体験活動の技術について			
9 活動プログラムの立案・作成につい て			
10 子どもの安全管理と防犯などの安 全対策について			
11 けがや事故に対する応急処置や初 動対応などについて			
12 地域人材の確保策等について			
13 体験活動のフィールドや受け入れ 施設等について			
14 ボランティア活動に関する概論に ついて			
15 障害のある児童や配慮を要する児 童についての理解や対応について			
16 人権について			
17 いじめの発見、対応について			
18 コミュニケーションや対人関係ス キルについて			
19 事務処理、経理・労務管理などに ついて			
20 広報等の文書作成、プレゼンテー ションなどについて			

* 以下の問 13～問 15 は、すべての方にご回答をお願い致します。

13. コーディネーター等の認識、技能、資質などとして、その保持や充実に努めるべきと思われる点がありましたら、研修として取り上げるか否かに関係なく、ご記入をお願い致します。

14. コーディネーターからの個別の相談対応やサポート体制について教えてください

A. 教育委員会等行政での相談対応、サポート体制(例:放課後教室相談員による個別対応など)

B. 地域での相談対応、サポート体制(例:放課後教室地域サポートセンターによる対応など)

C. 学校での相談対応、サポート体制(例:放課後教室地域サポートセンターへの学校長の参加など)

D. その他の相談対応、サポート体制

15. その他、コーディネーター等の人材確保や育成、研修などにつきましてご意見やご提案がありましたら、自由にご記入をお願い致します。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

3. 都道府県対象アンケート調査票

B. 都道府県調査

平成 19 年度 文部科学省「放課後対策に関する調査研究（コーディネーター等の資質向上方策）」
“放課後子ども教室等” コーディネーターの確保、研修等についてのアンケート調査

本アンケート調査について	
締め切り	2007年11月9日（金）までに回答をご送付下さい
回答送付方法について	① 郵送によるご返送 → 同封の返信用封筒にてご返送下さい。 ② FAXによるご返信 → 弊社宛て、ご返信下さい（03-3811-5157）。
研修に関する資料提供のお願い	下のような、貴都道府県で実施しているコーディネーター等研修についての資料のうち、ご提供いただけるものがありましたら当アンケート票に添えてご提供をお願い致します。 ・研修計画（独立した資料でなく、事業全体の計画書、しおりなどの一部でも構いません） ・研修についての調査結果、報告書、レポートなど（上と同様です）
お問い合わせ先	株式会社 開発計画研究所 担当：古塚・田中・二階堂 〒112-0002 東京都文京区小石川1-2-4 東洋ビル TEL：03-3811-5119 FAX：03-3811-5157

※ アンケートに記載いただいた情報は、本調査以外には使用いたしません。

I. ご記入いただいている方について

ご氏名			
所属先	貴組織名	所属部署	
	所在地	〒	
	TEL	— —	FAX — —
	Mail		

II. 貴都道府県で実施している「放課後子ども教室」コーディネーターへの研修について

* 研修自体についてお尋ねする前に、研修内容やプログラムの方向づけに関わる、コーディネーターとして望まれる資質や役割、業務内容などについての基本的な考え方などについてお尋ね致します。

1. 貴都道府県では、「放課後子ども教室」のコーディネーターとして望まれる資質や役割、業務内容などに関わるガイドライン（基本指針）がありますか。

（あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい）

- | | |
|---|---|
| 1 | ガイドラインあるいはそれに類するものがあり公表している |
| 2 | 公表はしていないが明文化されたガイドラインあるいはそれに類するものがある |
| 3 | 明文化はしていないが「放課後子ども教室」担当者には共通的な認識がある |
| 4 | コーディネーターの資質や役割、業務内容についての都道府県としての共通認識はない |

2. 貴都道府県としてコーディネーターに向いていると思われるタイプを、下記の1~12より3つ選び○をつけて下さい

(あてはまる番号、【三つ】に「○」をつけて下さい)

1 地域でつきあいが広い	2 学校に対しての発言力がある
3 子ども相手の仕事や活動を経験している	4 地域のために献身的に尽くしてくれる
5 面倒見がよく人から頼られる(親分肌である)	6 大人に好かれる
7 子どもの教育に情熱がある	8 子どもに好かれる、慕われる
9 対人的な交渉能力に優れている	10 経営感覚に優れている
11 事務処理能力に優れている	12 行政の仕事経験や行政職務への理解がある
13 その他 [_____]	3.0

3. “放課後子ども教室等”の運営に関わる以下のような業務について、コーディネーターと他の教室スタッフとの間での実務上の役割分担を教えてください(*市区町村や教室によって“まちまち”である場合は、傾向として比較的多いと思われるものに○をお願い致します)。

(①~⑯の項目それぞれについて、右欄のいずれか一つに「○」をつけて下さい)

	1 コーディ ネーターが 主担当	2 コーディ ネーター 以外の教 室スタッフ が主担当	3 コーディ ネーター も他のス タッフも同 等に担当	4 教育委 員会等行 政が主担 当	5 その他 *()内に主 担当を記入
①地域の方への協力依頼、動員要請					()
②学校との折衝、協力依頼					()
③行政との折衝					()
④子どもの遊びや体験活動の日常的対応					()
⑤子どもへの学習支援の日常的対応					()
⑥安全管理					()
⑦子どもへのしつけやきままりの徹底					()
⑧保護者への日常的な対応、連絡					()
⑨保護者からの要望、苦情への対応					()
⑩教室活動の日常的な記録文書作成					()
⑪子ども向けの教室内掲示物や文書作成					()
⑫保護者への日常的な連絡・報告文書作成					()
⑬放課後教室等への児童の登録・参加呼びかけ文書作成					()
⑭行政、学校等への連絡・報告文書作成					()
⑮保護者、地域等への教室への理解、協力呼びかけ文書作成					()
⑯行政、学校等への提案・要望文書作成					()

4. 貴都道府県の“コーディネーター等”の方で、全国での「放課後子どもプラン」充実のためのコーディネーター等の人材確保や資質向上を図る上で、モデルとなるような方がいらっしゃいますか。 (あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい)

- 1 モデル的なコーディネーター等がいる 2 モデル的なコーディネーター等はいない
3 わからない 4 その他 [_____]

5. 研修の計画及び実施・運営はどちらの組織で行なっていますか。

(A、Bそれぞれについて、あてはまる番号、一つに「○」をつけて下さい)

A. 研修の計画	B. 研修の実施・運営
1 行政で計画する	1 行政が実施・運営する
2 行政と研修実施・運営委託機関とで計画する	2 行政と委託機関とで実施・運営する
3 研修実施・運営委託機関で計画する	3 委託機関で実施・運営する
4 その他 [_____]	4 その他 [_____]

6. 研修の時間、回数、研修開催月について、下にご記入下さい

A. 一回当たりの研修時間と回数	B. 研修開催月
(_____)分または(_____)時間 × (_____)回	(_____)月(_____)月(_____)月(_____)月または(_____)月～(_____)月

7. コーディネーター等対象研修の内容について、実施状況(計画も含む)を教えてください

(1～20のうち、実施している研修課題で、主要研修課題には「○」、副次的な研修課題には「△」を記入し、研修形態の欄に該当番号、特徴的内容・プログラムの欄には概要をご記入下さい)

	実施している 研修課題	研修形態	特徴的内容、プログラム
	* 主要研修 課題には○ * 副次的な研 修課題には△	* 番号記入 1 講義 2 演習 3 見学 4 実習 5 その他	* 貴都道府県として、特徴的な 内容、プログラムといえる項目に ついては、その概要をご記入下 さい
1 放課後対策に関する概論について			
2 生涯学習や社会教育に関する概論 について			
3 青少年を取り巻く現状や青少年の 心理などについて			
4 子育てを取り巻く現状などについ て			
5 様々な地域の“放課後子ども教室 等”の取り組み事例について			
6 自市区町村内での“放課後子ども教 室等”の実践例について			
7 子どもへの接し方や叱り方などにつ いて			
8 遊びや体験活動の技術について			
9 活動プログラムの立案・作成につい て			
10 子どもの安全管理と防犯などの安 全対策について			

	実施している 研修課題	研修形態	特徴的な内容、プログラム
	* 主要研修 課題には○ * 副次的な研 修課題には△	* 番号記入 1 講義 2 演習 3 見学 4 実習 5 その他	* 貴市区町村として、特徴的な 内容、プログラムといえる項目に ついては、その概要をご記入下 さい
11 けがや事故に対する応急処置や初 動対応などについて			
12 地域人材の確保策等について			
13 体験活動のフィールドや受け入れ 施設等について			
14 ボランティア活動に関する概論に ついて			
15 障害のある児童や配慮を要する児 童についての理解や対応について			
16 人権について			
17 いじめの発見、対応について			
18 コミュニケーションや対人関係ス キルについて			
19 事務処理、経理・労務管理などに ついて			
20 広報等の文書作成、プレゼンテー ションなどについて			

8. コーディネーター等の認識、技能、資質などとして、その保持や充実に努めるべきと思われる点がありましたら、研修として取り上げるか否かに関係なく、ご記入をお願い致します。

9. 市区町村教委やコーディネーター個人に対する、コーディネーターについての相談対応やサポート体制について教えて下さい

(例: 放課後教室相談員による個別対応など)

10. その他、コーディネーター等の人材確保や育成、研修などにつきましてご意見やご提案がありましたら、自由にご記入をお願い致します。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。